

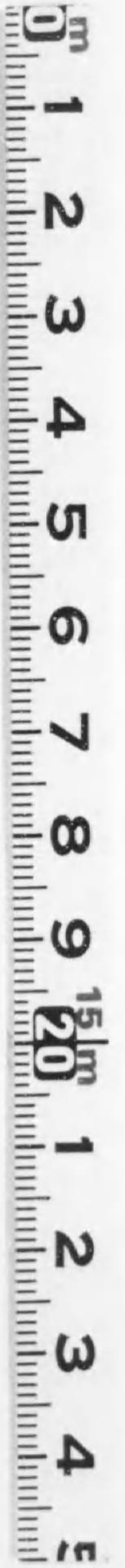
THE TOKYO
PEACE MEMORIAL EXHIBITION

特114

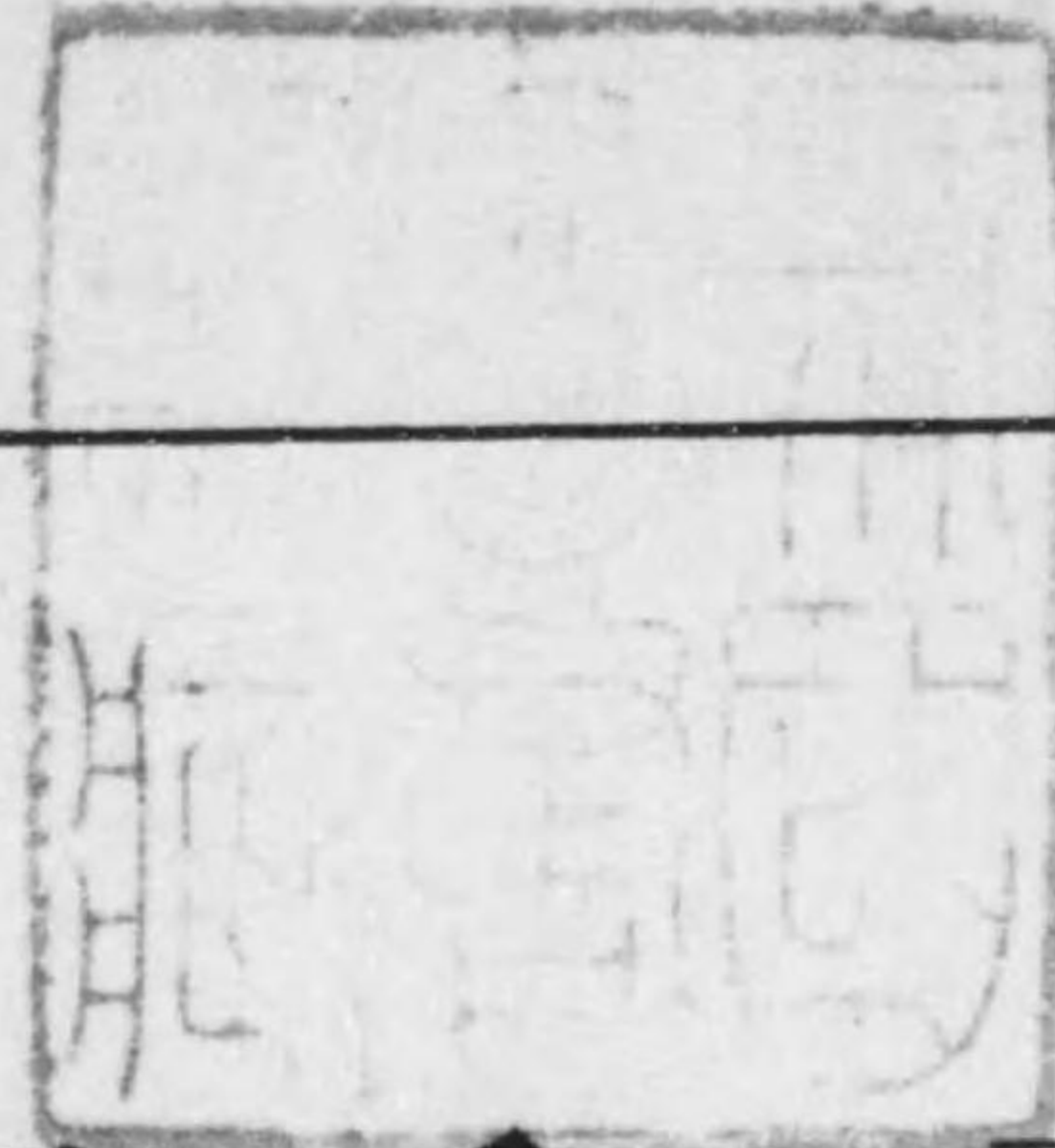
980



帖 真 寫 會 覽 博 京 東 念 慈 平



特114
980



念 記 和 平

帖 真 寫 會 覽 博 京 東

大正
11. 5. 18
內交

序言

帝都の一角上野公園一帶の地をトし、我國文化の精を集め、咲亂れたる櫻花と其の美を競ひつゝある平和記念東京博覽會は世界の平和を記念し併せて帝國産業の發展に資せんとの趣旨により東京府主催の下に六百萬圓の巨費を投じ、日本全國は云ふ迄もなく、遠く海外法諸聯盟國の賛同により空前の大規模によつて大正十一年三月十日より同年七月三十一日迄開催せられたり。

云ふ迄もなく本博覽會は世界平和の祝福と商工業の發展に資せんとの目的なれど、尙戰時、戰後に於ける我が國の進歩せる産業状態を天下に紹介し、以つて國力の發展向上を内外に知らしむると同時に、戰後に於ける經濟界の萎縮を回復せんとするを大主眼として開催せるものなり。

然して本博覽會場内諸設備の大なことは、場内一巡するに要する里程六里を算せらるゝを見るも了知せらるゝ處なれば、一朝一夕に遺憾なく見盡すべきは容易の事に非らざれば、本社は凡て實地に調査を遂げ最も親切に本博覽會の状況を紹介し、同時に世界文化の現況を會得せしめんと目的により本寫真帖を發行することゝなしたり、幸に世界平和の記念として本博覽會記念寫真帖を永久に所藏せらるゝを得ば大に本社の光榮とする處なり。

大正拾壹年四月

編者識

平和記念東京博覽會寫真帖目次

第一會場之部

- 一 上野公園前の柱列 同上夜の柱列
- 二 平和塔 同平和塔の夜景
- 三 第一會場正門 同上正門兩側にある福の神塑像
- 四 平和館
- 五 平和の女神、平和母神、柱塔、噴水
- 六 製作工業館正面入口
- 七 化學工業館正面入口
- 八 櫻花爛漫の第一會場
- 九 染織館
- 一〇 染織別館
- 一一 奏樂堂
- 一二 右第一會場奏樂堂。左第二會場奏樂堂
- 一三 建築館
- 一四 別圖は花壇中央にある雌蕊の精
- 一五 御園特設館、文具館、三共製藥會社特設館
- 一六 東京自治會館
- 一七 別圖東京市模型
- 一八 教育社會館
- 一九 第一會場東門、同裏門、博覽會事務局、會場案内所
- 二〇 蔬菜園藝館
- 二一 演藝館
- 二二 サンエス萬年筆休憩所、川崎工場出陳の劍龍と一角龍、第一消防派出所、コールテン館
- 二三 農産館
- 二四 博覽會場内施設
- 二五 赤十字社出張所、上野警察署出張所、博覽會郵便局、第三銀行出張所
- 二六 水産食料館
- 二七 美術館

- 二四 蠶糸館及衛生館
- 二五 ライオン休憩所、玉塚休憩所、天台宗休憩所、クラブ休憩所
- 二六 文化村の住宅
- 二七 南洋館、萬國街、ギリヤーク館、義士館
- 二八 花王休憩所、味の素食堂、サツポロビール食堂
キレー紙休憩所、

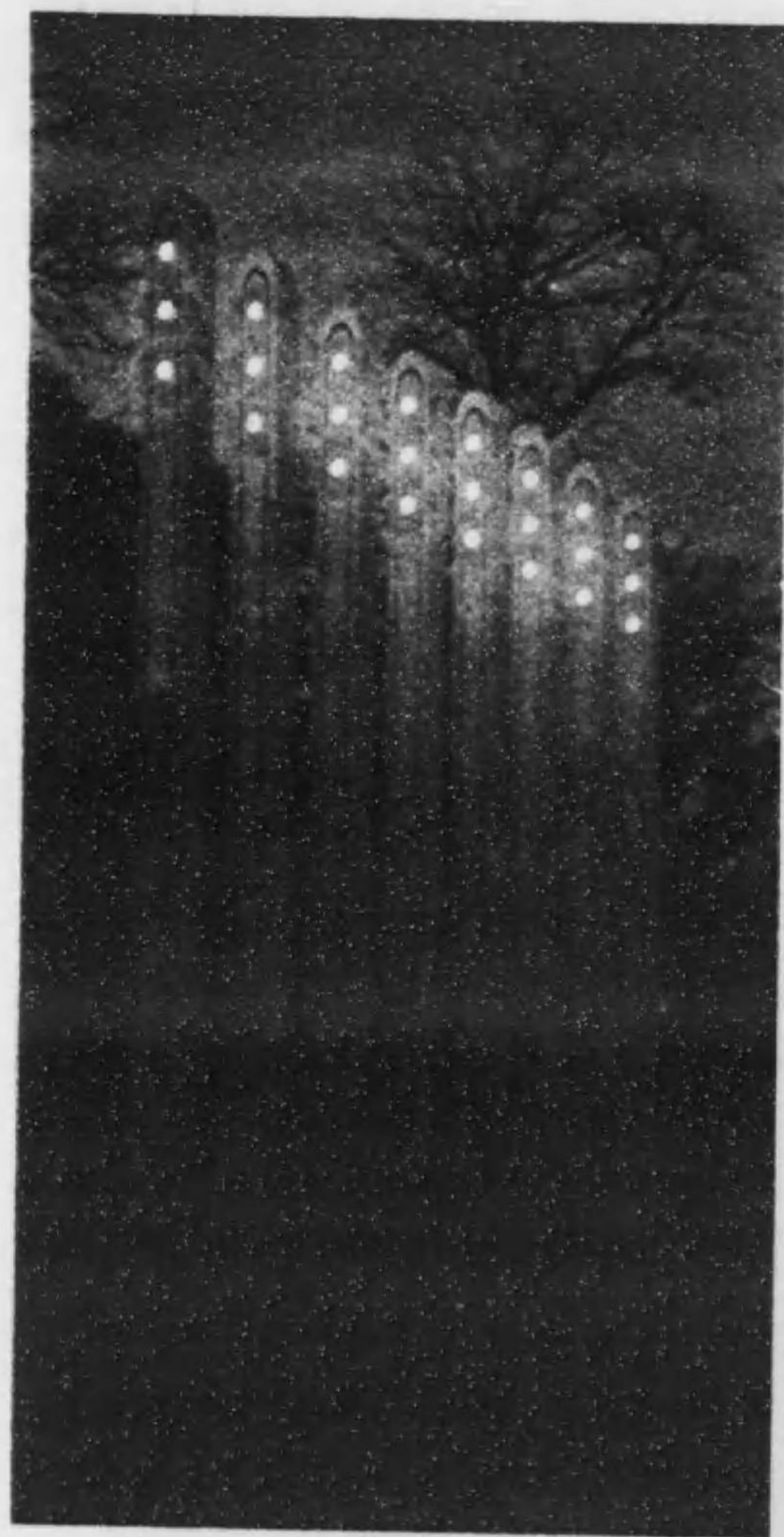
第二會場之部

- 二九 北海道館
- 三〇 樺太館
- 三一 附 西湖亭食堂、キリンビール倉堂、朝鮮館食堂
- 三二 滿蒙館
- 三三 朝鮮館
- 三四 第二會場夜景樺太館、臺灣館、サーチライトの美觀
- 三五 臺灣館
- 臺灣喫茶店、森永菓子店、青島廳休憩所
- 西洋軒食堂、
- 三六 外國館
- 三七 英國館
- 三八 外國館前庭園
- 三九 電氣工業館
- 四〇 住友館
- 四一 第二會場池塔 同夜の美觀
- 四二 機械動力館
- 四三 交通館
- 四四 航空館
- 四五 交通館 電話の發達、傳書鳩、航空館の飛行機、
水上飛行機
- 四六 鑛産館
- 四七 林業館
- 四八 つちや足袋の噴水塔、東京市賣店、名古屋賣店、
各地府縣の賣店

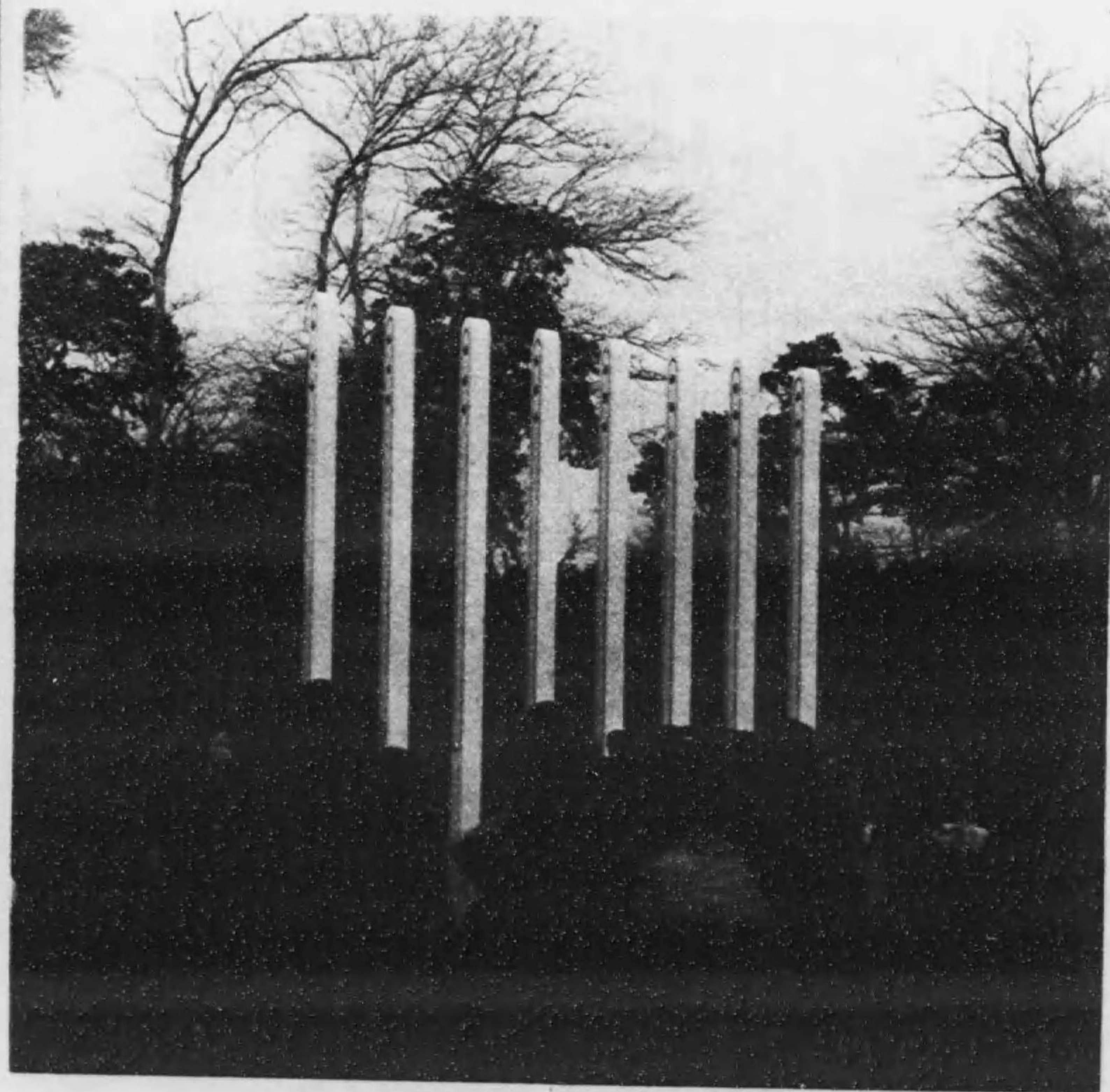
- 四五 交通館 電話の發達、傳書場、航空館の飛行機
- 四六 鑛産館
- 四七 林業館
- 四八 つちや足袋の噴水塔、東京市賣店、名古屋賣店、各地府縣の賣店

柱 列

上野公園正面石段前に八箇及び其左右に十五箇何れも白色の正方柱が建てられたもので、之れは平和博覽會を象徴する第一門である。本柱列の各柱には殊更に其の兩側面に紅色、青色、紫色等の電燈を取り付け、夜間は之れに點燈するものなれど、夜の美觀として寧ろ餘り光彩を放たぬ設計である。



景夜上阿

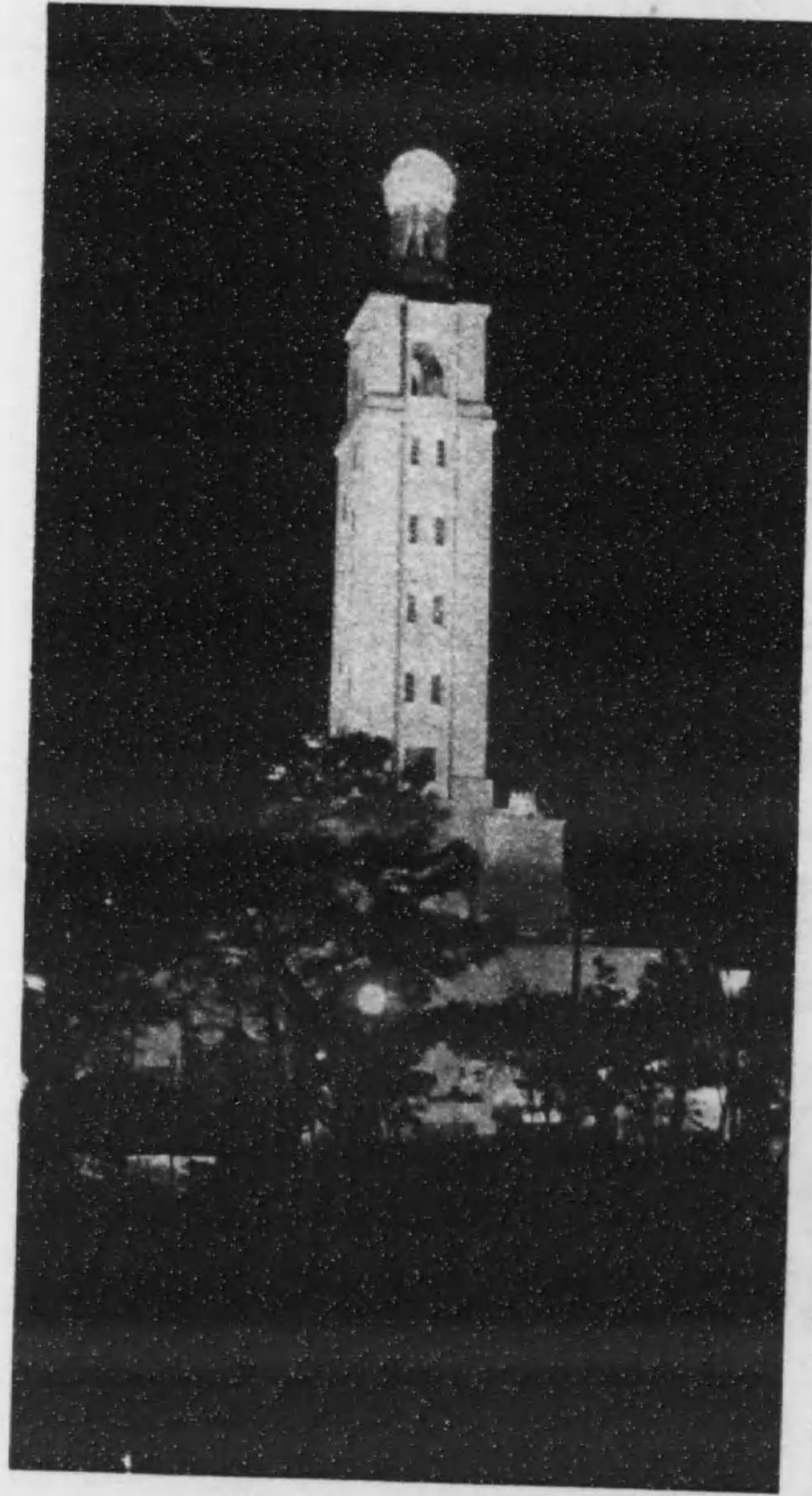


列柱の前園公野上

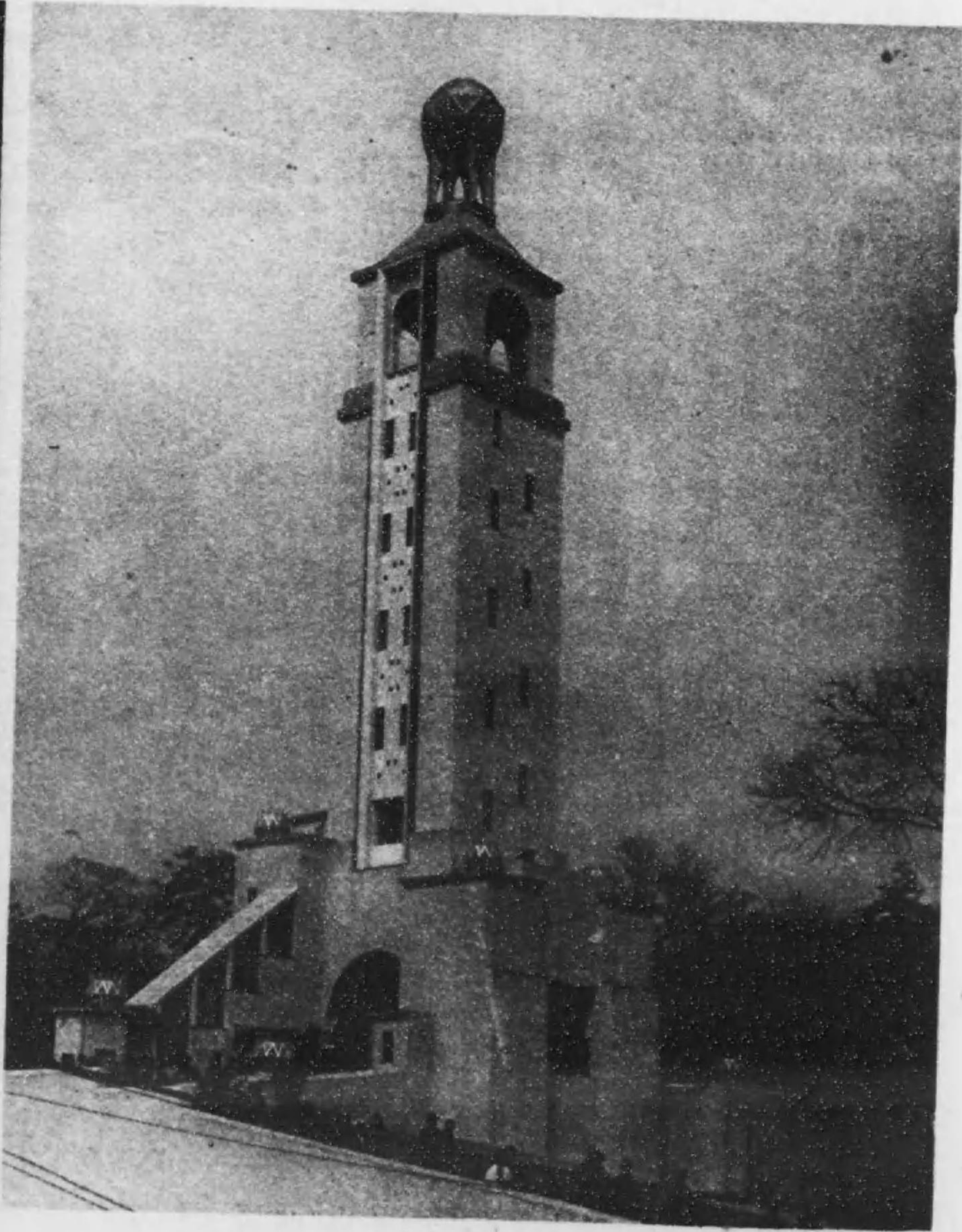
水上町行徳
 四六 産 館
 四七 林 業 館
 四八 つちや足袋の噴水塔、東京市賣店、名古屋賣店、
 各地府縣の賣店

平和塔

本塔は第一會場正門手前清水觀音堂裏手より池の端第二會場に通ずる特設道路の中央に空中高く建てられたもので、其の頂上に鐵筋疊玻璃張りのダイヤモンド型電燈を附け、全體を白色塗となし之れに淡紅色の色彩を施せるなど清快である。之れに對し池の西端に池塔を建てたるなど第二會場の美觀である。寫真別圖は夜の平和塔であるが晝間よりは電燈の應用により一層美觀を呈する。



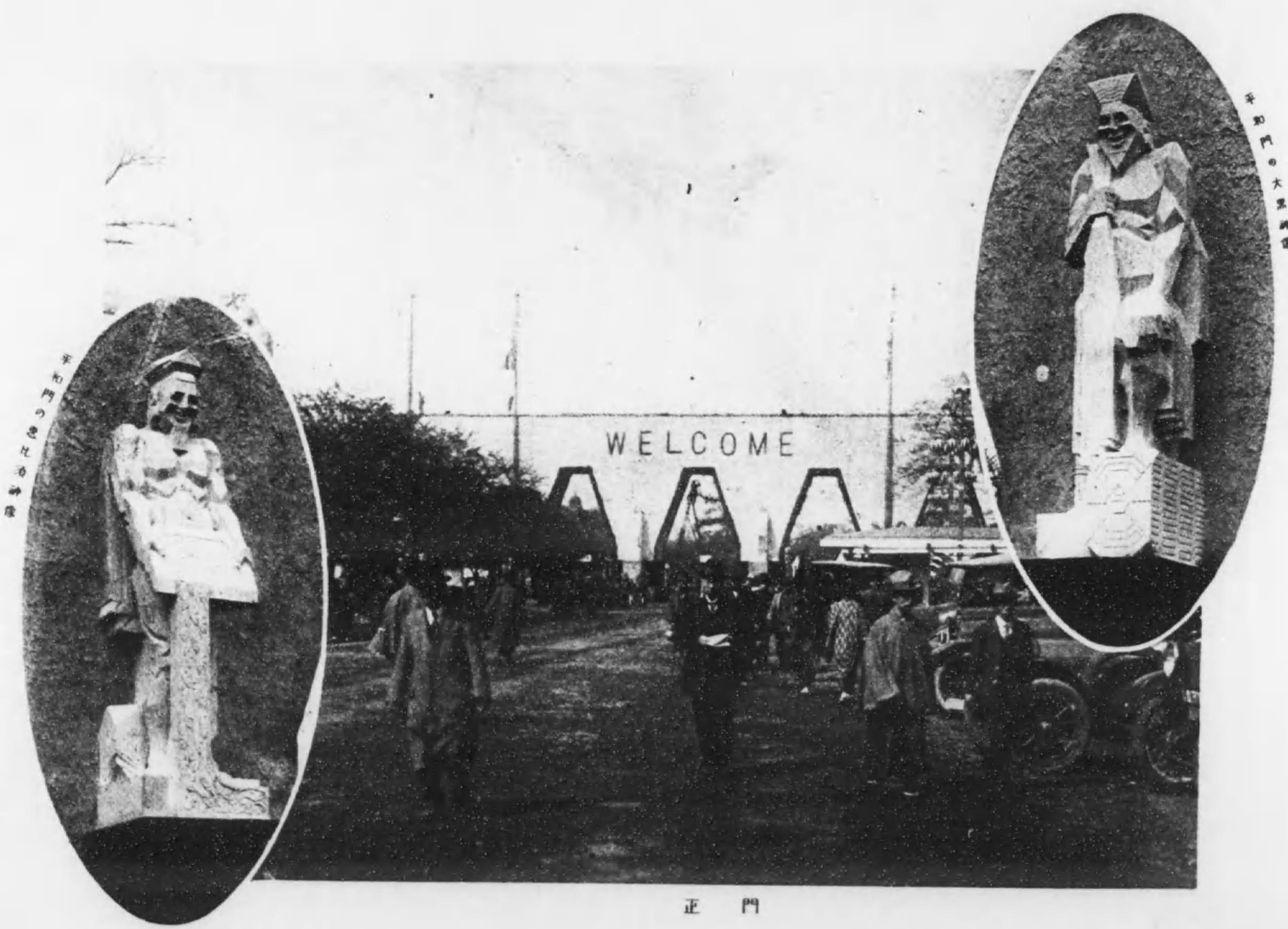
塔 和 平 の 夜



塔 和 平

正門

急々歩を進めて前方を眺むると突き當りが第一會場の正門である。此の門の入口左右に建てられたる塑像は斯界の大家堀進二氏の作として有名な恵比壽、大黒の立像で、之れは海と山との收穫を示したもので、即ち産業象徴の大福像として此の平和博を祝福したものである。別圖は左右にある塑像を主として撮影したるものにして彫刻の手腕大に見るべきものである。



正門

平和館

第一會場 正門の眞正面博物館正門の近くに見るからの好感を以つて建築せられたる特別館で、本館の正面高くには幸多かれと毎日開會と閉會とを告げ渡す平和の鐘が吊され、表立關左右には平和の神と稱せらるゝ女神の立像が神々しく立つて居る。本館は所謂平和博覽會の宣傳場で、場内には千三百人を容れらるゝ大講堂が設けられ、開期中各種の大會が開催せらるゝ豫定である。大會開催の場合は誰でも無料で入場が出来る。今參考迄に既定の講演會並に大會日割を記述すれば左の如くである。

四月一日 全國記者大會

四月五日 平和記念小問物化粧品同業大會

四月七日 全國齒科醫師懇親大會

四月八日 建築學會特別大會

四月十日 禁酒宣傳講演會

四月廿五日 日本建築會通俗講演會

五月十一日 全國旅館大會



館 和 平

平和の女神

本塑像は第一會場正門突當り、帝室博物館表門前
にある平和館正門入口の兩側に飾り付けられたる、世界
の平和を象徴する平和の女神である。

平和の母神

本塑像は平和館前にある長方形池の正面に南面して置
かれたるものにて、之も平和を象徴したる女神である。

柱塔

長方形池の兩側に建てられたる塔にして、其の上部に
は小兒の喜戯せる状を安置せり。

噴水

長方形池の中其の中央にある噴水で之は他の噴水と異
り清水のこんくとして湧出する様仲々の異観である。

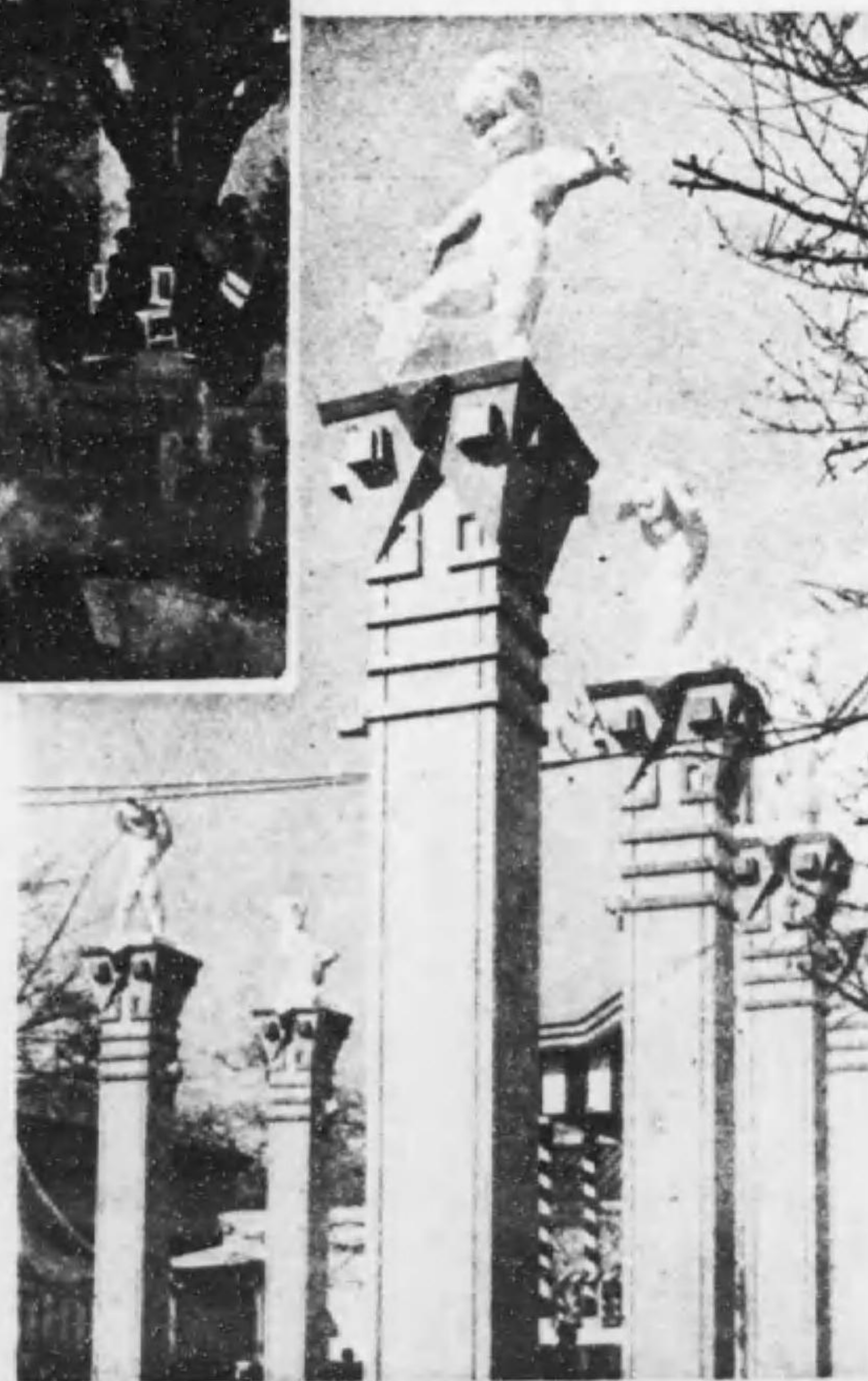
平和の記念像

平和の女神



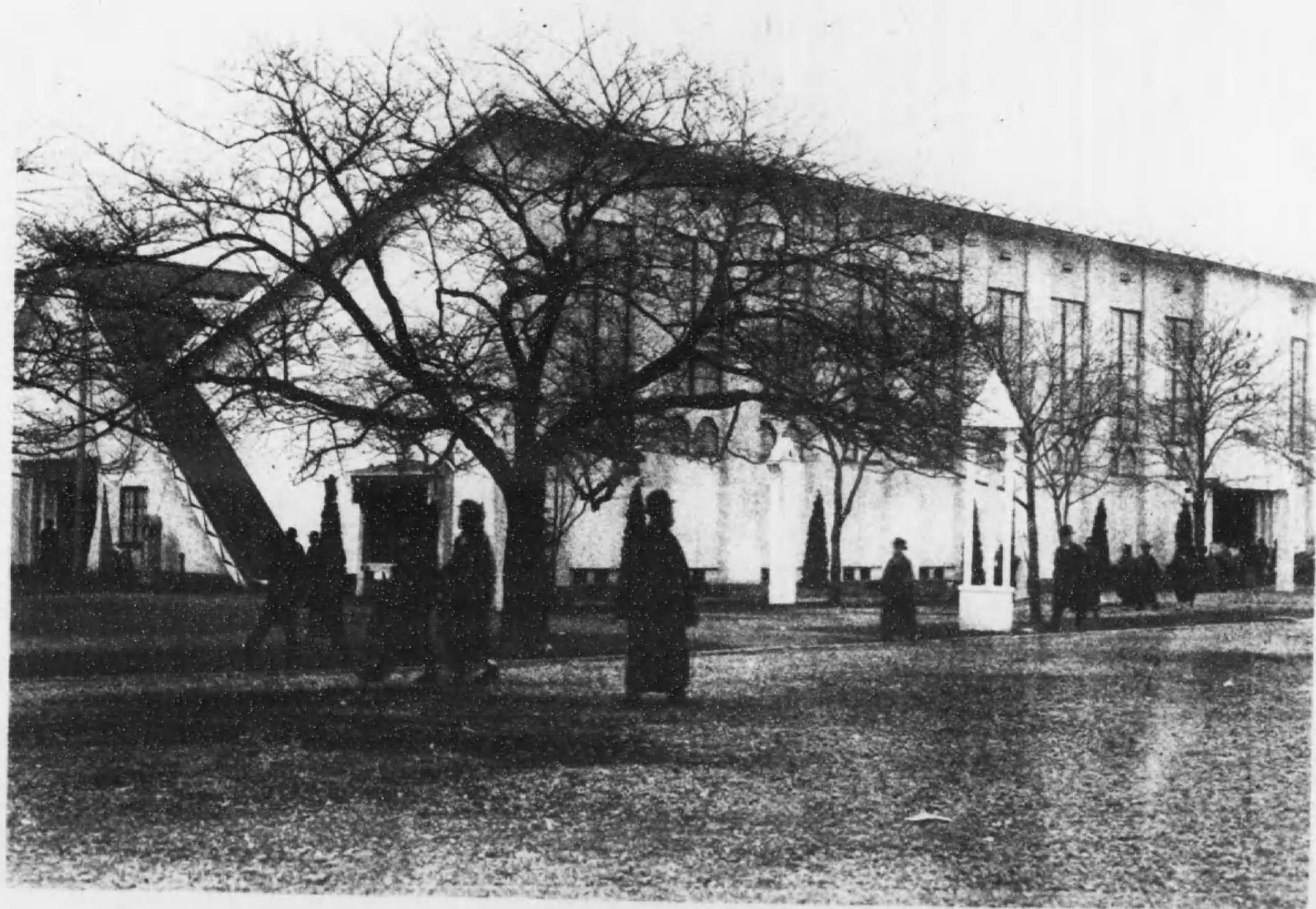
平和の女神

柱塔



製作工業館

正門を這入ると直ちに左手にある大建物である。本館は頗る色彩の華やかなもので境内には貴金屬製品や、装身具といったもの愛知静岡の漆器類が氣持ちよく並べられて各府縣から出品した日用品家具類も揃つてゐる。東京文具組合のお伽人形の愛らしく美しいのや、女の髪の毛から傘、下駄、シャツなど、デパートメントストア然として婦人子供の足を停まらせるに違ひない。瓦斯會社では地下室に瓦斯器具を並べて、瓦斯子嬢の夢を上部の鏡に映出する。この外宮城の埋木細工、奈良の竹細工、和歌山の黒江塗富山新瀨の金物細工など、何れも劣らぬ珍揃ひである。東京セルロイド組合では、セルロイドで作つた大理石かとも思はれる靴を出品してゐる。尙この館の代表的高價な出品であるのは、銀座の御木本商店で出品した價格三十二萬五千圓の眞珠の五重塔である高さ二尺全部眞珠とはいへ、その中の大玉二個を除く以外は、何れも養殖眞珠でありながら同店が世界に誇るだけあつて、頗る美麗のことは天然のものに比してその相違が發見されない。夜になると電氣仕掛けで地下の金庫に入るやうになつてゐる。



製 作 五 畫 館

化學工業館

本館は製作工業館と相對し、正門を入り右手にある獨逸近代式の分離派に則つたといふ變つた建物である。館内中央には大廻轉式玻璃塔を裝置し、高さは一丈二尺で左右へ廻轉し、見るから美しいものである。又中央大路にある香水塔が呼物で、塔の四隅から四人の女神は萬人一様に、抱へた壺から香水を分けてくれる。その他藥品陶磁器の類から大阪名古屋の硝子器具も上品に飾つてある。更に出口に接近して陳列されてある製粉製造の實演も見逃してはならない呼物である。



化學五堂館

櫻花爛熳の第一會場

本寫眞は四月十日時將に櫻花爛熳の候に本社寫眞技師獨特の美術的技術により、第一會場正門内正面よりと反對に平和館前附近より撮影したるものにて、如何に櫻花在博覽會場に自然の美を添へたりしかを想像するに餘りあらん。今や旬日にして英皇太子を迎へ奉らんとする本博覽會々場も此代表的國華により定めて國賓を歓迎することであらう。



(一) 場舎一帯の漫園花壇



(二) 場舎一帯の漫園花壇

染織館

工業館の隣が染織館である。婦人の眼を細くさせるやうな反物が澤山、全国各地の織物はピンから切りまで縮柄珍品が盛澤山に陳列されてある。其他各府縣の織物組合が御自慢の特産品を並べて、十日目毎に代へて見せるとのことである。この館で目に留るのは、千住製絨所から出品した細羊の毛から製品になるまでの順序を、實物と作業状態と連絡して、油繪で書いたものである。

こゝは一見大呉服店と云つた形である。



津 鐵 館

榮 鐵 館

工業館の隣に榮鐵館である。被人の如き味くらせる

染織別館

第一會場内で内容の美しいのは本館が第一で、特に婦人子供の眼を喜ばせること、思はれる。本館は化学工業館と並べ立てられたもので、此の館に陳列されたものは市内一流の大呉服店が趣向と粋をこらしたもののだけに目覺しい競争が偲ばれる。

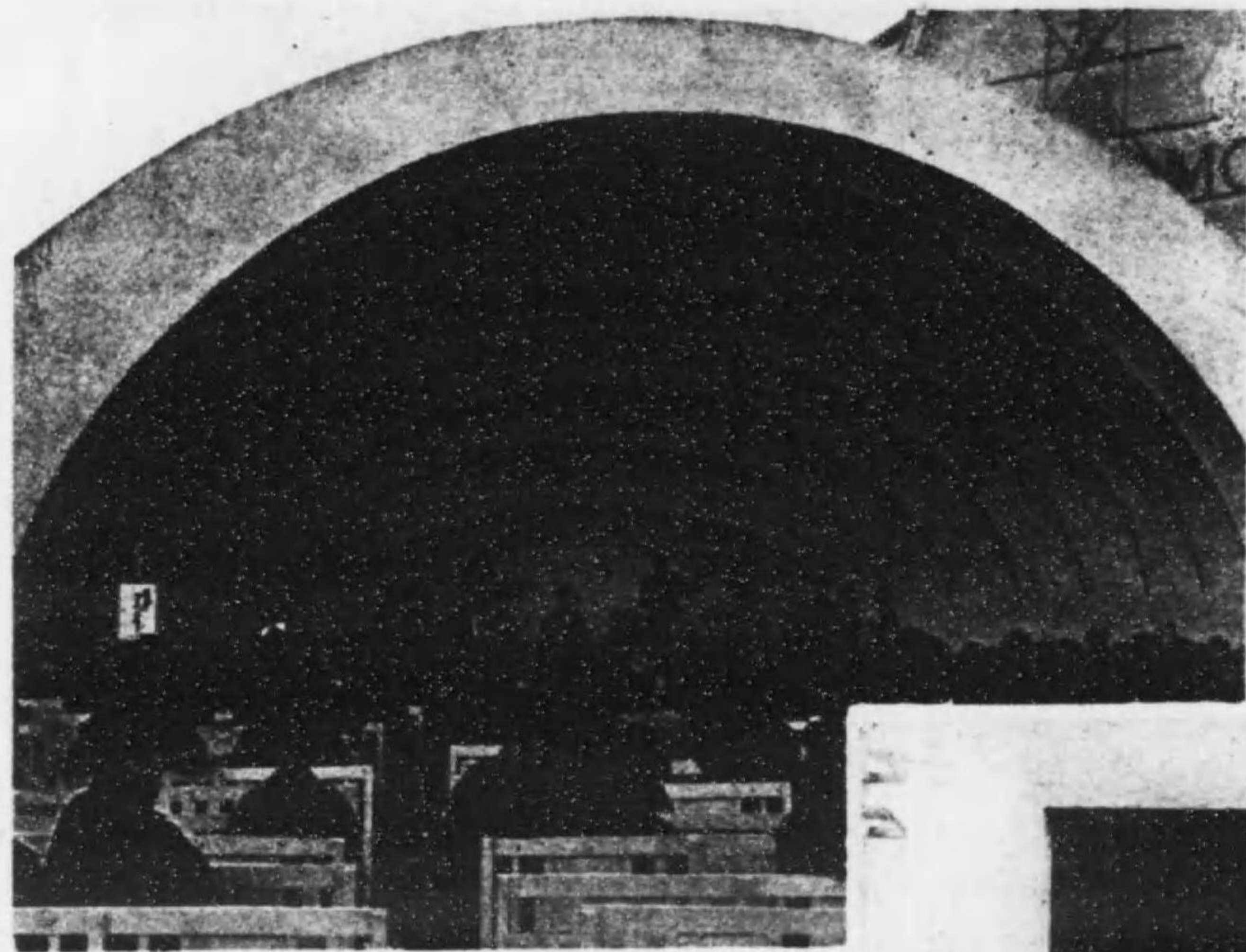
入口の右手にある御殿造りは三越の出品で綺羅びやかな人形と衣裳の感じもよく、貴族家庭の音楽會を見せた模様、高島屋は立派な家庭のダンスを見せた様子、白木屋は文化村をその儘持ち込んだと思はれる背景の油繪に傍には水車が廻り春衣の姿整々たる美人が人目を惹く。其他松屋、松坂屋が何れも店の飾窓を更に美化した出品も、地方人の目を驚かす一つに相違ない。尙伊勢丹や人形町の小川屋が「踊りの前」や「幕合」等の飾り人形を出したのは、頭の使ひ所を違へた飾りつけで、大呉服店に對する觀物である、實に百花燎亂の美觀を呈してゐるのはこの館に限られてゐる様である。



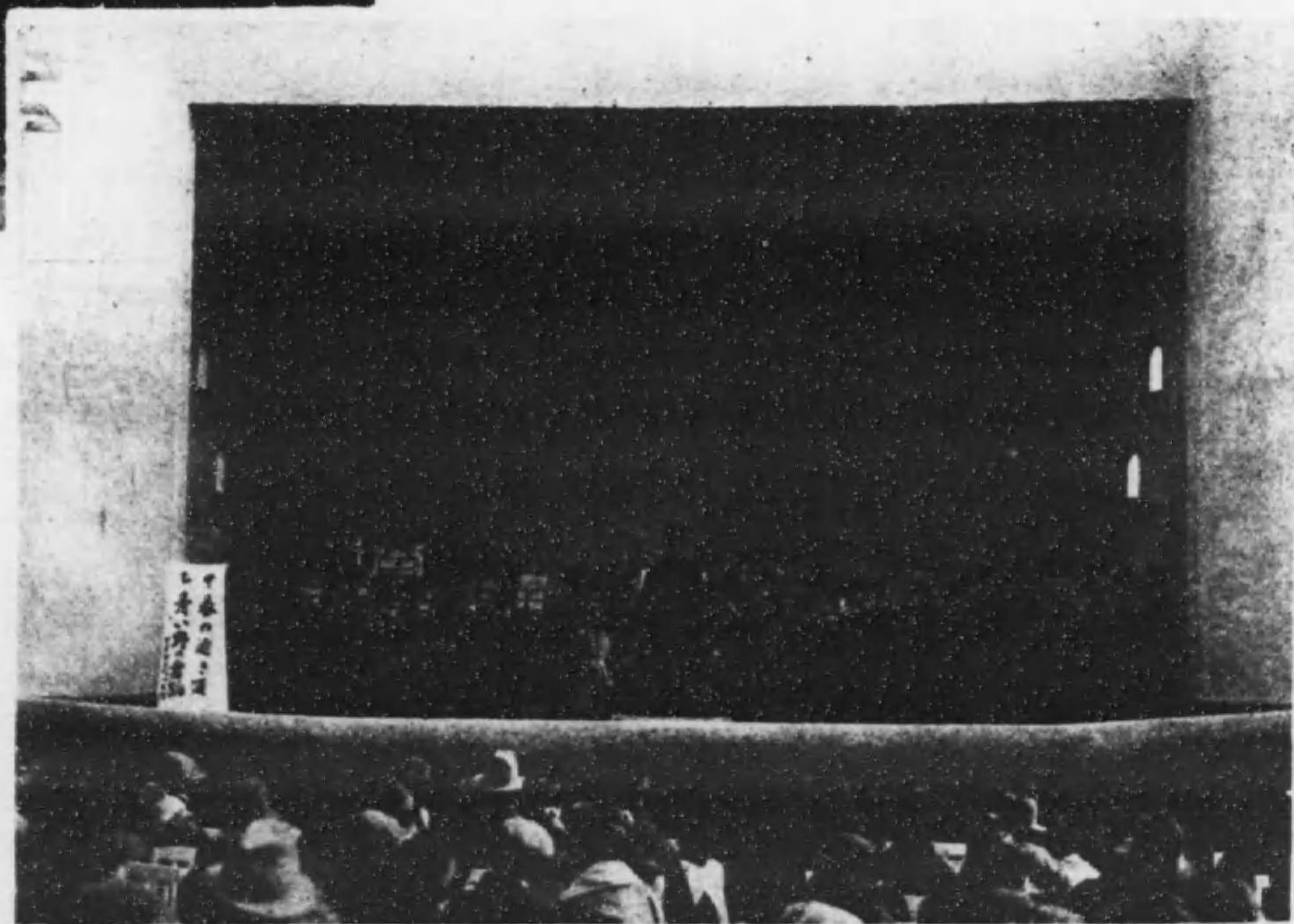
館別織津

奏樂堂

凌雲院北寄りの廣場にあつて、之れは協賛會の事業の一つである。此奏樂堂の設計は主として陸軍軍樂隊長春日嘉藤次氏指揮の下に設計せられ、其の形式は特に野外劇場に於けるステージを模したものだ。さうして正面から見ると丁度屏風を立てた様な形をして居る。此所では單に吹奏樂の演奏計りでなく、柔かい管絃樂や合唱をも演奏する事が出来る様にしてあるが主として戸山學校、師團、海軍等の軍樂隊が、平日は午後、土曜、日曜、祭日には午前午後の二回、又花見時は十五日間、納涼期は夜間に何れも演奏する外三越や、帝劇の管絃樂團も演奏することになつて居る。寫眞一は第二會場外國館正面池の端にある奏樂堂で此所の建物は丁度お椀をふせて半分に切つた様で一寸異様に感ぜられる建物である。演奏曲目、演奏日割等凡て第一會場の奏樂堂と同様である。



空母自艦會二第

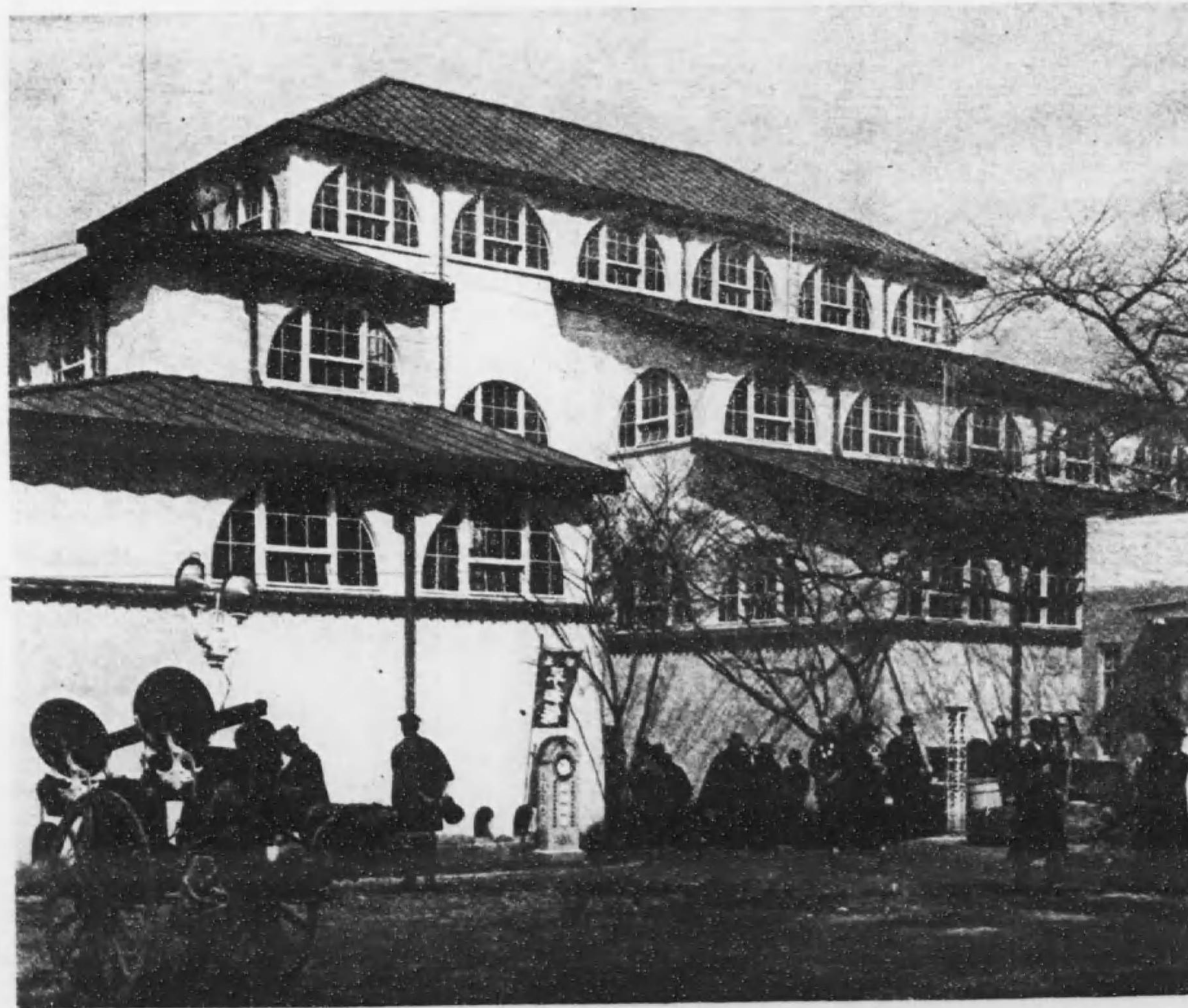


空母自艦會一第

建 築 館

染織別館を一巡した後其の北口より出ると、正面に見ゆるのが建築館である。建物は左程大きくはないが四字形に建てられたもので一寸目先が變つて居る。一度足を入るれば我々素人の目では丸で家具館と云ひたくなるの観がある。と云つても勿論各建築様式の模倣及材料から純日本風の茶室なども陳列されてある。中でも目に着くものは家具類が第一で、富有階級の人でなくては用もなささうな所が多い。隅の方へ行くと殆んど材料の奥倉の様珍奇な木材の大きなものがあるが、之れはいつもある博覽會でお目にかゝる様なもの計りである。然し専門家には大に参考になることもあらう。

寫真別館は建築館東南音楽堂前にある花壇の中央に建てられた雌蕊の精といふ女刑の塑像である。



建 築 館



舞 臺 之 精

御園館

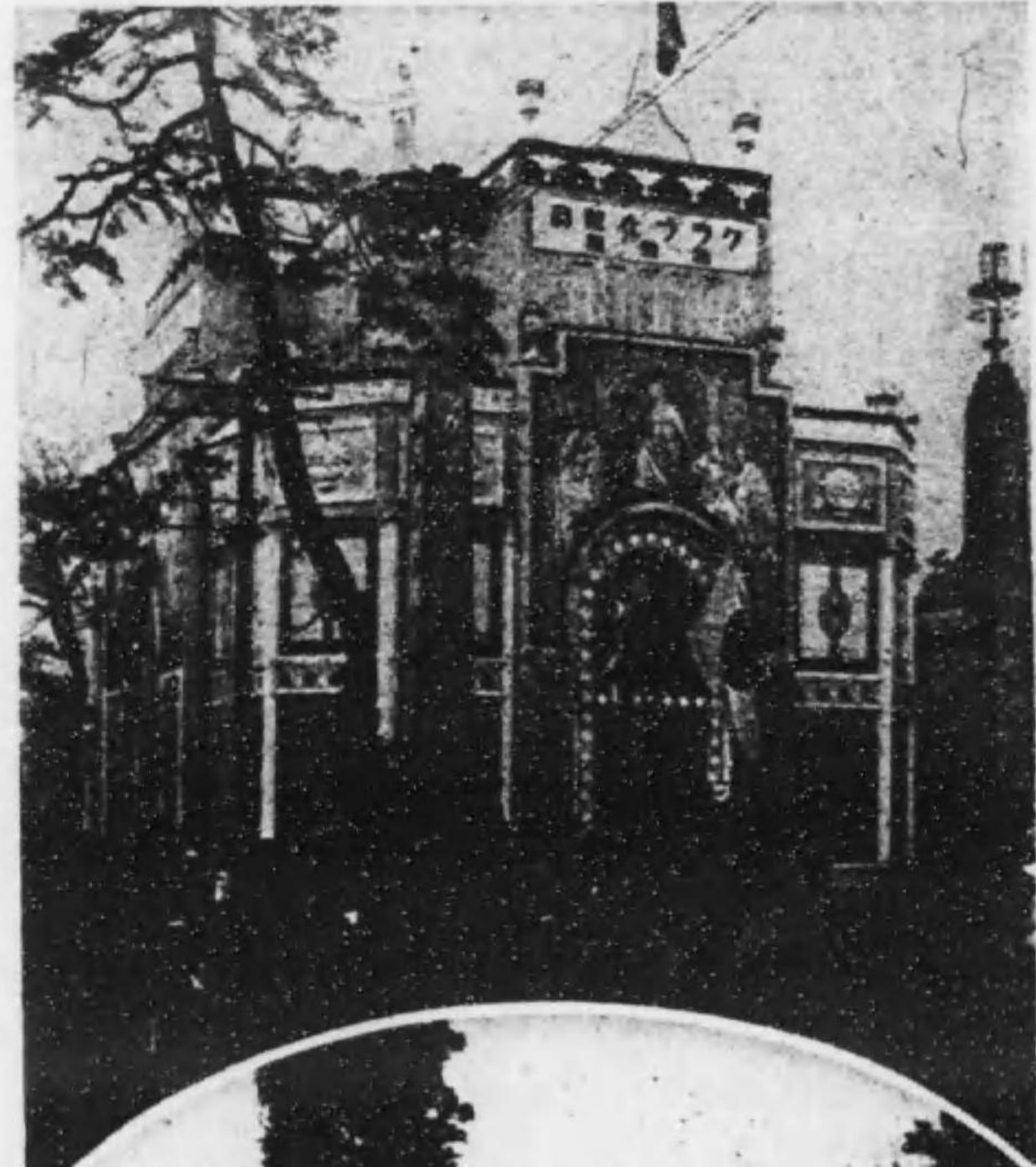
本館はクラブ館に對照し角地の位置を占領して居る事と、特に博覽會正面道路を右に入りて突き當りの位置にあるから一層目に付くのである。例によつて内部の陳列は三ツワ石鹼は勿論、御園化粧品の有らゆる種類を全部排列したると、三ツワ家庭薬など多趣味に陳列したるなど苦心の跡が見らるゝ。

文具館

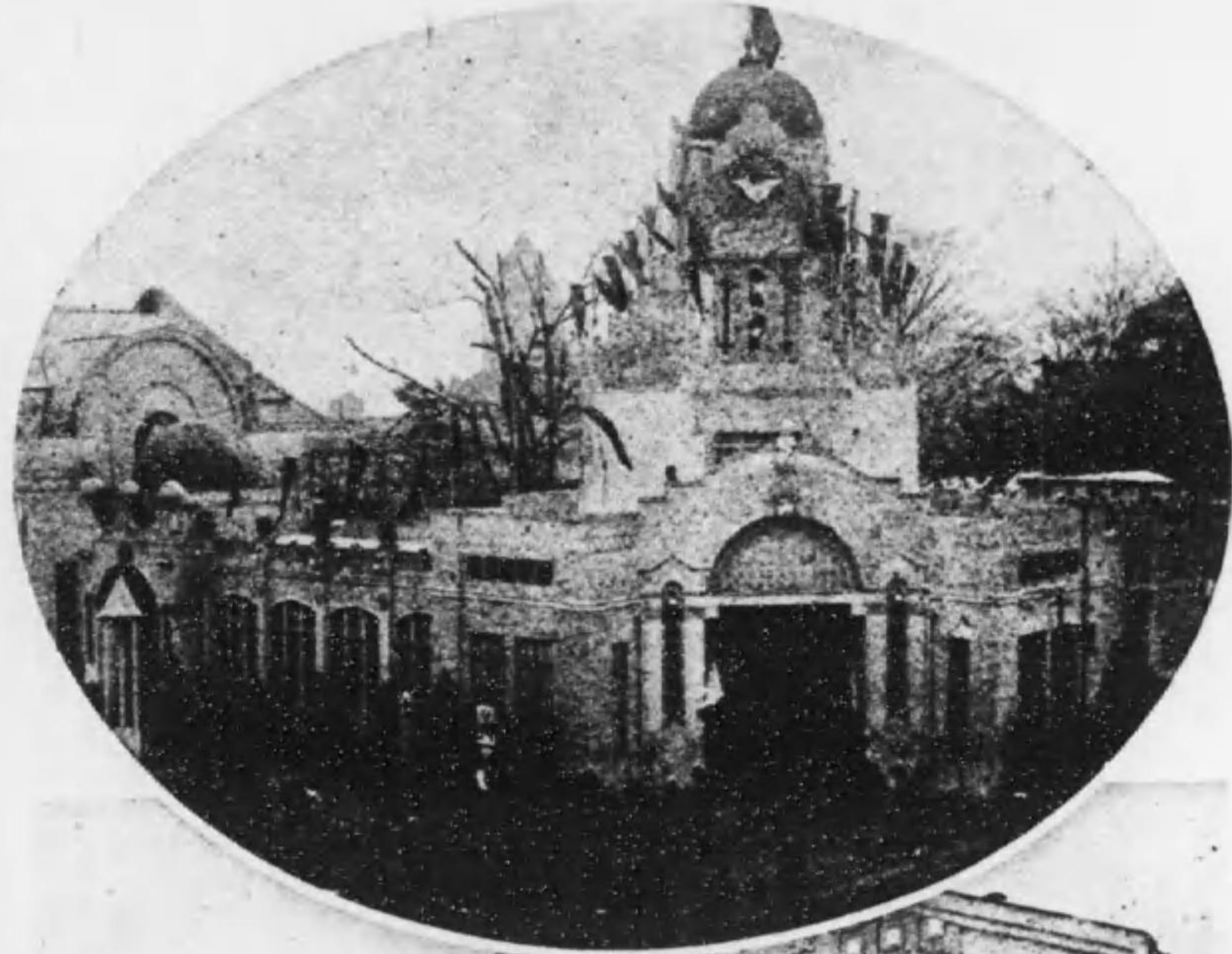
本館は御園館の向側角に建設された特設館で、これは東京の文具商組合が聯合して陳列したものである。建物も可なり大きく觀客の目を引く位置を占めて居る。内部は云ふ迄もなく文具に關した諸種の出品を以つて學生やら文人連を羨望せしめて居る。

三共製藥會社

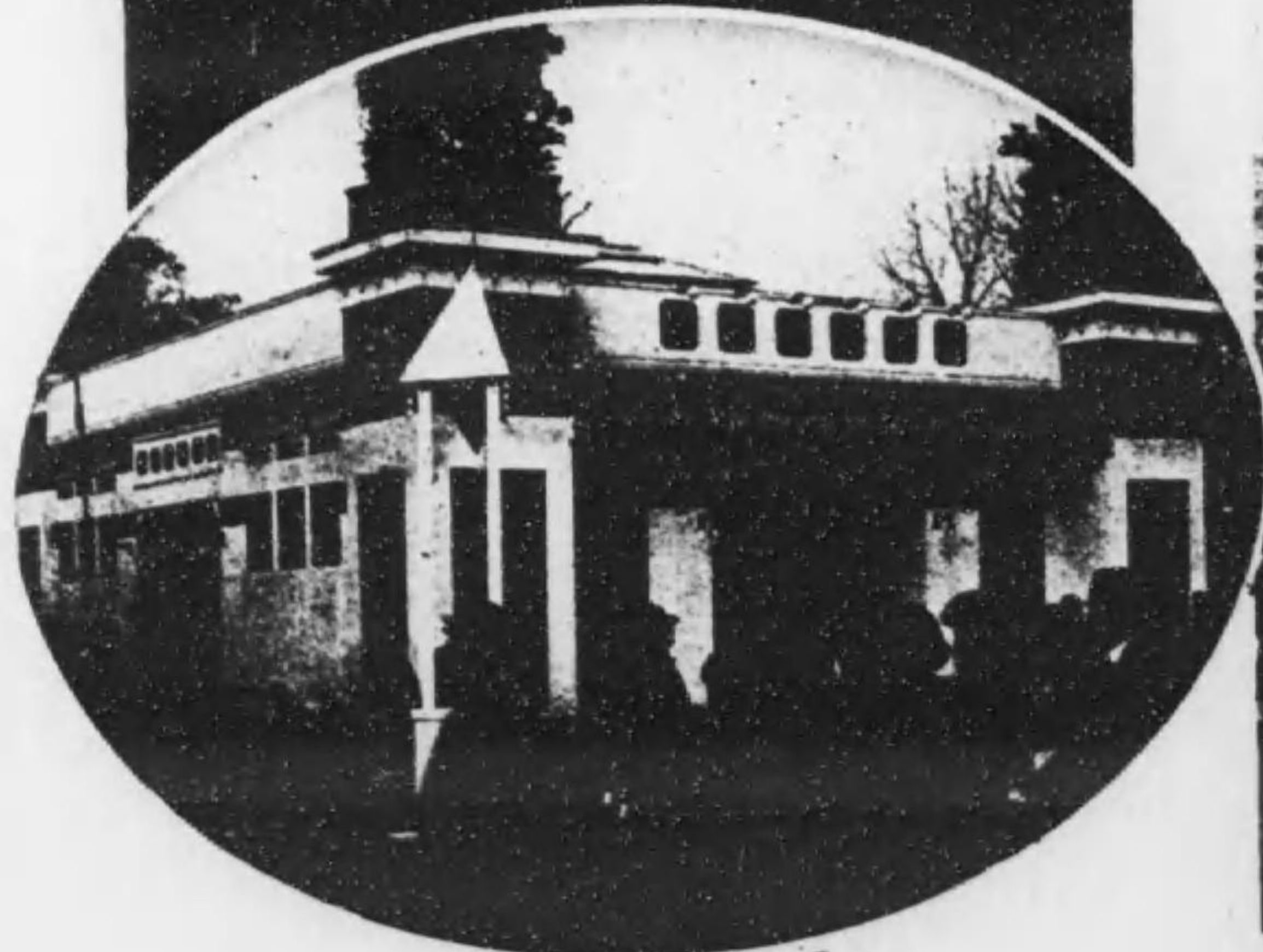
文具館の隣りが三共製藥株式會社の特設館である。本館は同會社の製藥各種を種々工風をこらし陳列したものである。



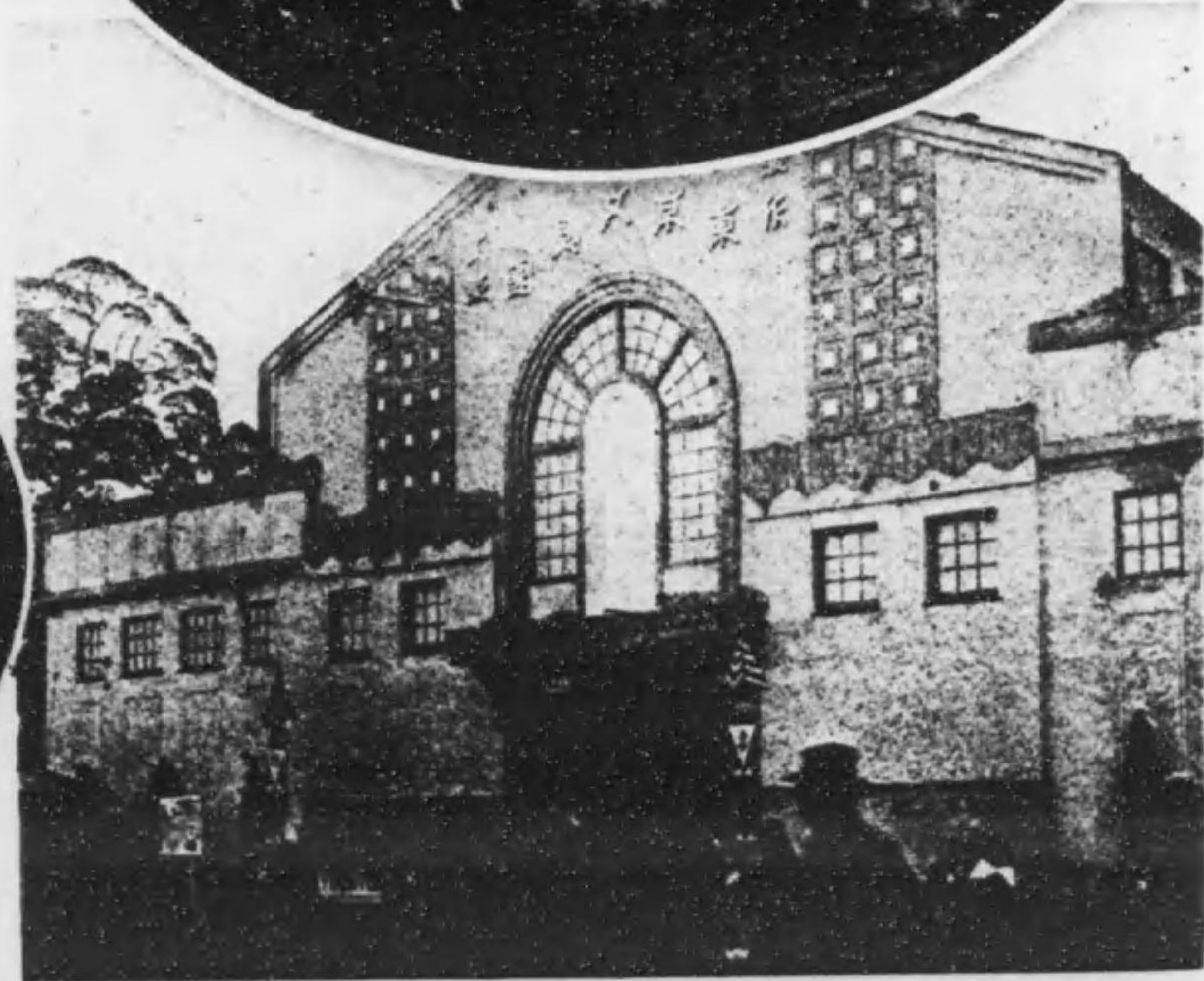
クラブ 休憩所



西園寺邸



三井物産株式会社
本社



文貝邸

東京自治會館

救護所の横を通り抜けると右手に建てられたのが東京自治會館で、白煉瓦張りの氣の利いた二階作りの建物である。本館は後藤東京市長御自慢の特設館で、閉會後も二十ヶ年保存して、市民博物館と公開堂の代理を勤めさせやうとするのである。中には徳川時代、明治時代、現代と分けた東京及び將來都市計畫完成後の東京を何れも圖解によつてその變遷を現はし、尙都市計畫に基く大東京の模型には電車が自動的に廻轉する仕組みになつてゐて頗る見物人の足を留める所となつてゐる。水道、改良下水、公園、墓地、築港、市廳舎及び公會堂の各設計々畫は、悉く圖解模型で現はし、その他國勢調査、社會教育、商工業、社會事業、教育事業、道路等に就ても詳細に涉りて、現在及び將來の計畫を明かにしてある。場内は階上階下で八百人を容れ二階を貴賓室とし、連日開かれる各種講演會は大ホールを會場に充てることにしてある。

別圖は東京市の模型寫眞である。



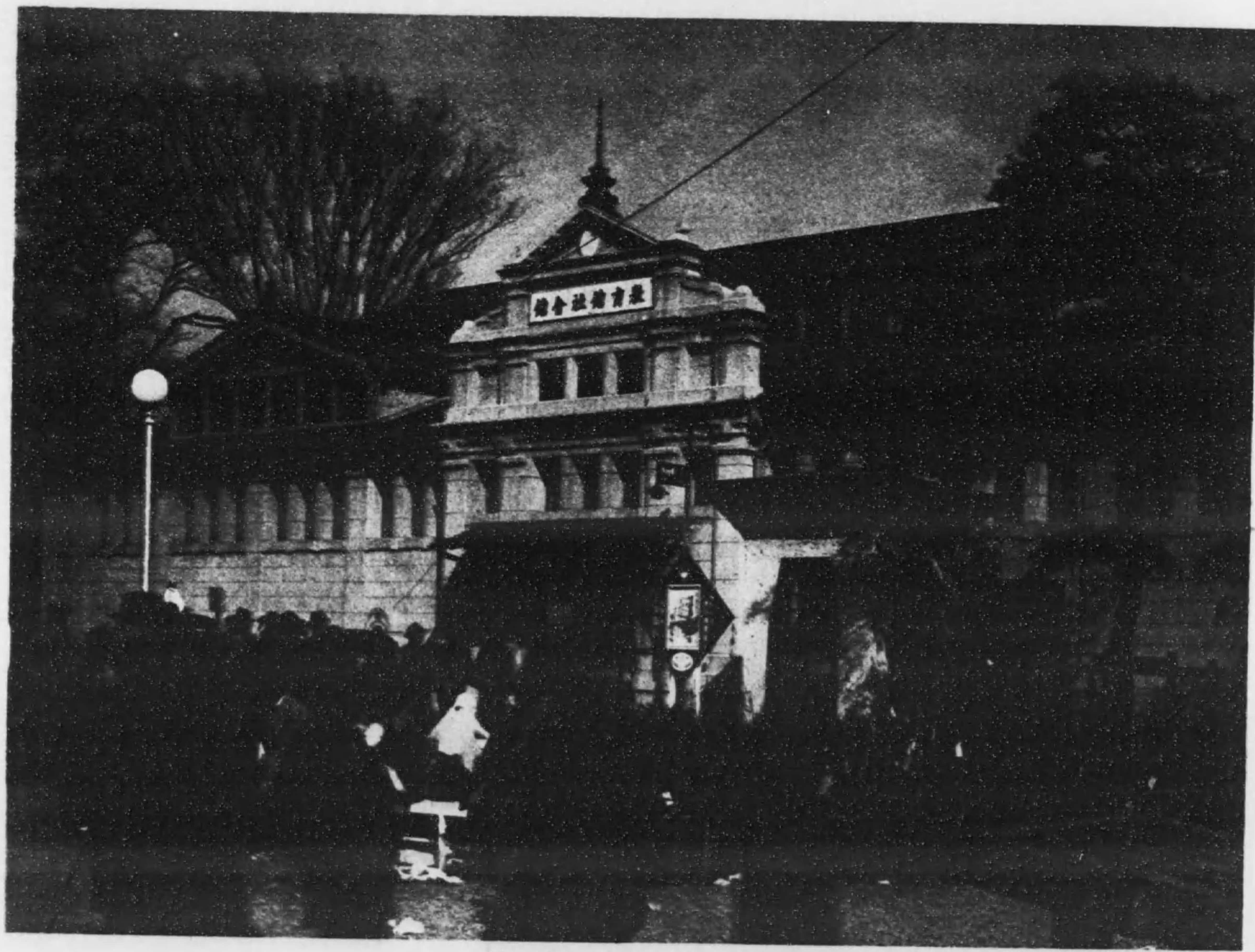
東京自治會館



大東京市模型

教育社會館

本館は日本美術協會のものを其儘利用したものである
館内は恰も各學校の展覽會を見るやうで、都下各學校生徒の手藝品を始め、各市府縣各種學校からの出品物で埋まつてゐる。其中でも一番目を惹くものは文部省や女子職業學校の美しく人形を飾つたのや、周圍の柱に十二支の標本を取り付けたなどである。又天井には地球や太陽や月が軌道を回轉する様子を見せたり、月の盈虚を見せたりする趣向などもあるから、子供にも大人にも參考となることが尠くない。



教育會社館

第一會場東門

此の門は上野公園山下、上野停車場寄りに設備せられたる第一會場入口であるから、上野驛前より直ちに入場せんとするには本入口が最も近道である。

第一會場裏門

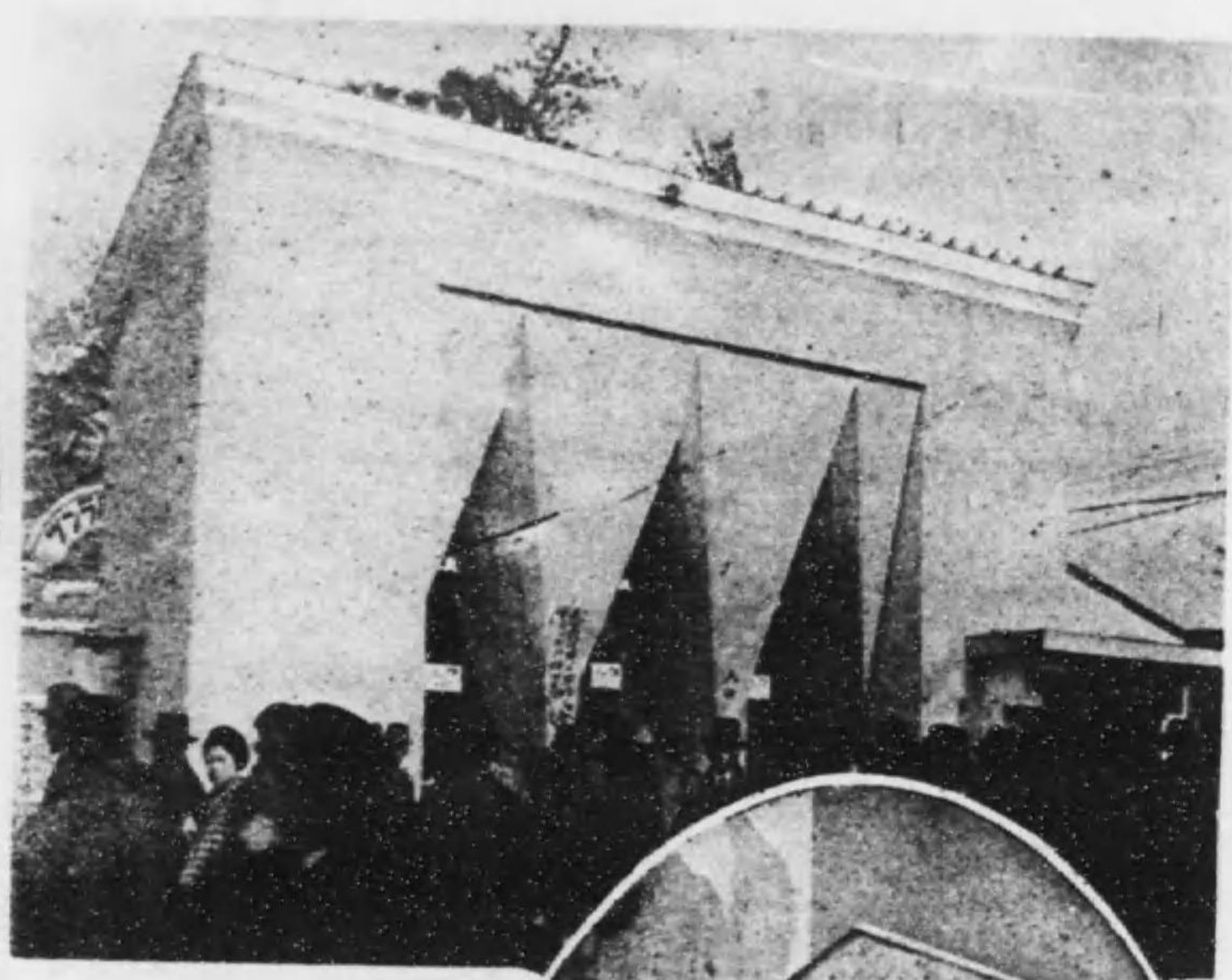
此の門は帝室博物館正門前、即ち第一會場平和館裏手に設備せられた入口である。

博覽會事務所

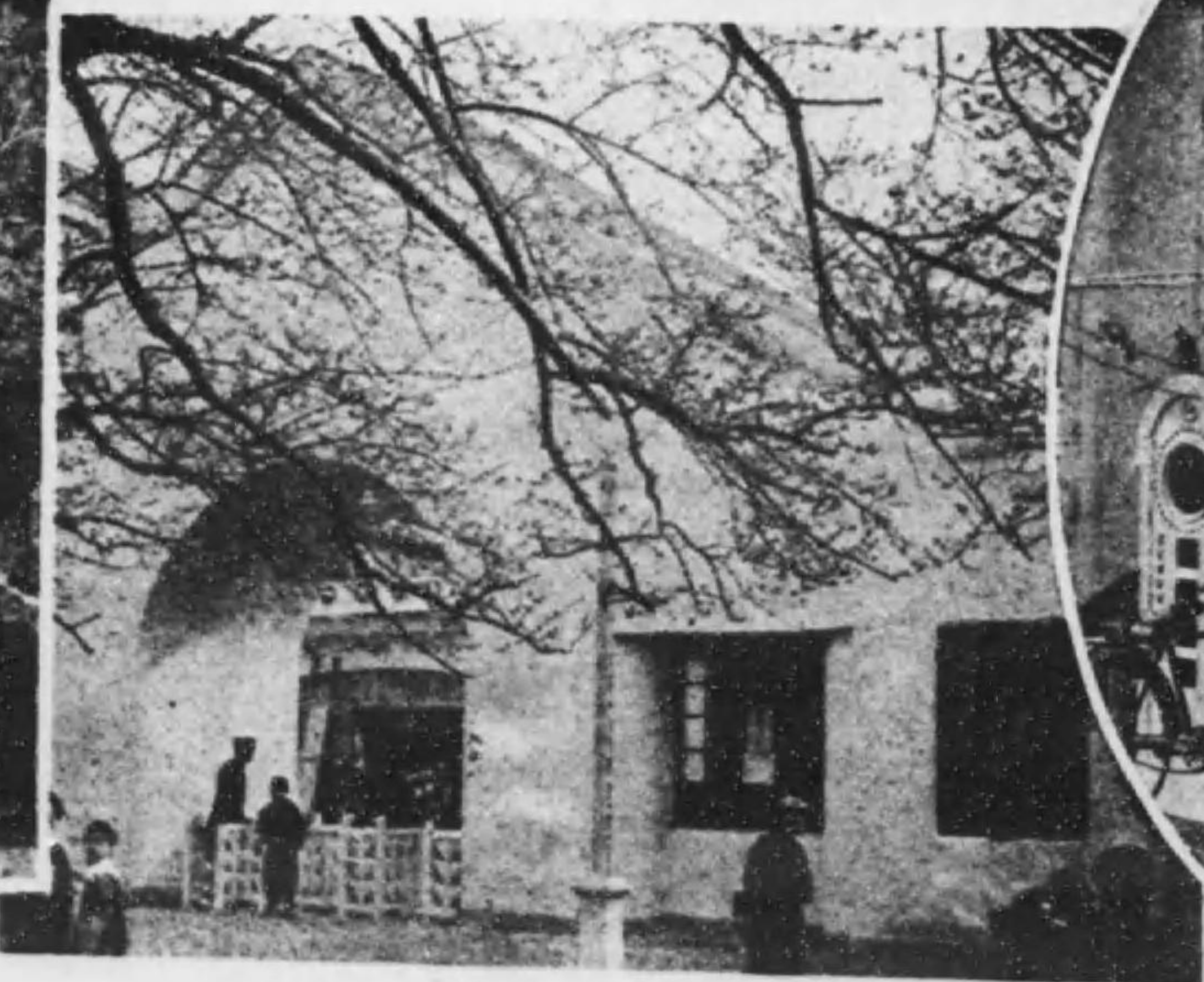
博覽會事務所は西郷銅像裏手、舊美術協會前に新設せられたる建物で、本博覽會の事務一切を司る處である。本事務所の南隣りは博覽會協賛會の事務所である。尙一つの寫眞は會場案内所である。



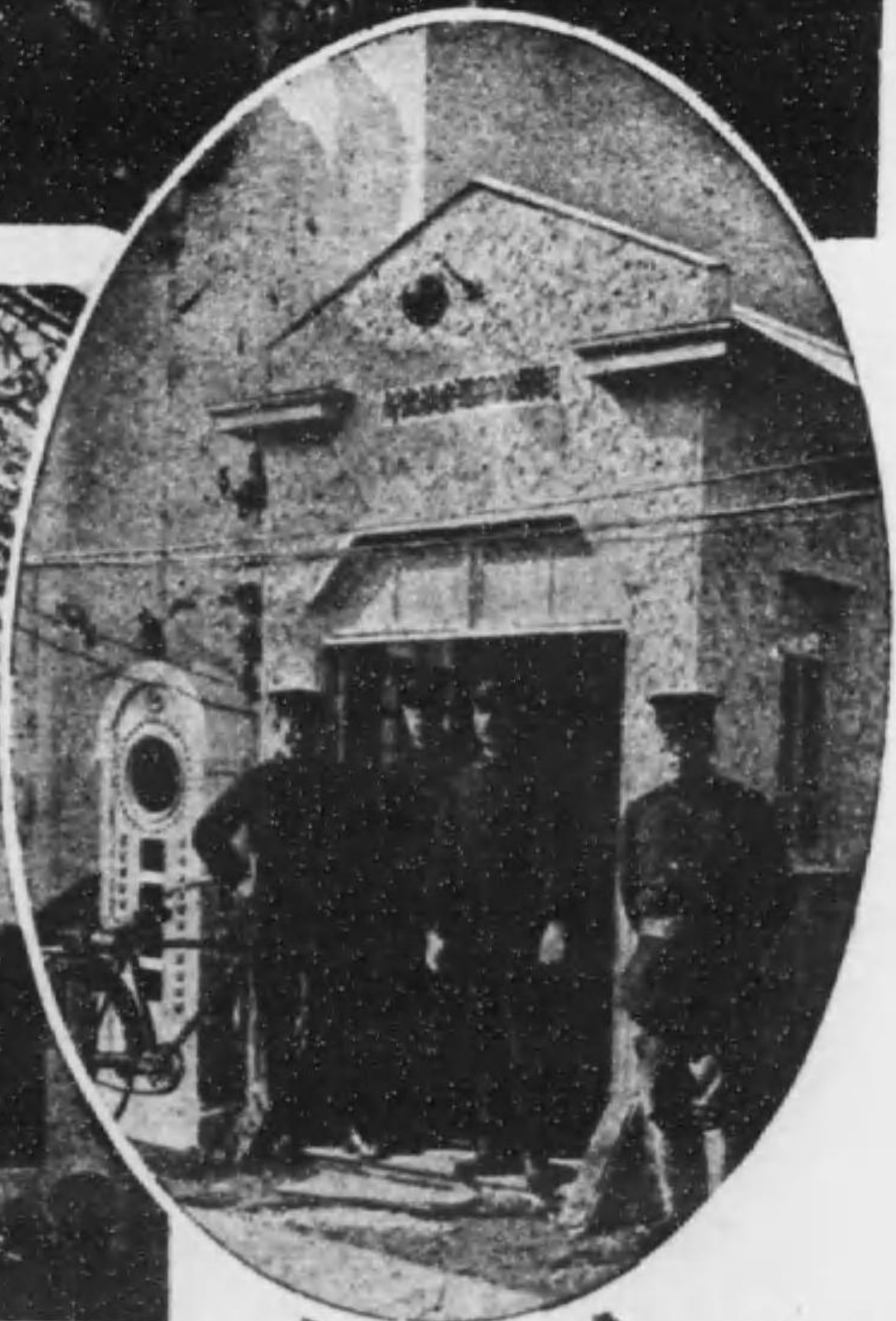
會館第一門



第一會館第二



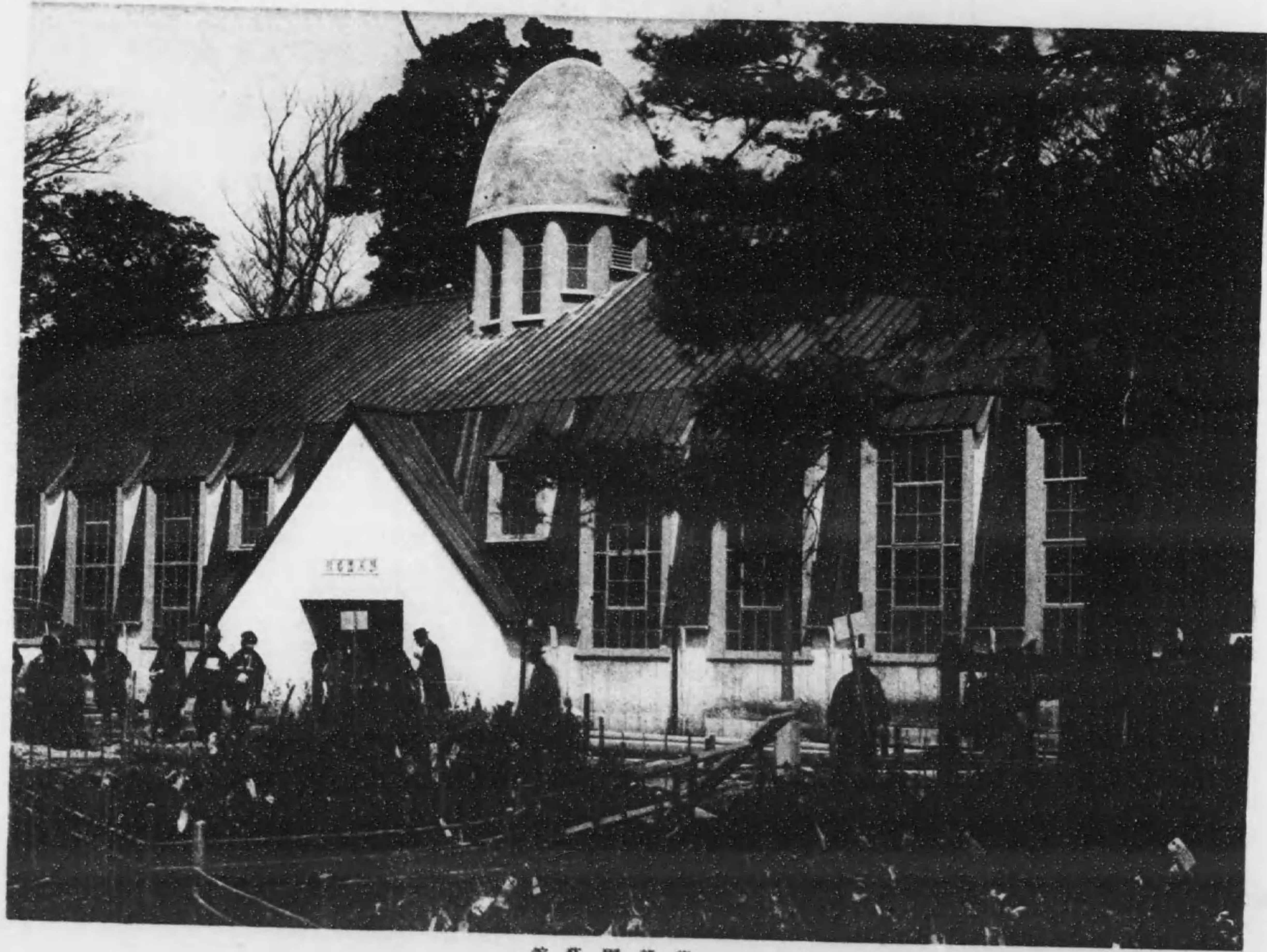
第一會館第一門



第一會館第一門

蔬菜園藝館

櫻ヶ岡美術協會前に眞紅の屋根と、草色空色とを巧みに案排した建物である。正面入口前には二十坪程の花壇を設け、和洋とりどりの草花が黄に赤に咲き誇り、館内には伊集院子爵を會長とする全國園藝品出品協會の主催で、和洋各種の草花や、盆栽等を並べ、會員各自の丹精を天下に紹介しやうといふのである。第一は速成花卉、切花三百本で次は盆栽物二百、球根物草花千本の外にスキートビーやシヨレニアムが千本、百合やダリアの美しい所から、睡蓮やメロンなど迄順序よく並べられ、同好者の垂涎を待ち構へてゐる。尙本館正面入口には各府縣から一粒選りにして出品された苹果や梨子、柑橘類は云ふ迄もなく、八百屋の店頭を見るやうに、大根、胡蘿蔔、午莠等も常に見られない大きな物が並べられてあるが何れも値段が素敵に安いのに驚かされる。尙ほ此館の陳列は屢々其出品物を取換へることになつてゐる。



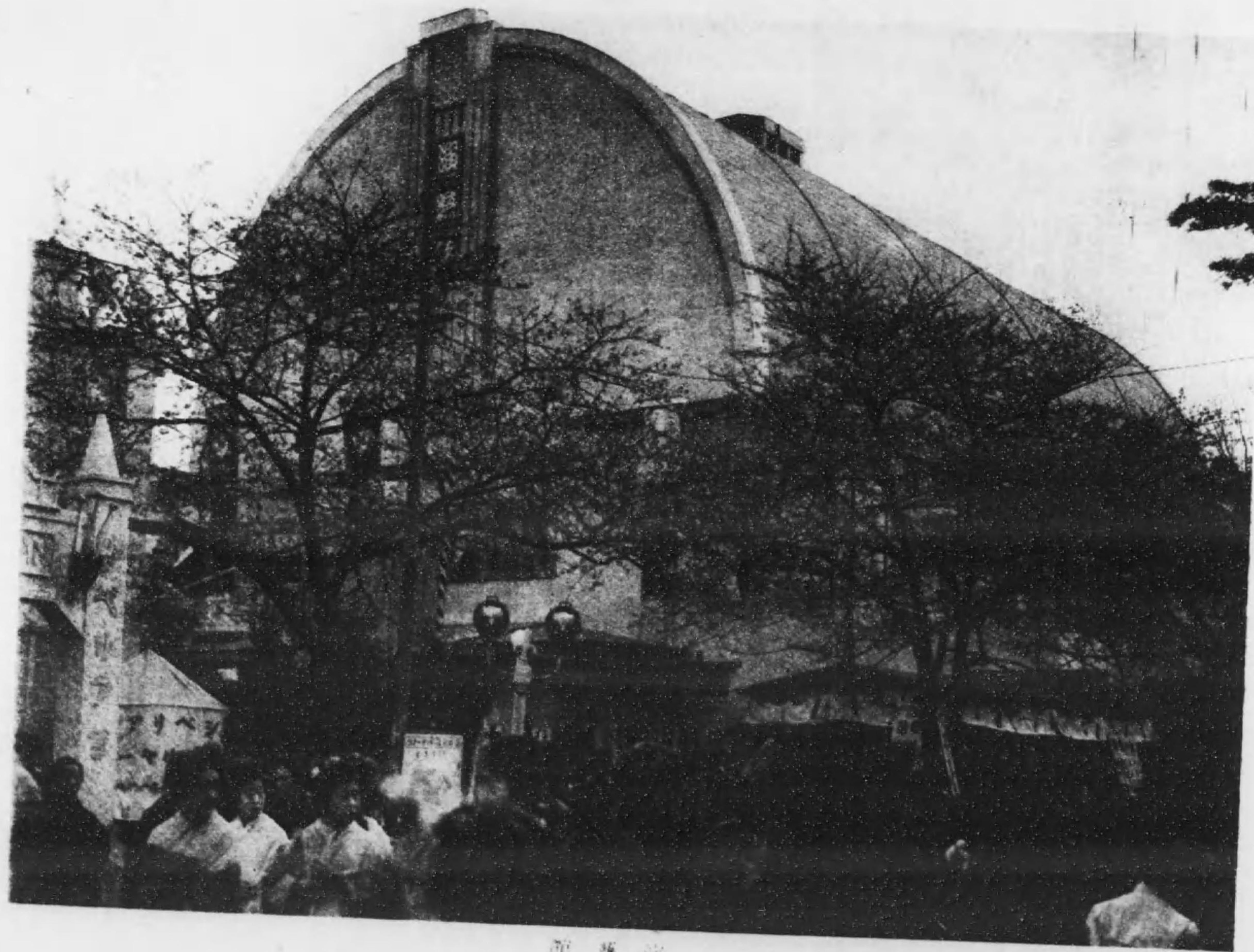
館 勞 園 茶 藏

藏茶園藝館

園藝會館之真珠の星如く、草色空色もはげや

演藝館

協賛會が工費十三萬圓を投じ帝劇に眞似て構造したもので、蒲鉾屋根に勘亭流の金文字がコバルト色の額地に輝くさへふさはしい。内部は一層清々しく皇族席、貴賓席が設けられてある。場内は淡桃色に壁を塗り天井は五色の彩雲が畫かれ頗る美しい。開期中は帝劇、歌舞伎、市村等の座附俳優が出演する外、都下各地藝妓の手踊りから、天勝の奇術など時々出し物を替へる。最近に本館にて開催さるゝ演藝を記述すると三月十九日には歌劇女優バブログア嬢によつて「瀕死の白鳥」、「椿姫」、「森の精」など同嬢十八番の歌舞や、獨唱が朝の十時から催され、夫れからは毎日曜の午後丈け嬢が出演する。又市内各見番の藝者が三月二十二日から交代に出演することになつてゐる。其の外寶塚の少女歌劇やら、市内小學生の童謡劇、お伽噺會、音曲會などが相次で催さるゝとの事であるから定めて面白いことであらう。開館時間は午前が九時から十一時迄、午後は二時から四時迄であるが、博覽會が夜間開場を行ふ場合は本館も亦夜間開場することになる筈である。(入場料大人普通一圓、特別二圓、小兒半額)



聖 瑪 利 亞

サンエス万年筆塔

本塔は化学工業館裏手食傷横町に万年筆型に建設せられた廣告塔で、本會場正門を這入れば直ちに右手公園森の中に高く見ゆるが、恐らく本會場内第一の高塔であらう。此廣告塔の下は圓形の休憩所を設け一般觀覽人のためベンチ等の設備が完全されて居る。

川崎工場出品の怪獸模型

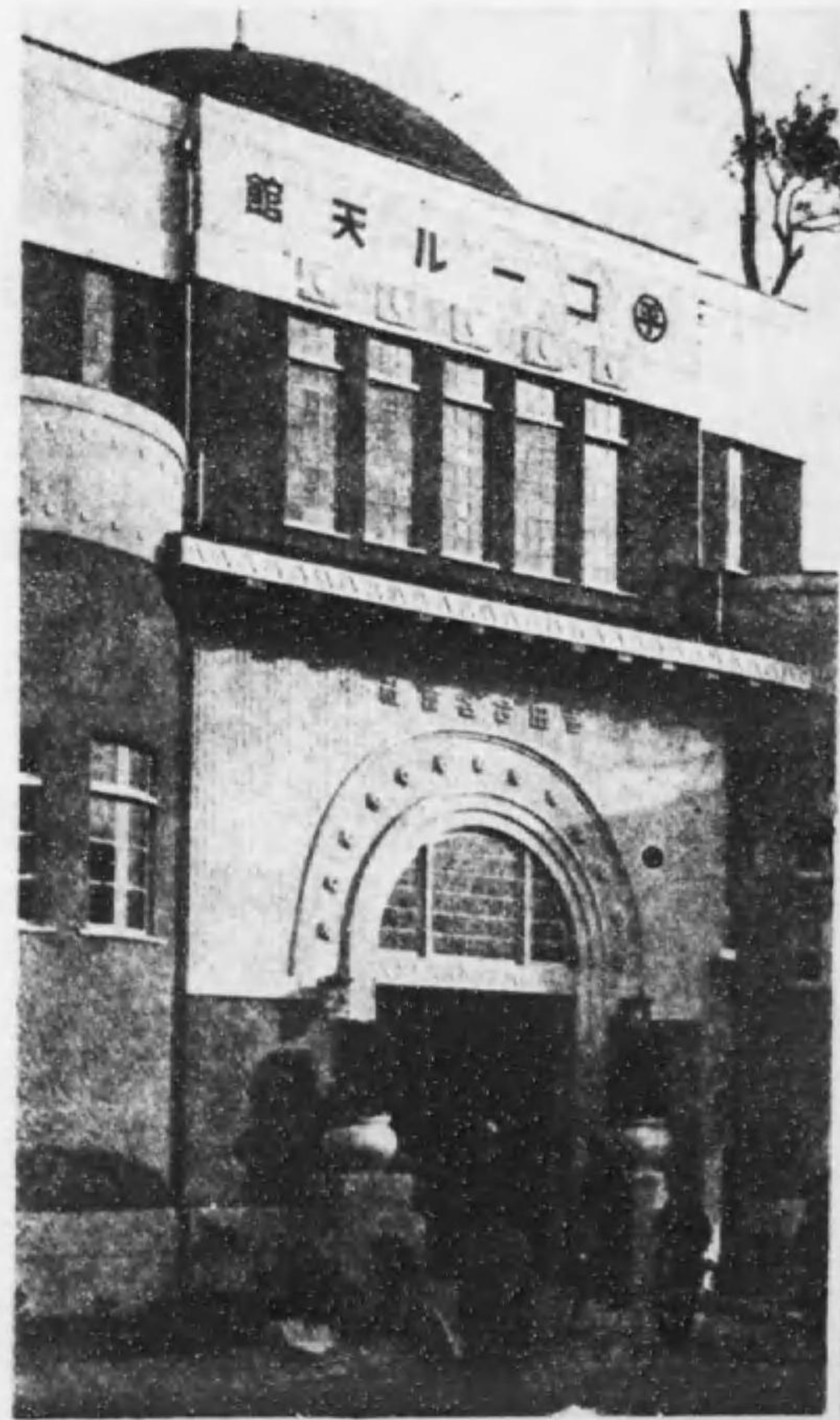
サンエスタの直ぐ北に一種異様の二箇の怪獸模型があるが之れは川崎工場の出品で、其の目的はコンクリートの耐久性を有することを證明するためで、此模型の側に精細なる比較試験成績表が圖表されて居た。

第一消防派遣所

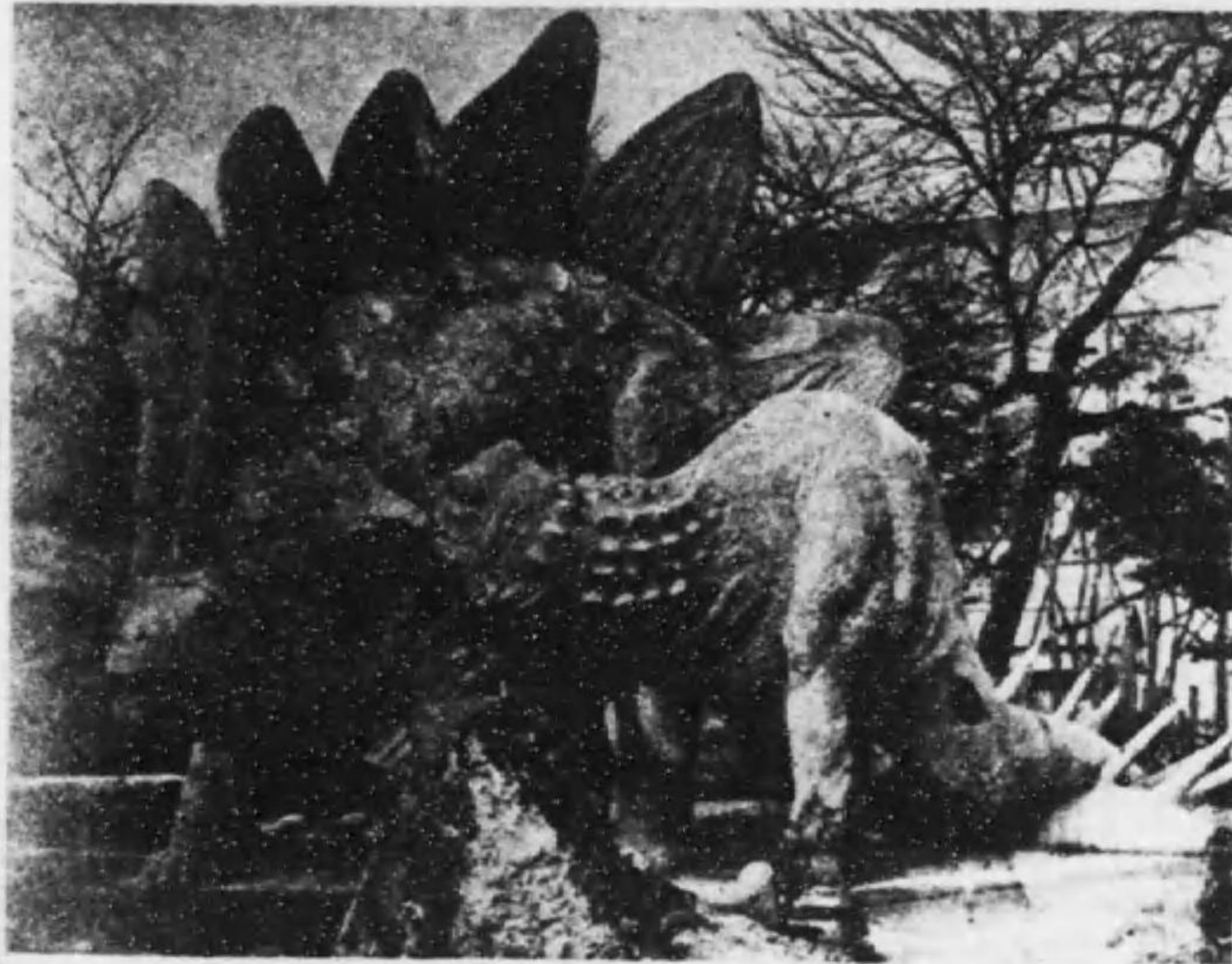
場内各所に消防設備をなし萬一の火災に備えられて居るが、本寫眞は染色館裏の第一消防派遣所である。

コール天館

本館は染色館北、西角に設けられたコール天の鬼足袋店の特設館である。館内周壁には飾り棚を設け、コール天足袋は勿論、コール天子供洋服、大人洋服等も陳列し大にコール天の利用法を宣傳してゐる。尙本館中央には美しき草花を以つて裝飾せる噴水塔を設け、周圍に休憩椅子を排置せるのみならず、其の噴水を任意に飲用せしむる様用具を準備せるなど良き思ひ付きてある。



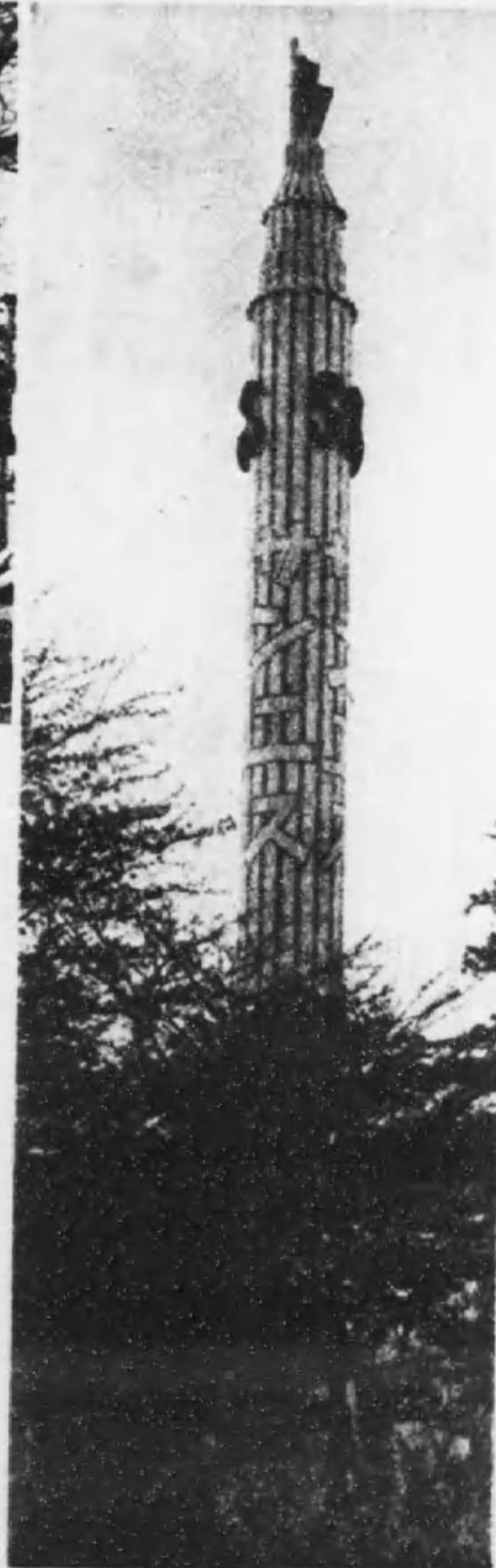
館天ルーコ



龍皇一と龍皇の地工藤川



西産及防消一第



サンエス萬年筆事務所

この計画告げ、本會は五門を出入りし、直にこの手公
 本會は分學工業前、手食、謝、四、萬、筆、壁、の、製、如、サ
 センエス萬年筆社

農 産 館

本館は竹の臺東寄りの南部に建築されたもので、流石
農産國丈けあつて農業家諸君が『おらが田舎の米俵』だ
と見上げる程の飾り俵を大盡様のお庫よろしく積み上げ
てあるがこれが、農業國を象徴してゐるのであらう。地方
の人士には兎も角都人士に珍らしいのは正面入口にある
電気仕掛の收穫狀、況の活動して居る模型と、繩絢ひの
實演である。その他實船に形どつた俵船が場の中央通路
へ乗出して居るなど陳列方法も仲々奇抜である。

赤十字救護所

正門を這入ると直ぐ右手に見ゆる建物が赤十字社の救護所である。此所は實に理想的に凡ての設備が準備されて有る計りでなく、絶えず醫師と看護婦が詰め切つて居るから何時でも充分の手宛が出来る様になつて居る。

警察署

正門外向つて左手に警察署がある。之れは上野警察署の出張所で、精々平和といふことに似合はしい様、建築様式もいかめしくなく極くく平和らしく作り上げ、公務の取扱ひも極めて平和にするといふ事である。

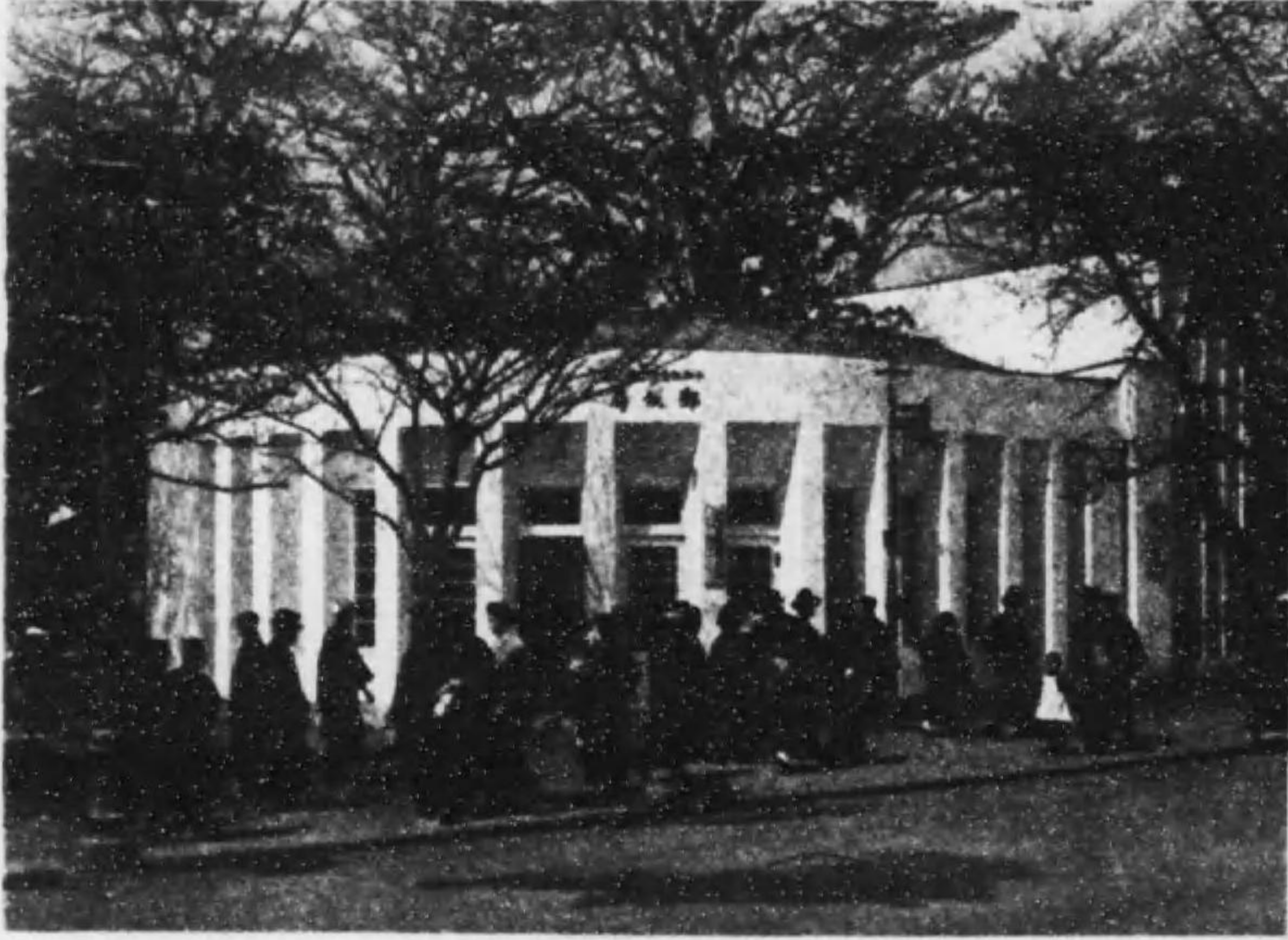
郵便局

警察のすぐ隣に薔薇色と若葉色とで化粧された伊太利風の建物がある。これは郵便局であつて、開期中は記念スタンプを捺押する外、場内の要所々々にポスト九ヶ所と自動電話八ヶ所を設け、尚電報、速達便等も取扱つて観覧人の便宜を圖ることになつてゐる。その他切手は勿論だが、博覽會に關する繪葉書類は全部販賣して居るから土産に買つて、すぐ其所でスタンプを押してもらふもよからう。

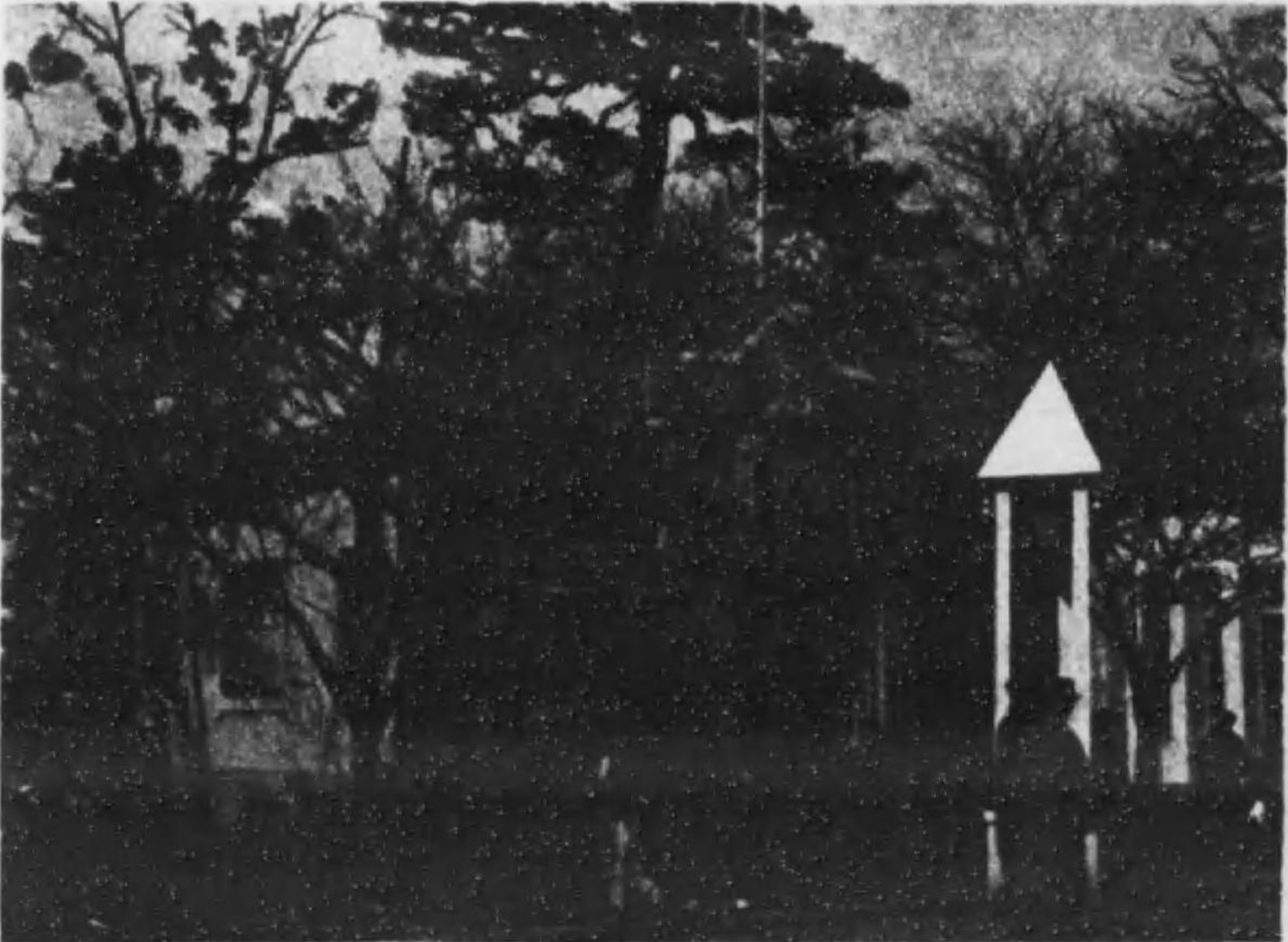
銀行

郵便局の手前觀音堂の裏手に當る左方に、第三銀行の臨時出張所がある。之れは博覽會開會中設けられたもので、送金の受拂や一時の小口預金を取扱つてくれる外無料で兩替をしてくれるから、地方から出掛けられたものなどは頗る便利であらうと思ふ。

増進會郵便局



日本赤十字社臨時救護所



所張出時臨行軍三第



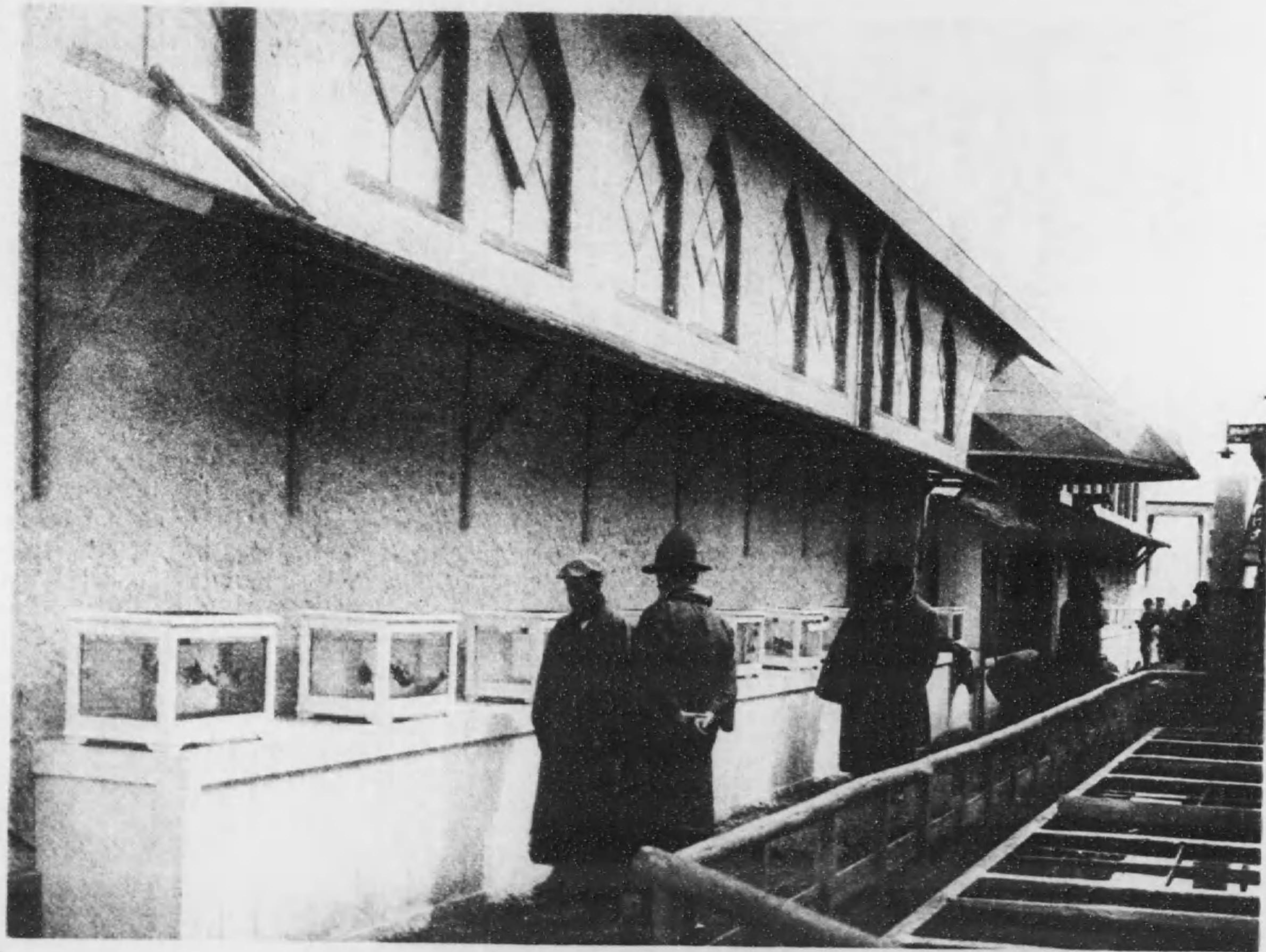
所張出署安警野上

丁計の指し示す、御天を醫治するに盡誠を盡す所
 難測である。此の如き御患の入りたるに對して、
 玉門を重んずるに、御手の手見の、御神を赤十字社の
 赤十字社に對して、御神を赤十字社の

食料水産館

食料品と水産品との寄合世帯で、入口の食料館にはパノラマ式に宇治の茶摘の實況に眼を惹き、甘黨と上戸黨とを喜ばせる企てもある。その他新川の酒問屋達が養老の瀧を電機仕掛で拵へ、酒樽や罐詰を並べ立てたり、大日本麥酒や、キリン麥酒の明治屋でも負けずにビール罐の林を造り上げ、甘黨の方へは大日本製糖や臺灣製糖が砂糖を山程築きあげ、パン屋の三河屋本店では商標の大鷲が鳴き聲を立てるなど定めて見物人の耳を驚すてあらう。日本製粉では模型で汽車や自動車を動かす、帝國冷蔵では美しい花水の柱や、冷蔵庫内と外部との温度の差を寒暖計装置で見せて居る。

水産館では江戸名物の淺草海苔を始めとし、東洋捕鯨では捕鯨の實際や、日本珊瑚では珊瑚採取の實際を何れも模型で見せる外、學術研究資料としては、水産講習所が漁撈、製造、養殖の三部に分けて参考品を出品してゐる。尙館外には十六面の池と十五箇の硝子張り水槽中に、金魚、鯉等の淡水魚を放ち、其中には一匹百圓といふ金魚もある。岐阜縣では長良川鵜飼の實況や、鮎の人工孵化の實際を見せるのが目に着く。



水産館

食料水産館

水産館

美術館

この美術館では帝展同様の爛熳たる美術の花を咲かせる外、美術工藝建築等の項目をも加へて、帝展以上の新しい味を見せて居る。即ち美術工藝に於ては染色、寫真彫刻及陶磁器、七寶等の手工品や、建築に於ては模型、圖案等が他では見られない程美しい。鑑賞家の眼を休ませるために館の中央には周圍を花で飾つた噴水池がありその天井からは美しい硝子の環瑠がさがつてゐる。此處で休息しながら彫刻を一目で見渡すことが出来るが要するに本館は藝術愛好家の喜ぶ所である。出品の主なるものを列挙すると、

「遊獵」乾南陽、「仙閣瑞春」西澤箕笛、「三冬三意」町田曲江、「殘雪の山路」永上奏生、「秋はるゝ日」田村彩天、「湖畔の松」廣瀬東嶺、「春來る」上原桃嶺、「角田川」小山榮達、京都は堂本印象の「猫」が際上つてゐる外伊藤小波、「原緋佐子、山内新一、坪井香坡、山本紅雲など目立つて見える。以上は日本畫に就て述べたのだが、洋畫は「楡の森」丸山晚霞、「草摘み」吉田勇子、「陽をあびて」有馬さとへ、「マロコエの道」吉田苞、「美人閑居」中川紀元、「早春」牧野春雄、「秋風」鬼頭颯二郎、「高山の麓」吉田博、「ストロウの前」高村真夫、「漁樵」中村不折、「江口」富田温一郎、「臺灣風景」茨木猪之助、「農家の子」鶴田五郎、「朝」相模金三郎、「若き畫像」中村研一、「暮秋」菅一郎「しらべ」天久保作次郎、「棕櫚と八ツ手」三宅克己、「肖像」柳敬助、彫刻では朝倉文夫氏の努力で「平和來」小倉右一郎、「豊太閤」杏風聲、「婦人の顔」堀江尙志、「運歩」石川雄二、「二人の話」佐々木大樹

等の出品が見事である。



美 術 館

美 術 館

此の美術館は、帝皇同好の贈與せる美術の非を知れり
るは、美術工藝振興の取目をも賦へり、帝皇以上の偉

衛生館

本館入口には警視廳出品の兒童衛生に關する物が陳列され、その側には營養研究所出品の飲食物の營養比例や、有害有効等を比較したものが百數十の詳細に説明され、北里研究所傳染病研究所では細菌の新研究、細菌やモルモットの解剖したものが出品され、内務省の出品は從來に例のない胎兒の實物を一箇月から十箇月迄を酒精漬にした者が出品された、之は館内隨一の呼物である。要するに本館は父兄の頭に育兒に緊要なる智識を吹き込むと同時に國民衛生上何人も知らねばならぬ智識を極めて容易に教へ込まうとしてゐる。殊に本館で見落してならない者は内務省の婦人と子供の衛生、警視廳の衛生上兒童玩具の選擇方、營養研究所の毎日の献立の變る「營養食料と廢物利用」の實物等である。

蠶絲館

蠶絲の出品物は從來は大抵他の部屬即ち農業部に同居して居つた者であるが、今回は一大發展をなし單獨に陳列される様になつたのは頗る注意を拂ふべきで、夫れからあらぬか今回の蠶絲館は斯業者の意氣込み甚だしく、殊に畏くも皇后宮が宮城及紅葉山の御養蠶所で御手づから採らせ給ふた繭や絹が陳列されて光彩を放つて居る事は本館の光榮のみならず、我等國民一同の特に敬意を表し拜觀せねばならぬ事である。其の外中野の蠶絲試験所から出品した蠶絲業の分布圖も注目の價置がある。何しろ全部三百坪が凡て眞面目な物のみであるが、わけて中庭二十坪の蠶兒飼育の有様から病蠶兒と絲を紡ぐ迄見せるのは、目先が變つてゐて、黒人にも素人にも非常に興味がられる。この館を一瞥すると東京、長野、群馬、愛知、福島、京都の主要生産地が夫々特長を發揮するために、競争的に工夫を凝してゐる有様が氣持よく窺はれて、世界隨一を誇る我國産絲業の將來に取り大に心強く感せられた。

ライオン館

文具館より道を距て、左側にライオン塔が高く雄大に建てられてゐる。塔の下部は無料休憩所に當てられ、尚自家の廣告的陳列をなせるは勿論だが、此塔には高く兩側に自動式に、各商品の名稱を順次回轉表示する様になつて居るのは遠方の人にも眼に着いて善い思ひ附である。

玉塚休憩所

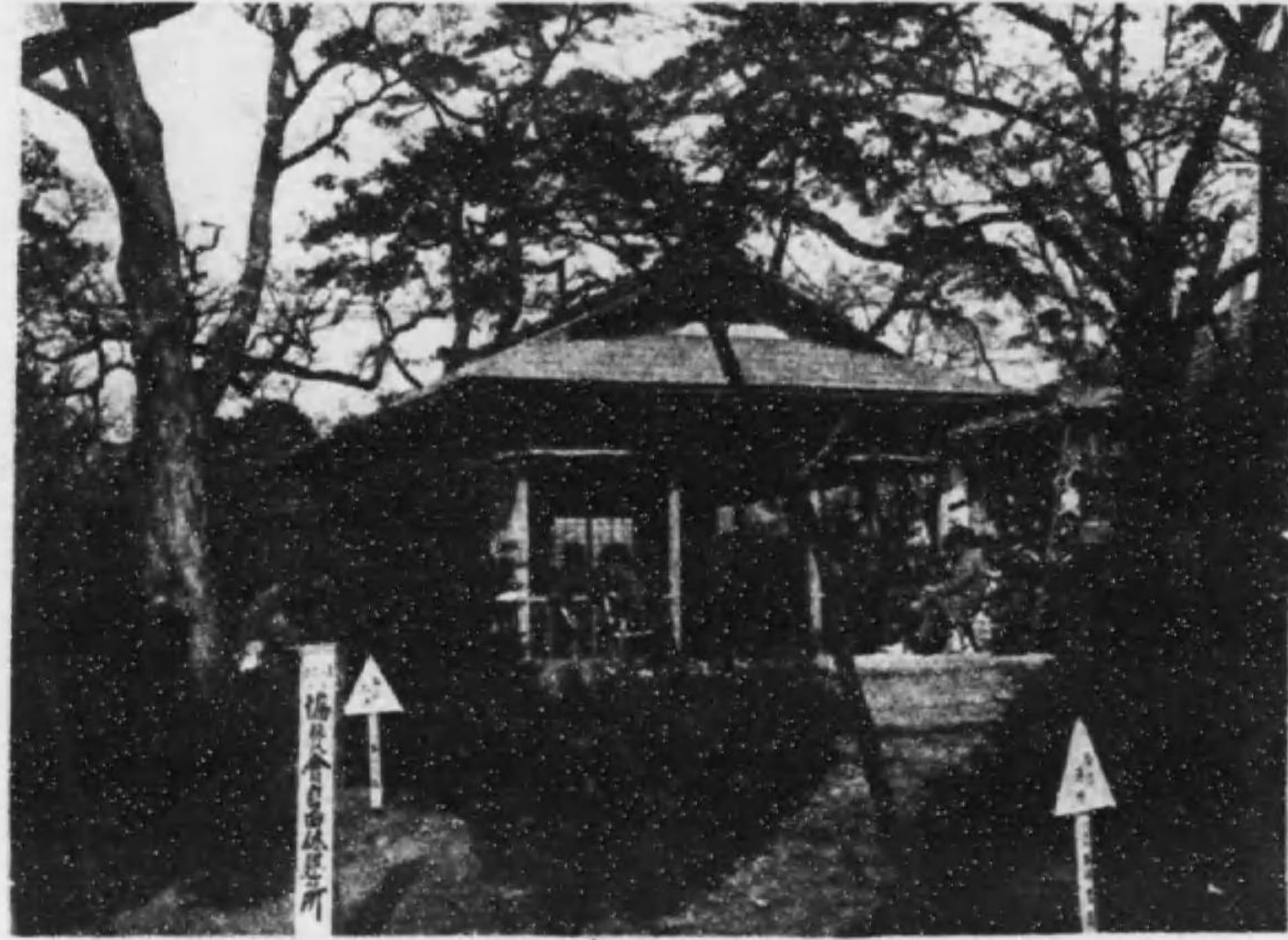
蠶糸館裏手の稍々小高き位置に日本式に建設せられたるもので、一般觀覽人の休憩所に宛てられてある。

天台宗休憩所

凌雲橋畔萬國街前に建設せられたる天台宗本山の特色建設になる無料休憩所で、一般の休憩者に湯茶を接待するのみならず、時々特志僧侶によりて一般人に説教を行はるゝ事がある。

クラブ館

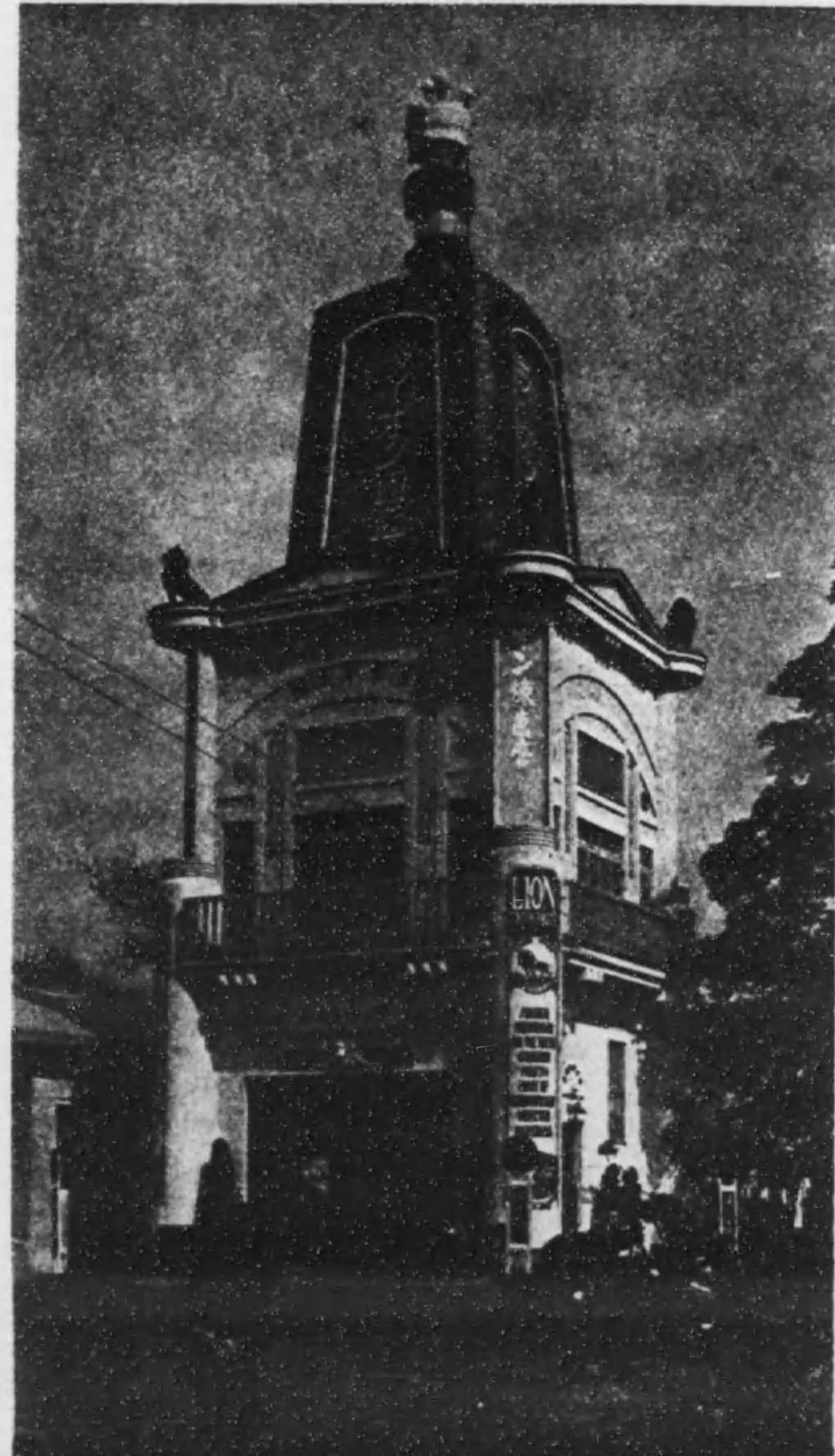
蠶糸館の向ふ角美術館と相對し新代式の頗る感ぜの良き建物で内部には同店賣品の特色品たるクラブ化粧品のあらゆる種類や、カテイ石鹼クラブ文具の各種類が陳列されてある。尙本館は一般觀覽人の無料休憩所ともなつてゐる。



所 憩 休 塚 王



所 憩 休 宗 台 天



所 憩 休 ン オ イ ラ

レトオム館

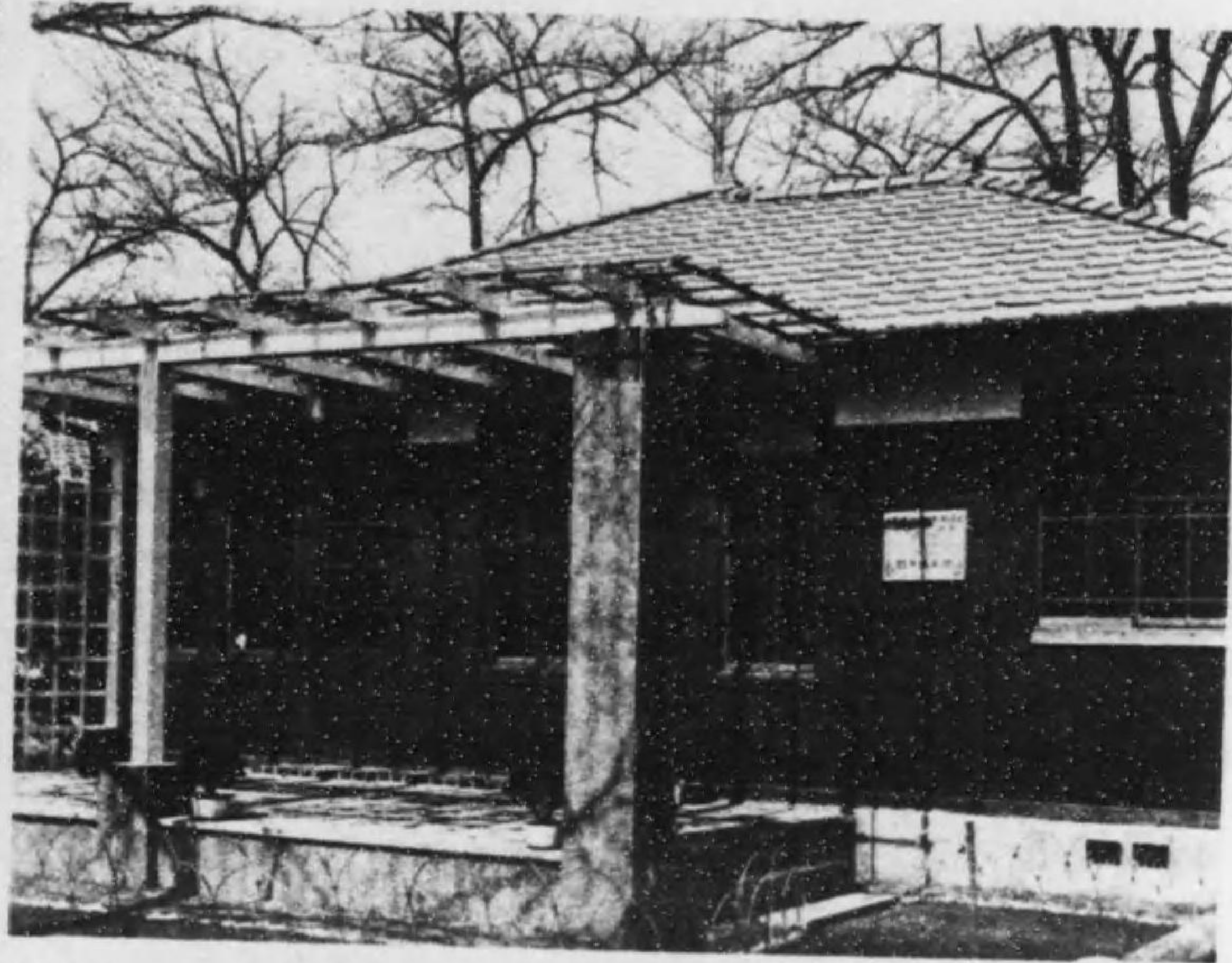
文化村

染織館を西裏へ廻ると今回の第一呼物たる文化村といふのがある。これは大熊博士を村長に仰ぎ、其の建物は總て文化生活のため中流住宅の實物出品である。即ち染織館裏北角にコール天館と云ふ如何にも活動寫真館めいた名の建物があるが、之れは彼の鬼足袋の廣告的施設館である。其の隣りから染織館に添ふて平和住宅が五軒、夫れから其前の横町稍々廣場に九軒、都合十四軒立てられてある。其の中には材木商組合の純日本家屋が一軒有る計りで其他は全部西洋作りの和洋折衷である。此の文化住宅は何れも希望者には内部を見せることになつて居る。尙御希望とあればどの家でも買入れることが出来るのみならず買入れ人の希望の處迄運搬し、無料で建築してくれることになつて居る。記者も一寸善く出来て居つた一軒を拜見したが其の住宅は總建坪三十二坪三合で六千二百圓、家具を加へると八千五百圓といふことだが、たしかに高くはない様だ。其他佐治工場の改良住宅など外觀仲々ハイカラなのや、吉永工務所出品の防腐劑を塗つたアメリカ松の羽目板を用ひ、内部は折衷の氣取つたもの、樋口氏出品の氣のきいたバルコニーを作つた建物など何れも夫れ／＼に工風をこらして居る。

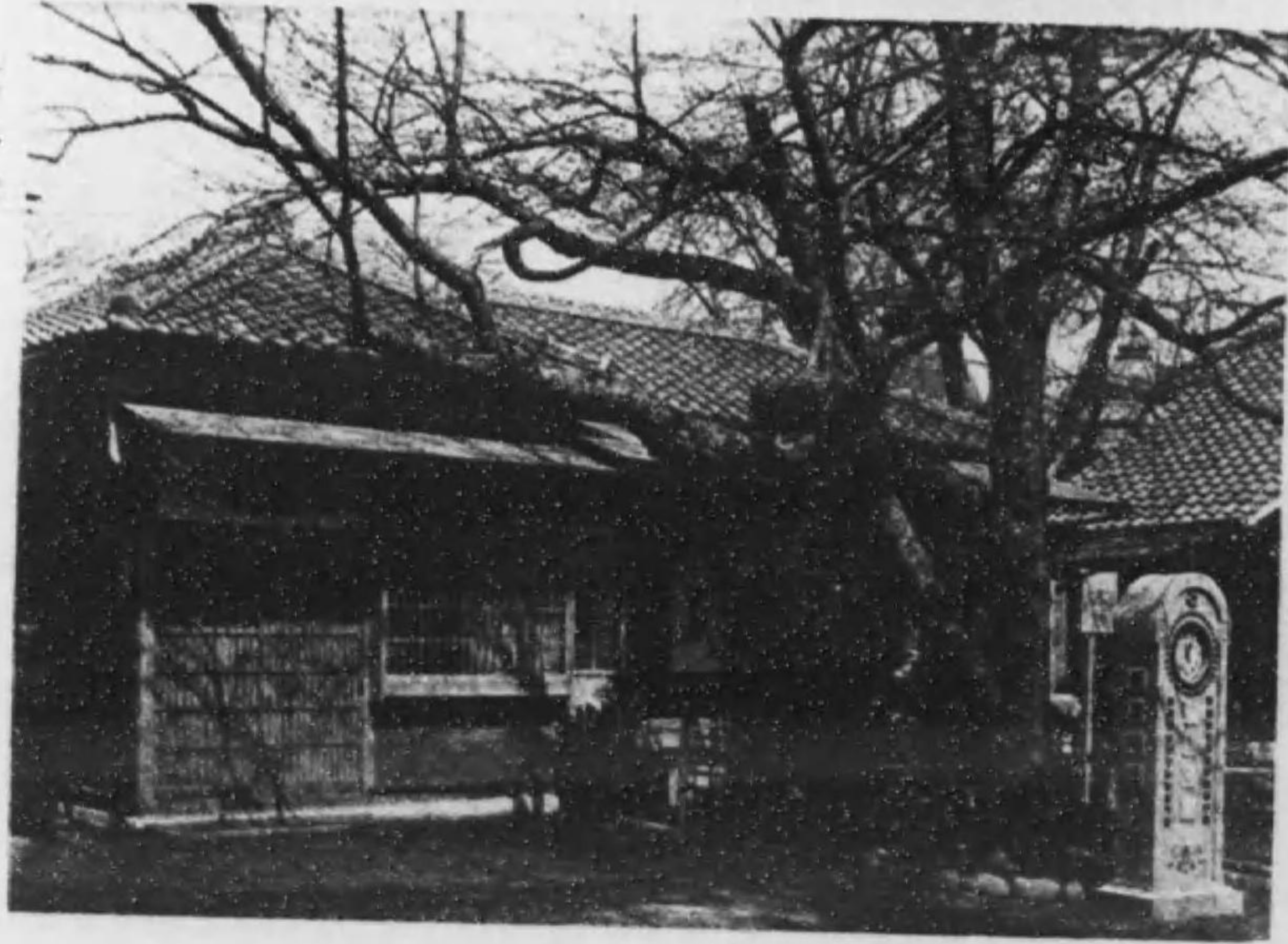
文化村



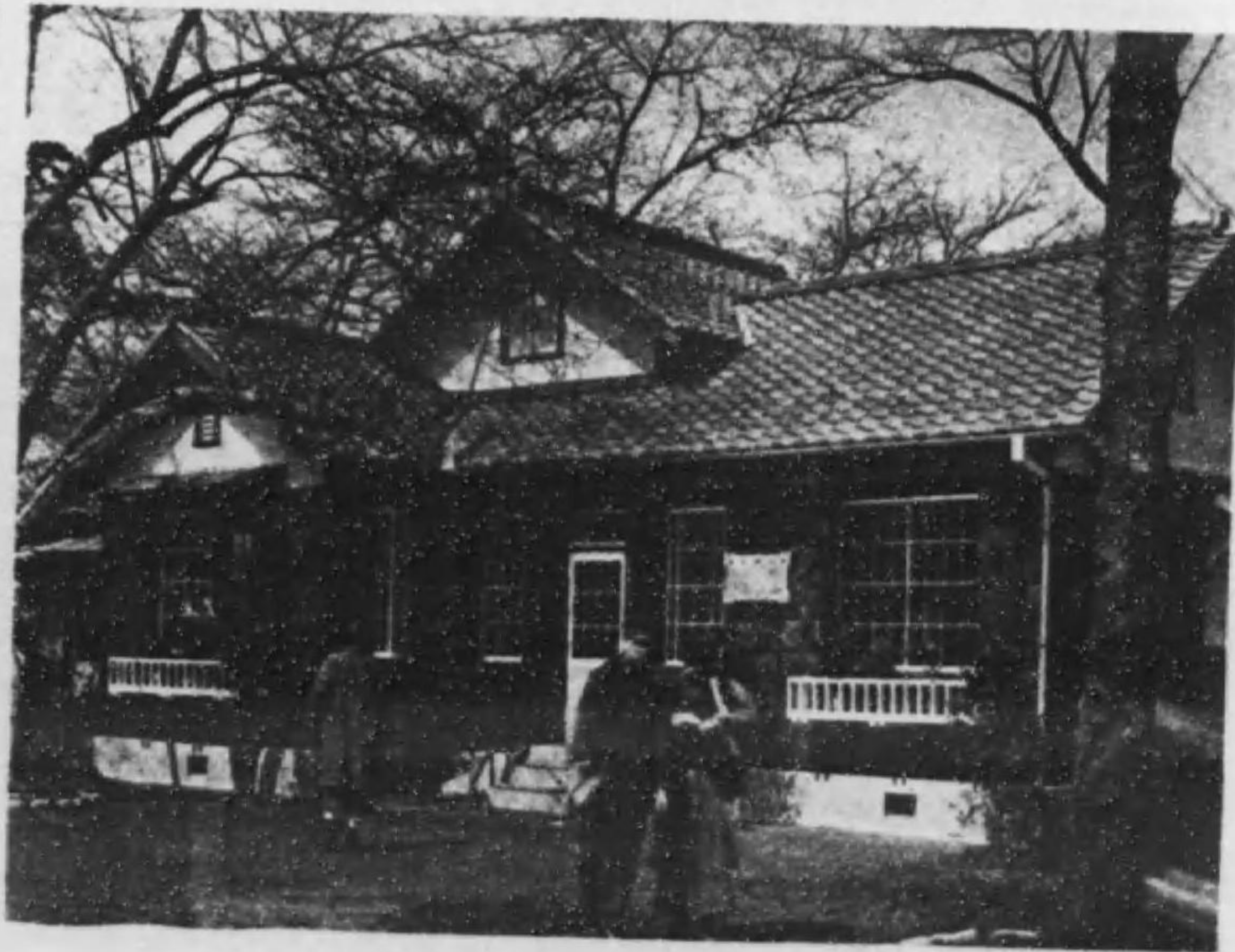
文化村の住宅



文化村



文化村



南洋館

この館は演藝場と陳列場の二つに區分され、ジャバ土人の歌劇や、女優團四十名のダンスがあり、蛇使ひやら魔術を見せたりする。陳列場には大鱈、大蛇、ゴリラなどの剝製から、南洋の特産品を列べて即賣する。尙此館は南洋方面の實情を内地へ紹介して、我等同胞の海外發展の爲めに必要な實物直觀資料を提供するものである。

萬國街

何となく淺草の六區を見た様な感じがする。即ち賣店やら飲食店やら陳列場などが軒を並べ、餘興場では英、米、佛、露、埃及、希臘、土耳其等、世界各國の粹を集めた美人連によつて、それ／＼其の國特有のダンスを演ずる外、埃及固有の筋肉靈動ダンスと稱する珍奇なるものも見せてゐる。

キリーヤク館

一見薄氣味悪い丸太造りの建物で、三人の女と一人の男が出演者である。男はなか／＼の巧者らしいが、女は引ずられて歌つたり踊つたりしてゐる。皆革命前の露國帝室附技藝員であるさりながら面白といふよりは寧ろうら寂しい氣の毒な感じがする。本館は最初西伯利亞館と別々の者であつたが、現在では双方を合同して入場料大人五十錢、小兒半額に紅茶の接待をしてゐる。

義士館

この義士館は四十七士の人形と遺物を蒐めて縦覽せしむのるが目的で、營業的に設計されたものだ。博覽會見物に来て過ぎし當時を追憶し、精神を緊張させるのも亦一興あることかも知れぬ。(入場料五十錢)



花王休憩所

花王石鹼の品質優良なることを廣告せんと目的により建設せられたる特設館であるが、又一般公衆の所息所に宛てられたものである。

味の素食堂

第一會場竹の臺の南隅、農産館の正面入口前に建設された、銀座鈴木商店の味の素應用の食堂である。恰も下谷淺草方向を眼下に瞰下するの位置にあつて、眺望甚だ良く、調理も亦頗る注意を拂つて居る様である。

サツポロビール特設館

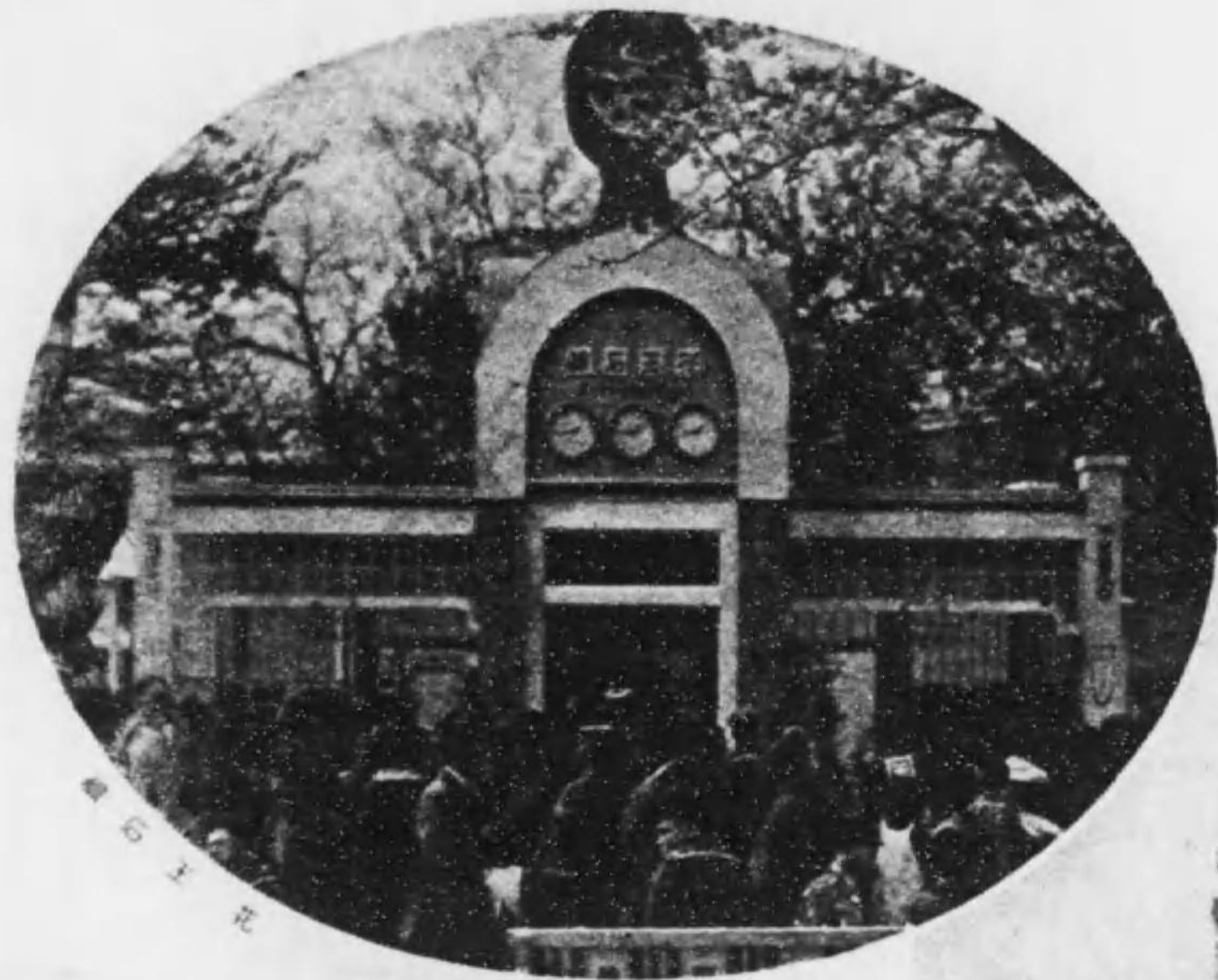
本館は蠶糸館の前クラブ館の右側に建設せられ、建築の善美を盡した事はクラブ館に匹敵する。ビールは勿論各種の洋食を調理し軽便なる食事をするに適當である。

キレー紙休憩所

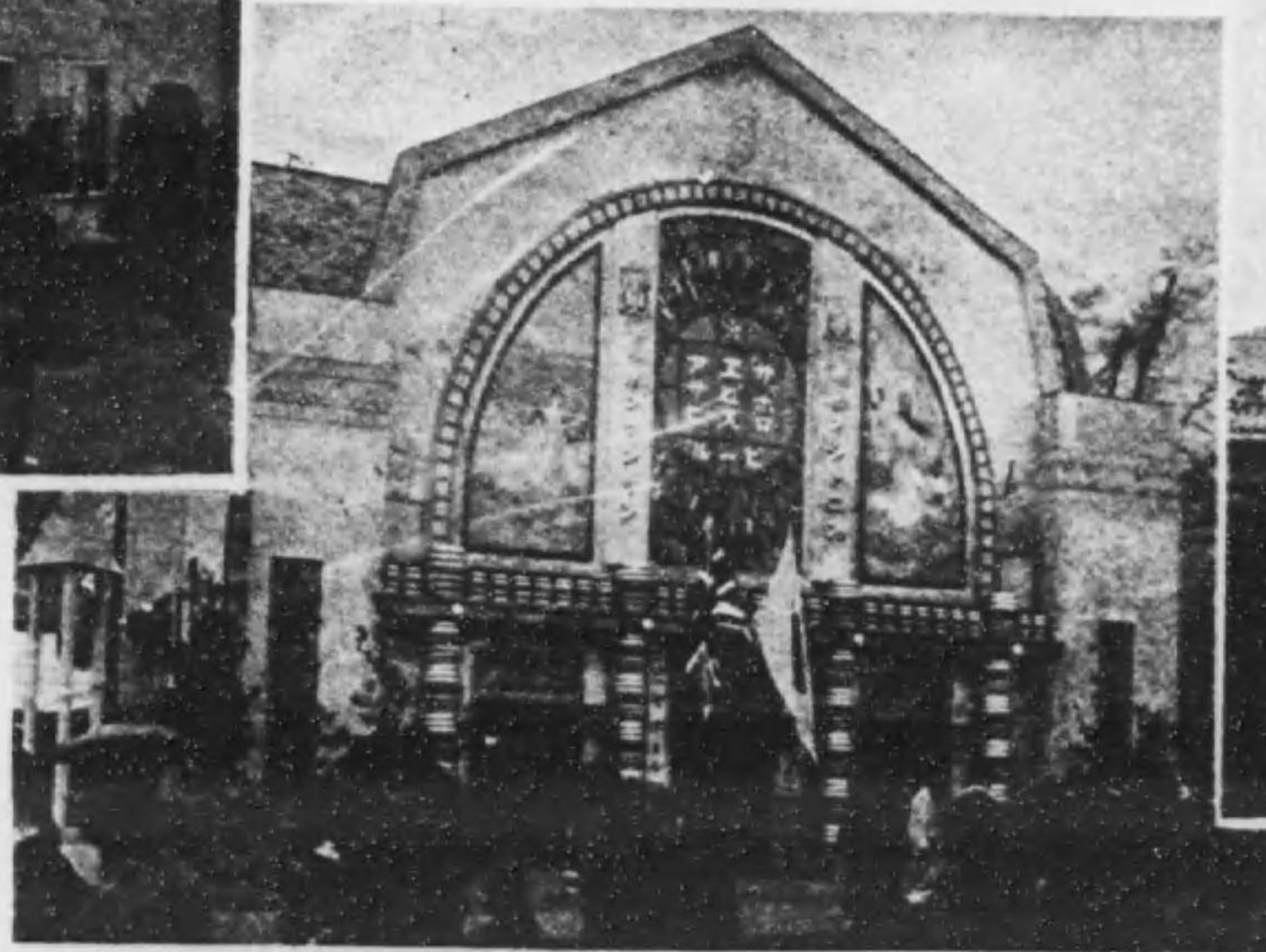
之れは竹の臺の東端水産食料館の前に建設せられ頗る眺望に富み、一般の休憩にされてゐる。



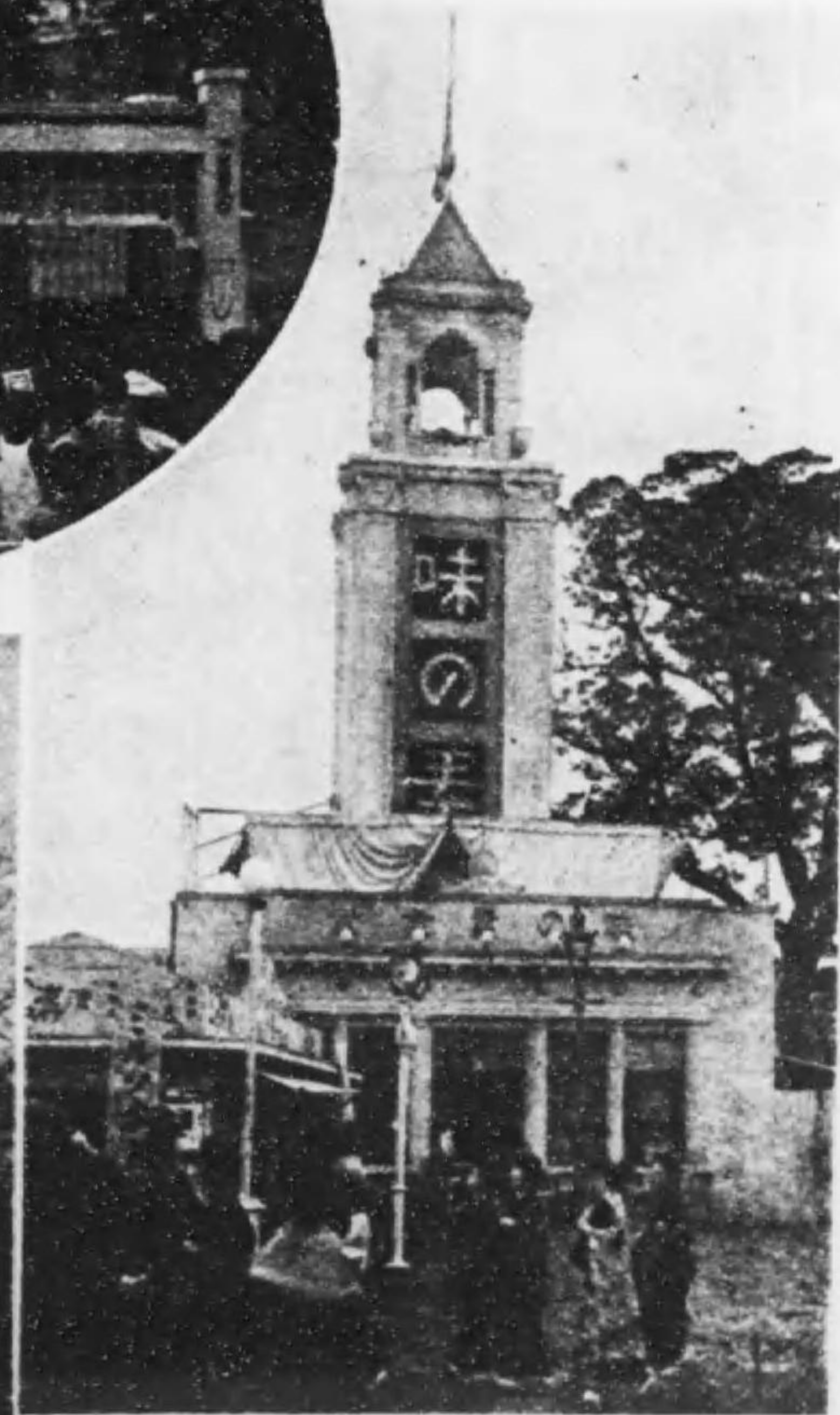
キレー紙



キレー紙



キレー紙

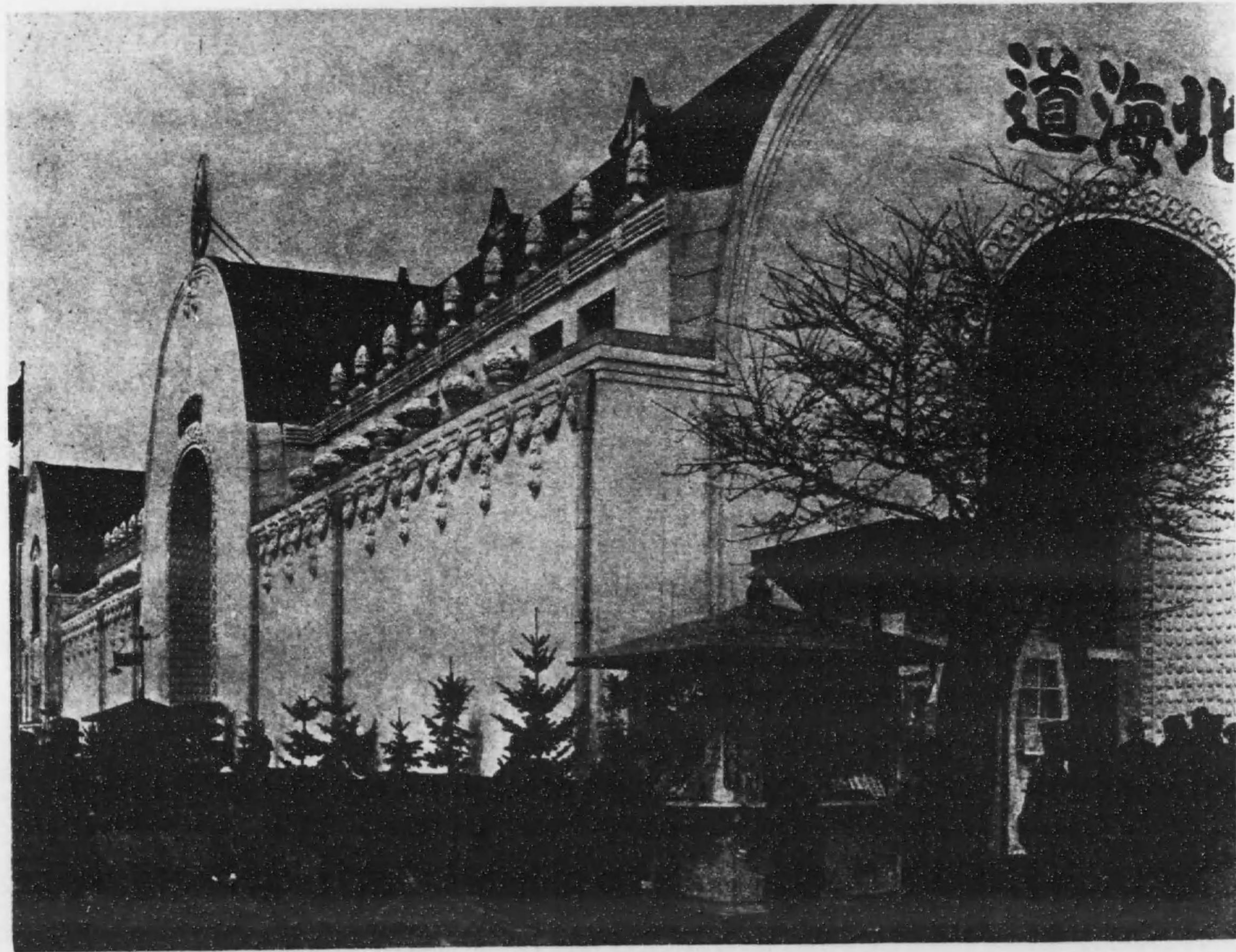


味の素



北海道館

本館は北海道廳の出品にかゝり建物は北國の雪を思はせるやうな白壁館としてしある。陳列品は農産水産木工等の特産物があり、その背景には凡て出品物を一目瞭然たらしむる繪畫や文字で説明してゐる。上部には幅二間の大額三十三枚に札幌市街中ノ島公園等、北海道の景色が油繪で描いてあるなど要するに北海道の廣々した大農場と重要産物の甘さうなのに眼が着く。其他黒田拓殖使長官が初めて北海道に渡つてアイヌ部落を踏破した風俗の人形や、名物の豌豆よりの婦人人形など面白く飾り付けてある。又館の一部では同道の産業状態や、風俗景色等の活動寫眞を映寫し、大に北海道の開拓思想を奨勵して居るなど、此等の植民地館は何れも我國發展の跡を無意識の間にも何時か深く氣持ちよく見せて呉れるのであるから、入場者は大に注意して見る價値がある。



北海道總館

樺太館

北海道に劣らぬ建物で樺太廳を真似て意匠を凝らし、館内をバノラマ式に壁書を以つて四季に分ち農業、牧畜、産業、收穫、林産等の作業及び生活状態を現はし、春ならば未開墾地を背景に、冬ならば木材製出の状況を背景にするなど人目を惹く。殊にニシン漁や、紙の原料バルブの製造の如きは都人士の好参考である。その外特産物の黒狐の毛皮等を陳列し、同時に同地特産のフレツプ酒や、魚類の燻製等の即賣もする。また北清風の宮殿を型取り、極彩色を施した家屋や、館の一部に皮つきの丸太で原始的な素朴な樺太風を遺憾なく現した休憩所などが設けられてある。

西湖亭

其のお隣り北海道館前池の端にあつて、西洋料理で日本人に向く様なうまい者を提供して居る。

キリンビール

美しい龍頭にて裝飾した千石船式を模し池上に浮かしてある。これは中央亭の經營で、洋食は何んでも出来るし、味のよいキリンビールを出す。

朝鮮式食堂

此處では朝鮮物産を用ひて生粹の朝鮮料理を味はせるが、給士女は何れも日本語の巧みな朝鮮良家の子女である。

滿蒙館

本館は北清風の宮殿造りで四圍に丹碧の彩刻を施し、屋上には金鱗燦たる蛟龍を取り付け内部の壁間には青龍が躍つてゐるなど特色ある建物である。本館は滿蒙の地が如何に無限の寶庫であるかを天下に知悉せしめんがため、滿鐵會社が經費約三十萬圓を投じて特設した者である。階下には鞍山製鐵所の製鐵で作つた廣軌機關車の汽笛を始めとし、九坪餘の大連港模型、南洋方面にて歐米品を凌駕せんとする滿鐵窯業試験工場製の各種硝子類、豐富なる鐵、石炭、滿蒙に於ける綿羊の改種工程を剝製にして現はし、尙支那古代の美術陶磁器に選色なき模品、豆素麵、伊太利産に優る大理石、滿洲獨特の絹、袖絲及び織物、羊毛、毛織などや建築會に有名なる鴨綠江材を以て仕組める日本座敷等、何れも各種代表的産品を以て充たされてゐる。

二階には支那宮殿など人目を奪ふものがあり、此所では態々安東縣から呼べる美妓の新鴨綠江節を聴くことが出来るし、また即賣店もある。三階は休憩所に充てられてある等この館は平和博中隨一の呼物であらう。



清 家 記

朝鮮館

朝鮮總督府が特に多大の費用を投じ全部建築したる特設館であるから建物の雄大なことに於て池畔を壓して居る。本館は京城の慶會樓などをモデルにした大建物で、棟の上には守護神なる鬼龍子の變な怪物を從へて俯瞰して居るのには先づ觀者の目を惹く。階下陳列場には朝鮮特有の美術品や、特産物の紹介に大に腕を凝らして居るが、中にも朝鮮特有のオンドル家屋に人形を配し、彼の地の生活状態を窺はしめたのは參考にならう。尙ほ別室に這入ると本館の呼物たる金剛山の模型がある。之れは高さ二十尺、廣さ七十坪といふ大模型で彼の地の風景が偲ばれる。二階は接待室で餘興に官妓の手踊りを見せ、可憐な朝鮮の少女が茶を汲んで呉れる。館前池の端には朝鮮協賛會が施設した食堂がある。



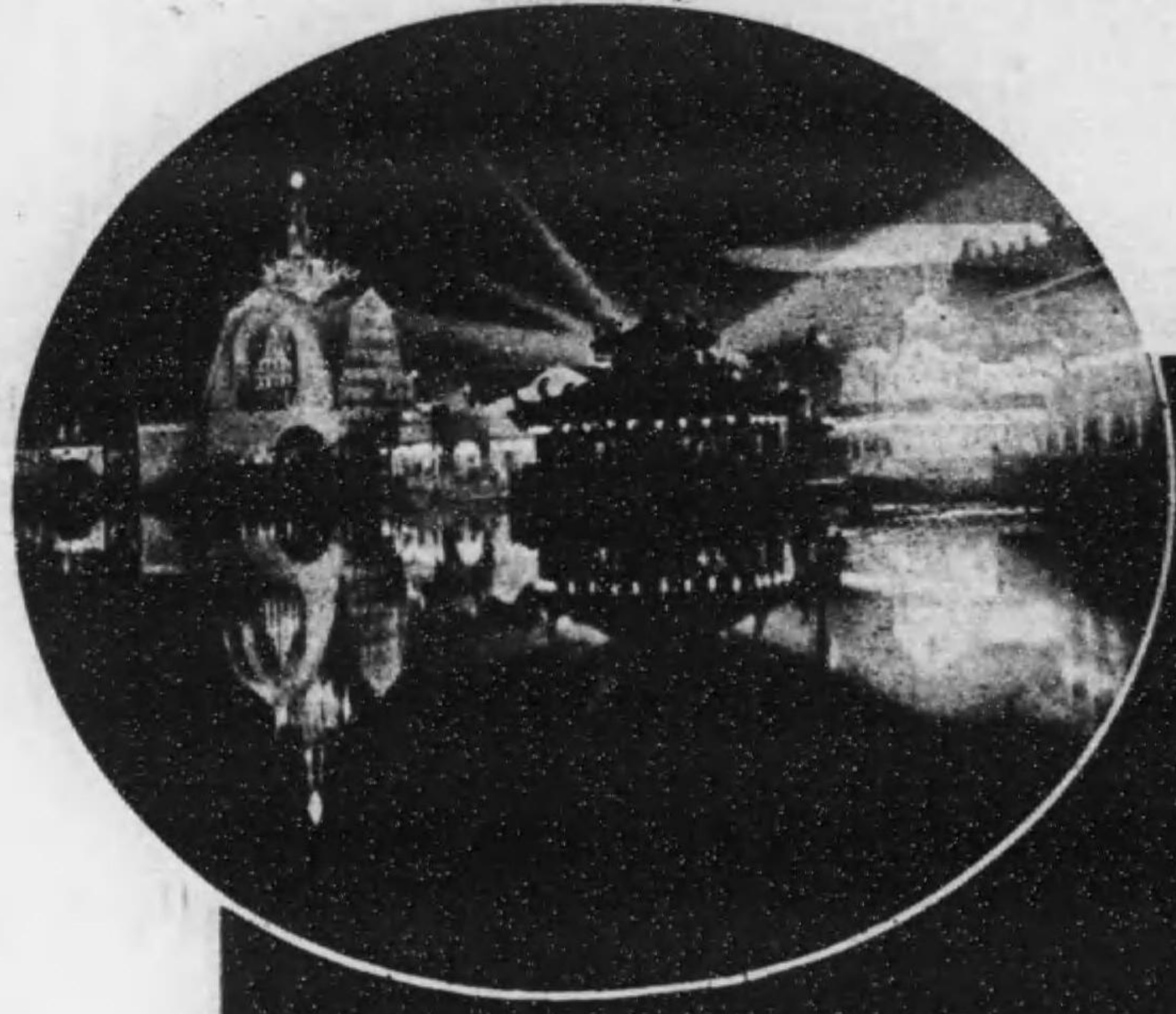
朝鮮宮

滿蒙館の夜

何といつても今回の博覽會の見物に第一の美觀を添へるものは第二會場の夜景である。特に本館及び之れに並んだ朝鮮館、臺灣館附近の夜の電飾は事實空前の美觀といふも誇言でないであらうと思はれる。

本寫眞は實際夜景の粹を集めたもので、其の眞に迫れる、サーチライトの美觀實に其の地に在るの思ひあらしむるのである。

ライオンズ



明神宮と海軍の夜



香夜の館家酒館大新

臺灣館

本館は臺灣總督府の建設せる特設館で、様式は同島の廟舎をモデルにした純臺灣式の粹を集めた建物である。内部の中央には長さ五間、幅三間の臺灣全島の模型が陳列されてある。同島には今回東洋第一の大發電所を設け第一期工事として十六萬馬力を起す計畫であるが、其の模型中發電所の要所には豆電燈をつけてゐる。館の入口には五萬圓の費用で樟腦塔を作り、周圍には樟腦の用途産額等の比較表が掲げてある。此塔は閉會までに約一割發散するさうだ。又明治神宮大鳥居の用材阿里山大樺の根本を切つたものがある。これは九百年を経たもので一目見て分る様に年輪が現はしてある。入口の左には淡水溪の模型が陳列されてある。その外十五尺角で高さ二十尺ある大砂糖塔や、臺灣特産品が漏れなく並べてある。即賣店の中央にはバナナの實が甘さうに木からブラ下てゐるなど見物である。



館 灣 臺

臺灣喫茶店

臺灣館の前方不忍池中に棧橋を架し、臺灣館に似合ひたる八角形建築物にて、特に臺灣産の食品を内地人に味はしむるを目的とした賣店である。

森永菓子店

同店獨特の製菓を販賣せんがため特設したるもので、菓子の販賣の外喫茶店としてコ、アホールも開いて居るし、製菓機械を据へ付けて製菓の實況を見せて居る。

青島休憩所

青島政廳の出陳で一般見物人の休憩所になつて居る。

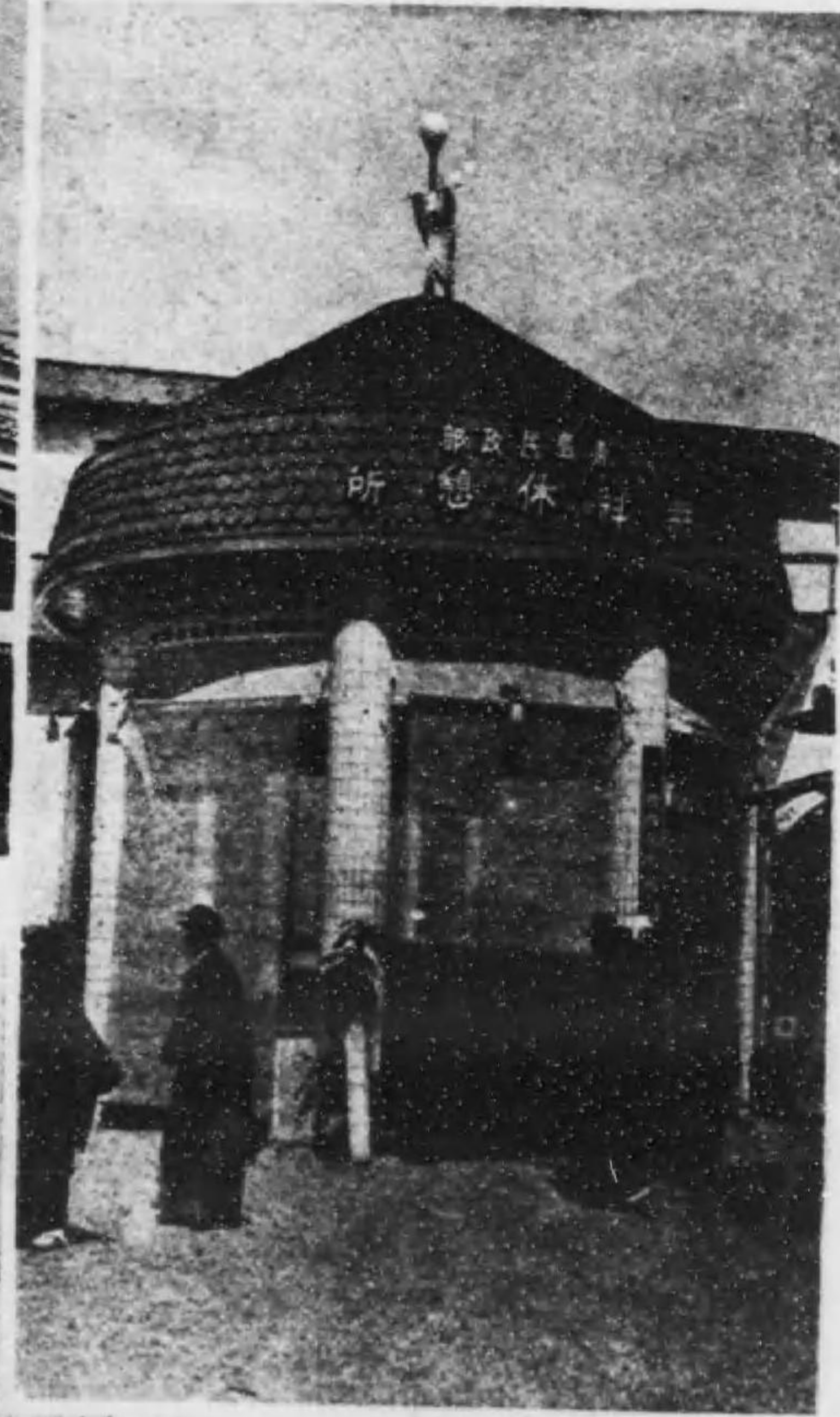
精養軒食堂

有名な西洋料理店精養軒の建築したるもので外國館前池畔の賣店中第一に美麗なる建物である。本店は西洋料理を主として調製して居るが、コ、ア、ビール等簡單に飲食することも出来るのである。

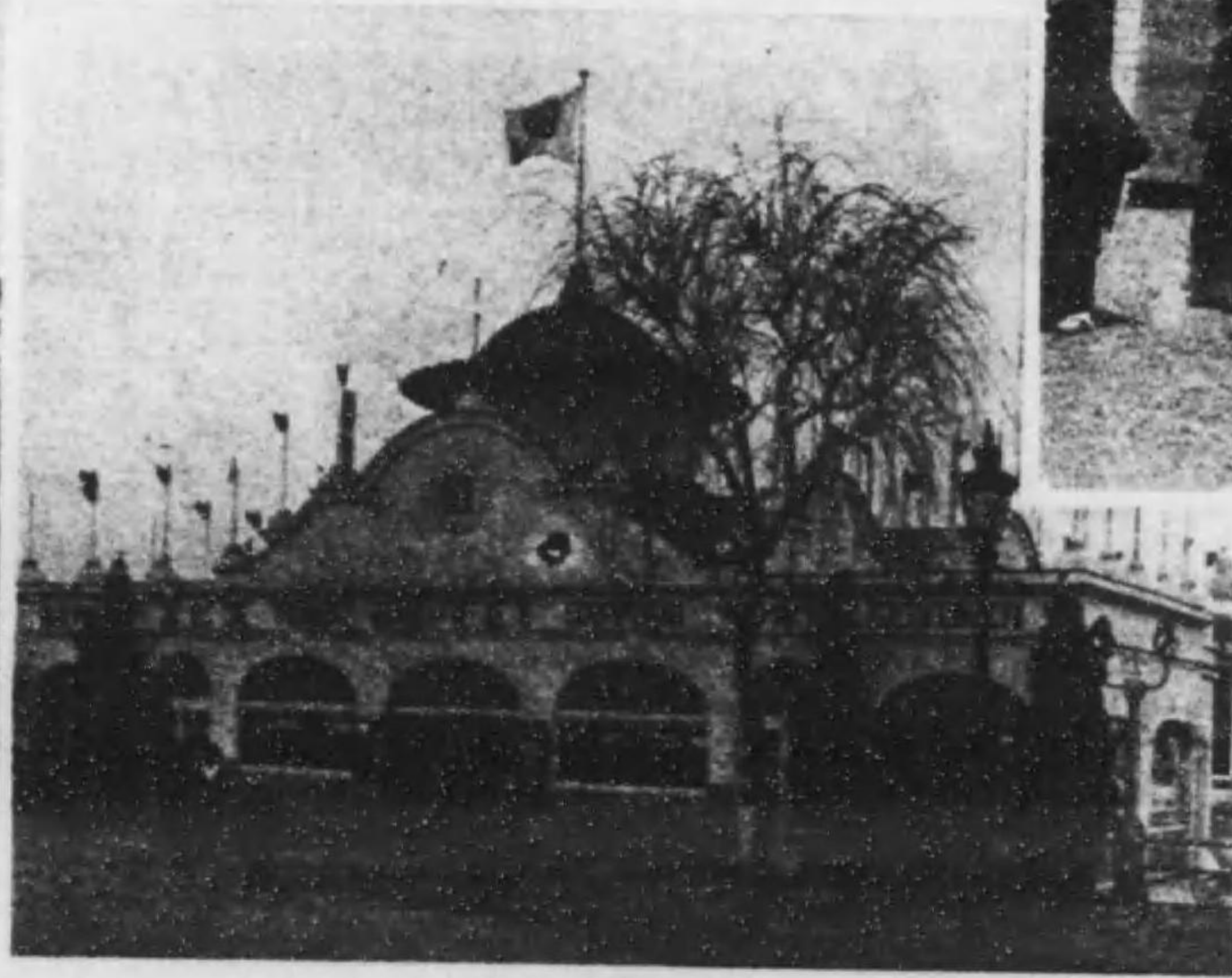
森永の菓子賣店



店茶噴港台



部政民為育
芳體休科無



店會新養新

外國館

本館は不忍池畔の中心にある永久保存の建物である。天井には天賞堂出品の廻轉地球儀を備付け、其の上には朝倉文夫氏の作の價格八千圓といふ平和の女神を起立せしめ一方天井一面には各國を象徴する特有の造花で飾つてゐると、充分平和の氣分を漂はせてゐる。また館内一面に瑞典米國佛國チエツクスロバキヤ獨逸埃太利等が、それぞれ腕によりをかけて各獨特の出品に産業の弱を競争しやうとしてゐる。それ等出品中瑞典ガテリユース會社の水力電氣機械は現在の水力電氣機械の四分の一の力で、立派に同量の電氣を發電させるといふ驚異的なもの。また米國スタンダート會社の石油を燃料とする煤爐暖爐等の家庭用具の如き、とても日本では眞似の出來ぬ厄介な品物がある。更に佛蘭西は正面入口の右側全體に陣を占め、全國的二十會社が連合して綜合出品を行ひ、天井には特産物たるポルドウの葡萄棚を設けて佛國の秋を現はし、陳列品としてはコーベンハネン社の葡萄酒や三鞭、コニヤツクを始め、流石世界流行の源泉地だけあつて、香水や絹布其の他いろいろの装身具、化粧品などが美事に列べてある。獨逸では精巧な家庭用活動寫眞器や染料品、高聲電話補聴器等で、如何にも獨逸らしい堅實さを見せてゐる。又埃太利では名物の葡萄酒や、ベルモットを入場者にロハで飲ませようとの宣傳振りである。この外極東貿易が獨特の飛行機部分品を、日佛銀行が精巧な寫眞器や理科機械を出品してゐるのにも目に着く。要するにこの館を見れば、戦後の各國が如何に産業の恢復に孜孜營々たるか判るのである。尙五月中旬を期し特に外國デーを開催するさらである。



館 國 外

十
四
前

英 國 館

本館は横濱と神戸の商館連が兩肌ぬぎて大英國の堅實なる製品を紹介せんがために建築出陳したるもので、諸種の英國製品は勿論、實際的に編物機械を動かしたりオーパーセーターや靴下等の編物實演まで見物させて居るのである。



館 國 英

外國館前庭園

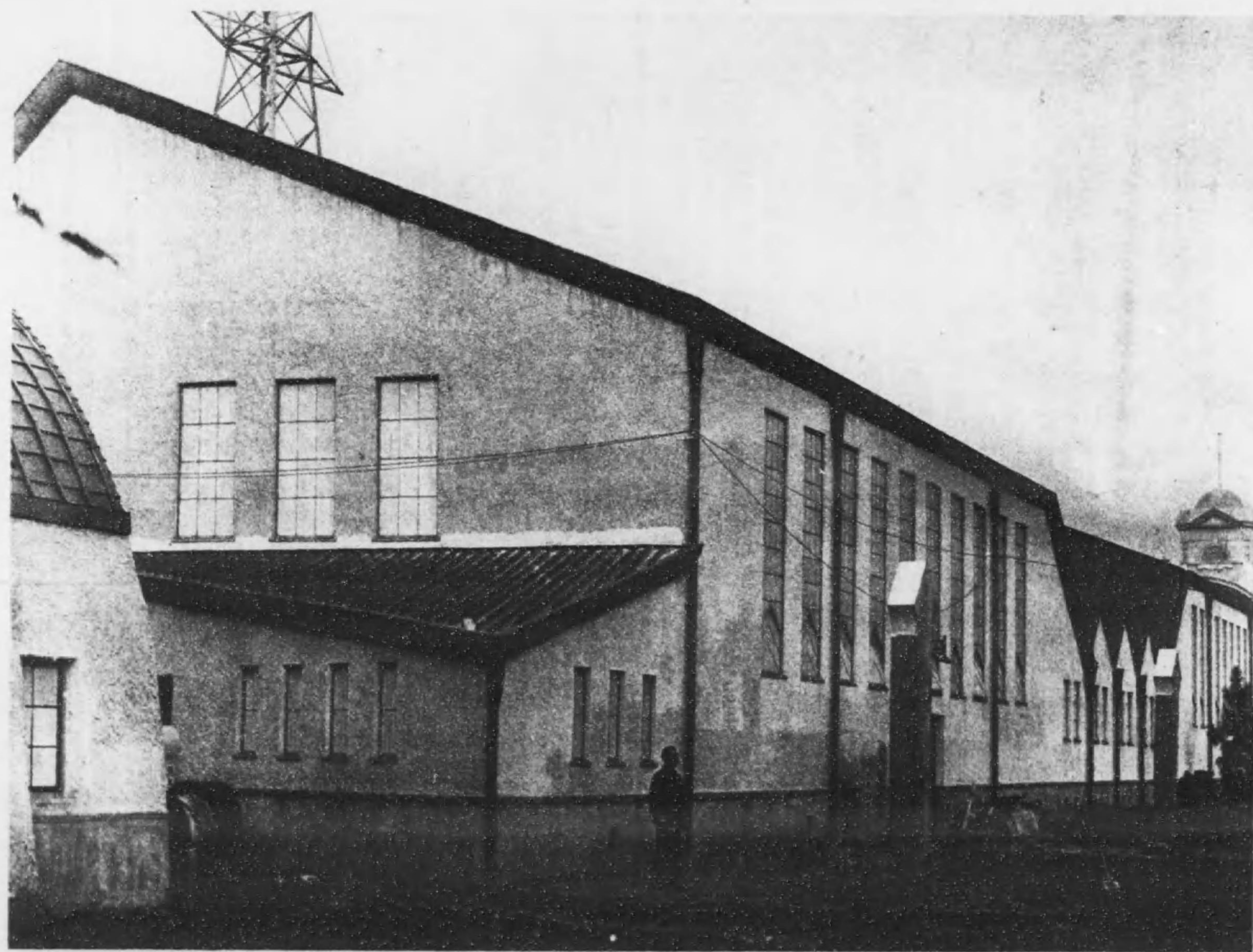
本花園は外國館前にある裝飾庭園で、中央に圓形の池を作り、其の周圍に池塔を建て、之れに噴水を排して美觀を添へ、尙池の周圍には種々なる花卉を栽植し、館内巡覽者の目を此處にて慰安せしむる様になつて居る。唯々惜しき事には草花の未だ充分に植付かざるため庭園的の雅趣のなき事は致し方なき事である。



庭前館國外

電気工業館

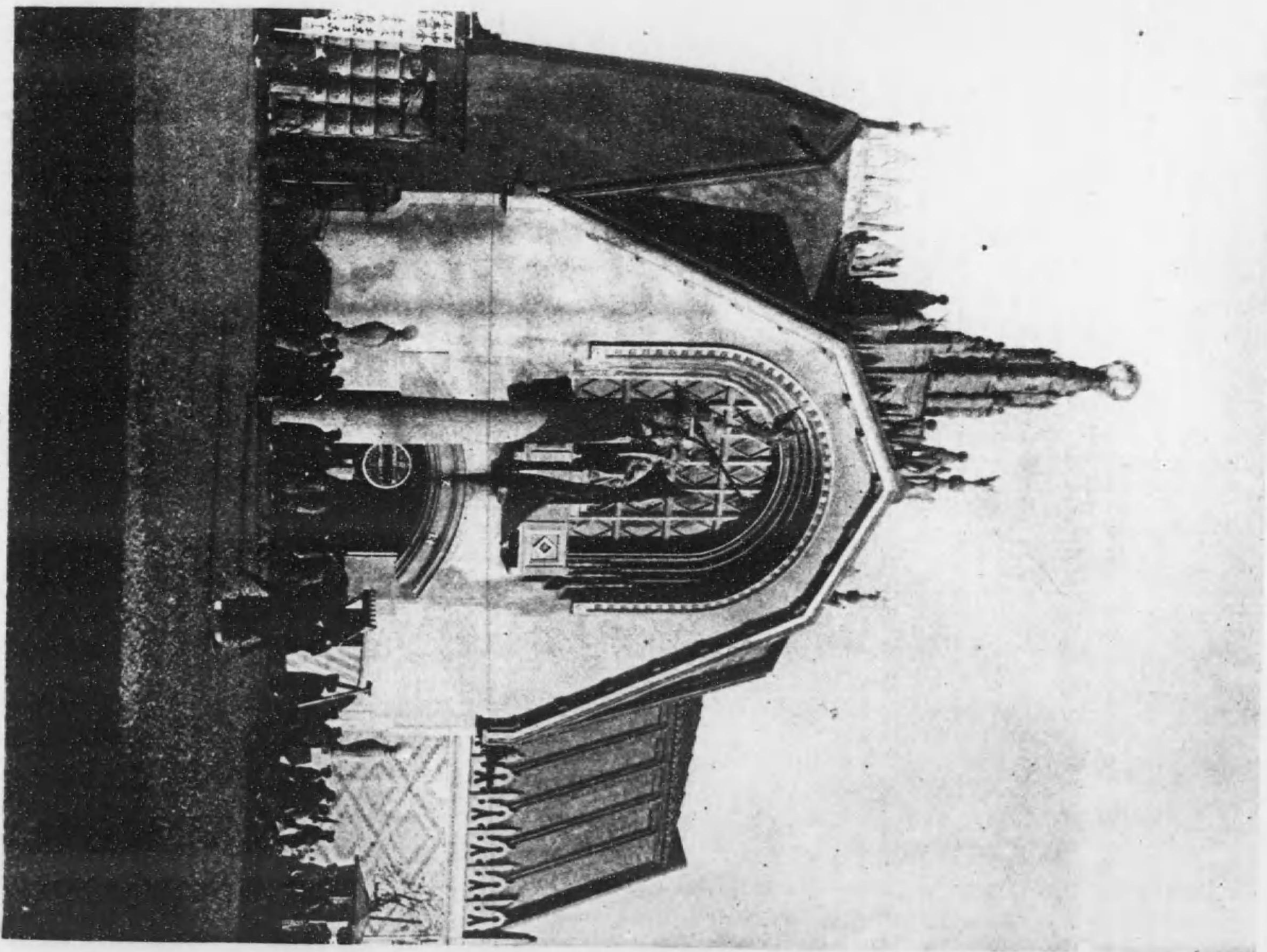
素人にも専門家にも面白いのはこの電気工業館である。本館は電気協會が歐洲戦亂の結果俄に我が電気工業界が異常の發達を遂げた關係から、大肌脱ぎで骨を折つただけに陳列方法なども頗る新し味が現はれてゐる。まづ館内中央の大ホールには家庭電気といふ大廻轉臺があつて何れも人形で電気事業の進歩を示し、男性の部では電気機械類や、中性の電機硝子等で左程の興味はなからうが、女性の部の「家庭と人性村」暗黒より光明へ」の如きは、婦人子供にも興味の盡きぬものである。また正面入口を這入つて中央にある直徑四間の圓形陳列臺は、徐かに廻轉してゐるかと思へばその周圍には電気仕掛の造花が開いたりつぼんだりして、その度毎に花の中心に裝置された豆電球が明滅する。また前に述べた廻轉臺には、蠟燭時代から行燈、ランプ、電燈と時代を追つて、人を飽きさせない工風を凝らしてゐるが、文使ひや飛脚屋さん全盛の時代から今日の電話時代を通り越して、將來は自宅の電話が航海中の主人と用談が出来るなどは羨ましがれる人も少くあるまい。



電 氣 館

住友館

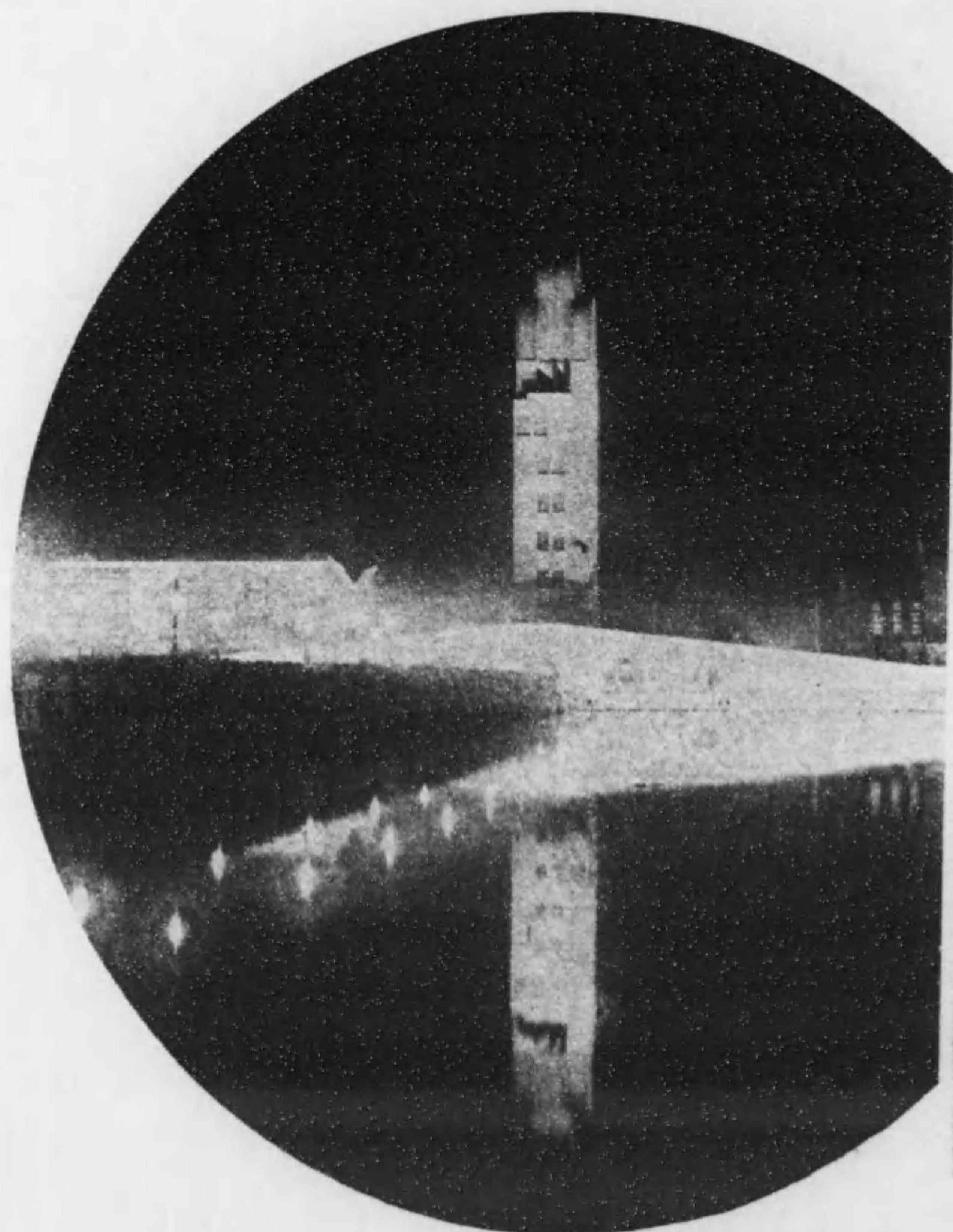
本館は第二會場外國館の正面、不忍池畔に建てられたる一種異様の建築物である。日本鑛業界の權威者住友鑛業所が特に設立したるものにて、内部の陳列も全部同所に於て製作したる電氣機械等を廣く紹介せんとするものである。



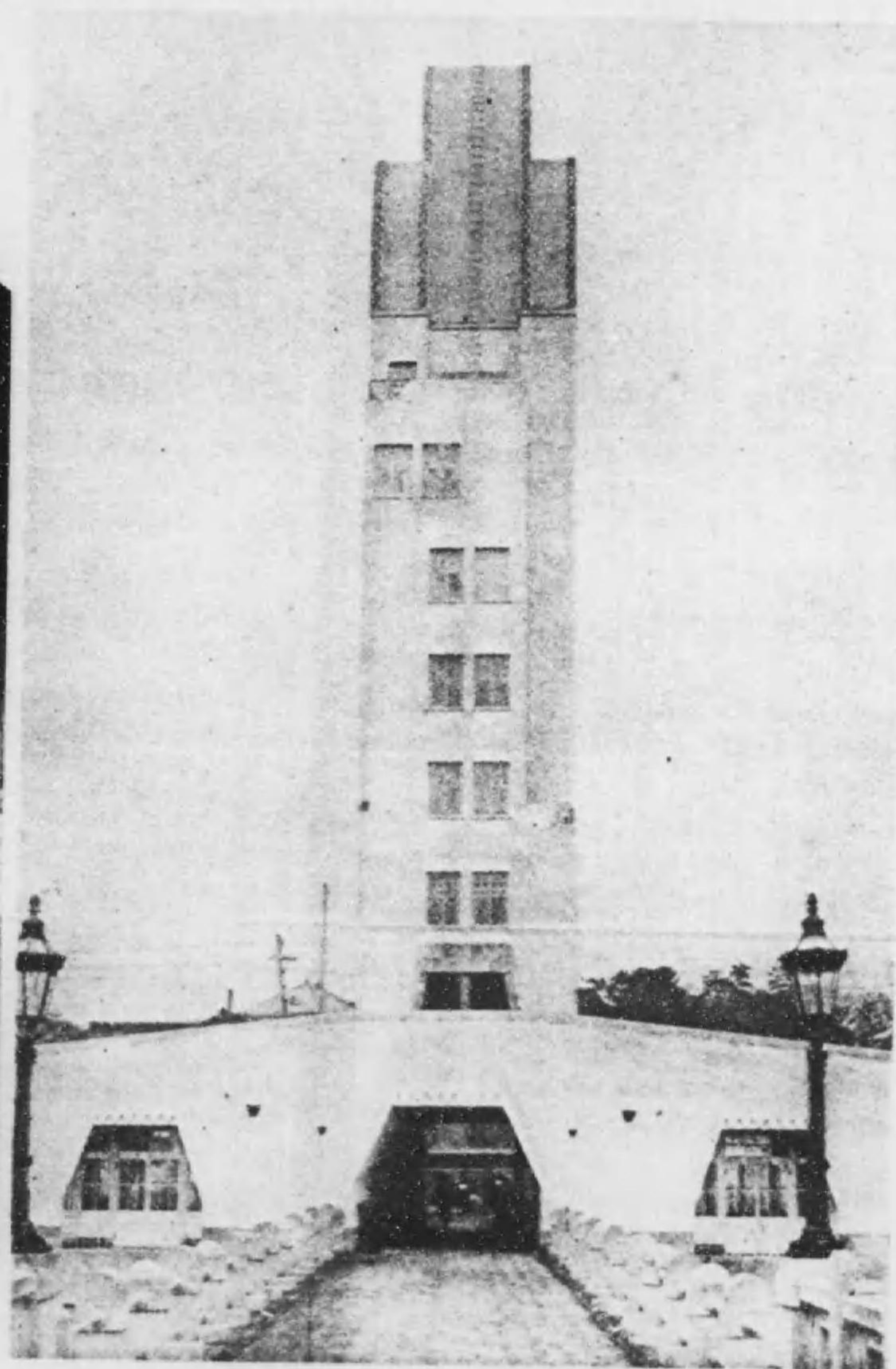
船友住

池塔

之れは池の端西側下谷茅町より不忍辨天堂に通ずる
観月橋入口に建てられた塔にて、第一會場より第二
會場に通ずる平和塔に相對し第二會場内の異彩であ
る。寫真別圖は本池塔の夜景を撮影せるものにて晝間よ
りは一層の美觀を呈して居るのである。



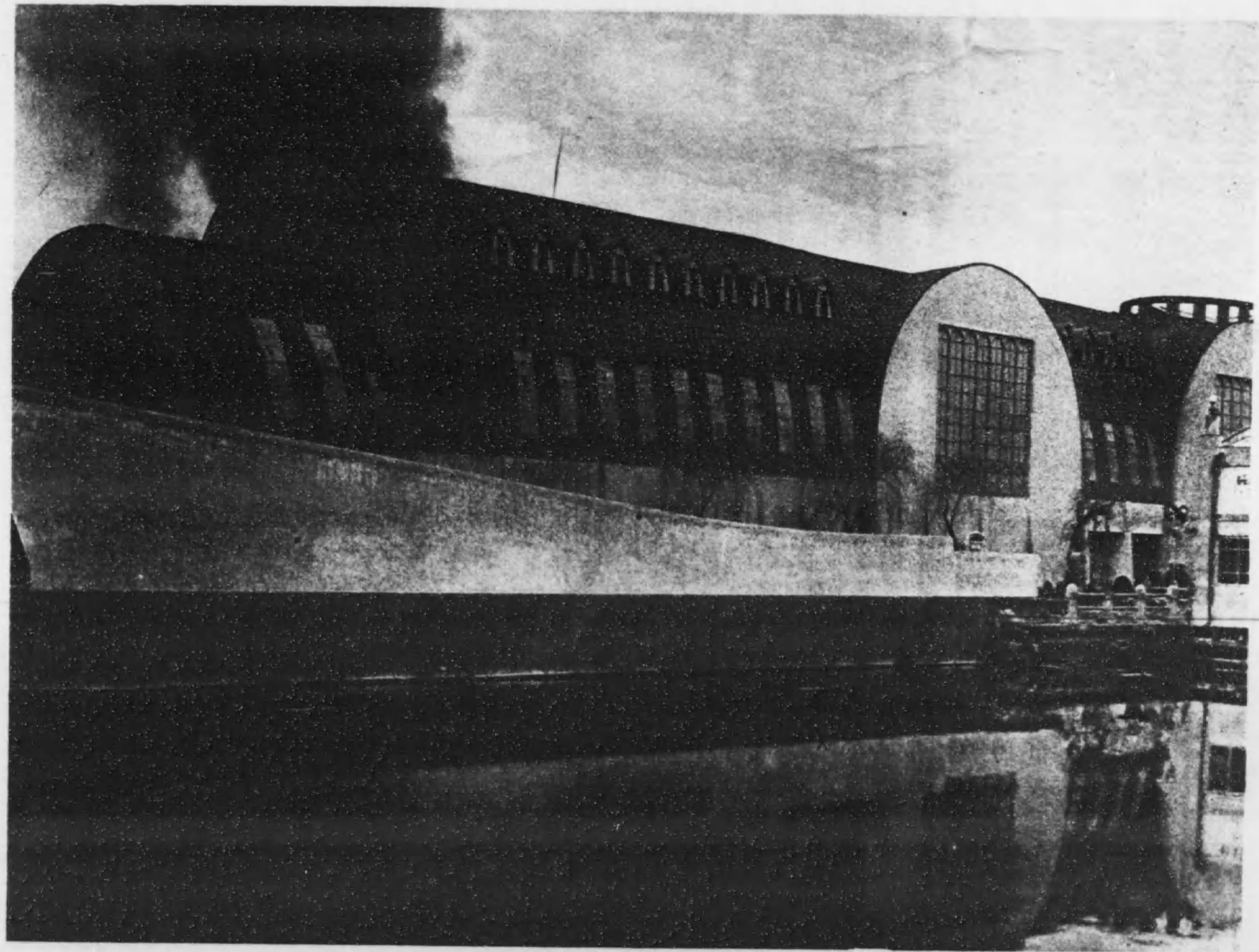
同夜景



同景

機械動力館

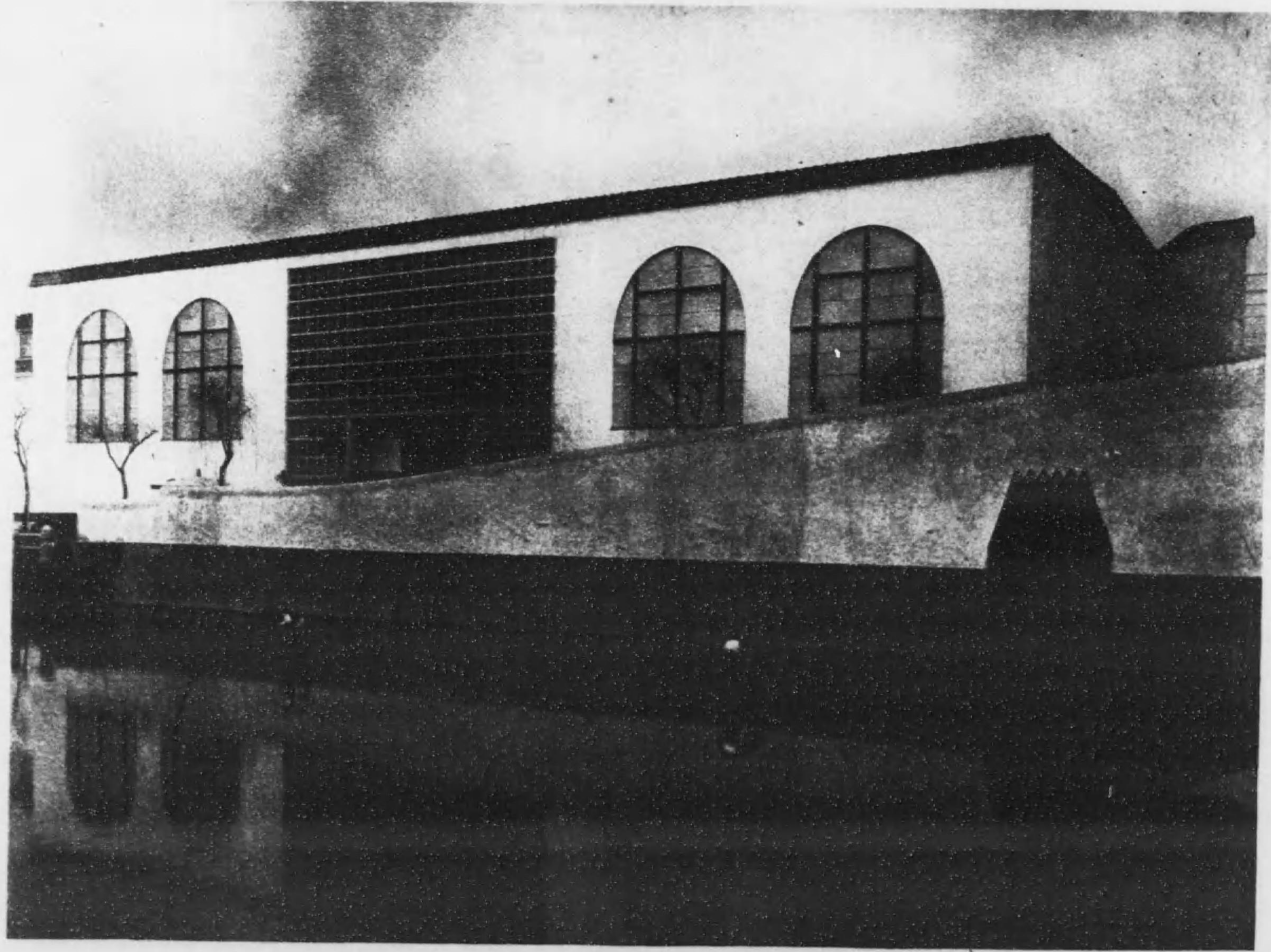
名から堅苦しい機械許りで専門家以外には何等の興味もない様だが、それを面白く観させやうと云ふのがこの館の苦心の存する處で、その結果他の館に見られぬ珍趣向が凝らされてある。内部には試験機や工作具は機械工業の父母であるといふ意味から、等身大の裸體兩性像が飾られ、その基臺の周圍には各種の機械類が陳列してある。又内壁には長谷川榮作氏の刀に係る石膏浮彫がはめ込まれ、天井には優美な美燈装置が美しく輝ひて居る。隣接區劃は單に眞鍮棒應用に止め、何處からでも自由に見ることの出来るやうにしたのがこの館の陳列法として新しい試みである。尙本館は會場各館の諸設備を動的にする本部になつてゐて、芝浦發電所から毎日五百キロワットの電力を供給されてゐる。



館 力 動

交通館

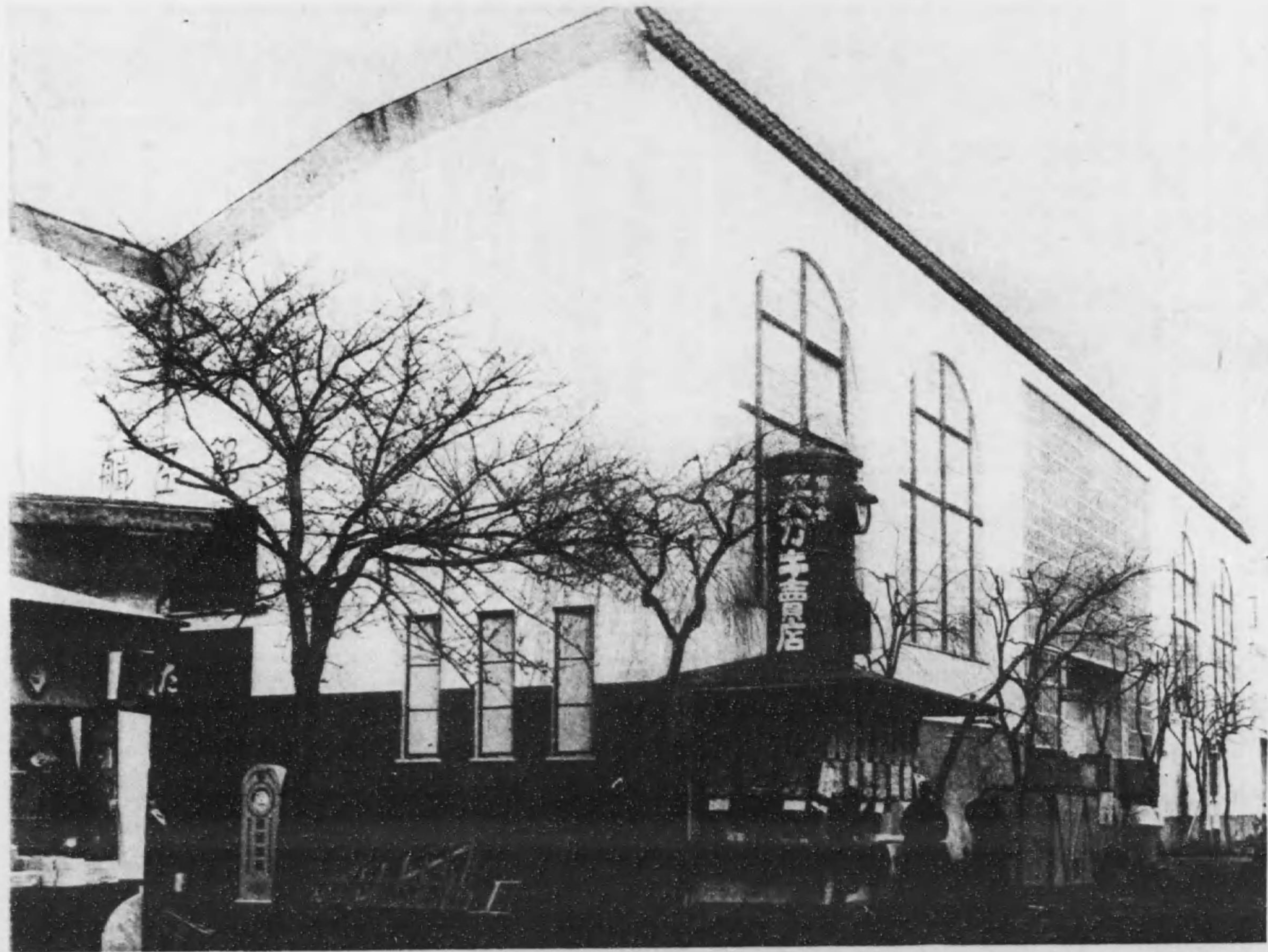
本館は他の端西側に建てられた異様の形式によつた建築である。内部には主として車輛、運搬包装材料用具、船舶及び局部設計圖面、模型等より船舶諸機械、船舶材料、造船海運潜水作業用具等を陳列したものであるが其の中重なるものは日本郵船會社出品の世界航路模型及び小さき池の中に汽船を浮べたジオラマ式に運轉せしむるものや、遞信省出品の航空標試用廻轉明滅式燈臺、その外日本橋附近の地下鐵道完成後の模型など見るべきものである。



文通館

航空館

本館は交通館と同じ棟に在つて唯内部にて分類されて居るのである。主として航空機、航空機製作材料、航空用計器測定器、航空事業及成績等につき陳列したもので、館内には四臺の飛行機實物を並べて見物人を驚かさうとの計畫であるが、意をいへば實際飛行させて見物人を乗せることが出来れば申分かない。尙中央塔には、我國飛行界以來の墜死者の小照を掲げ、尙民間飛行墜死者佐藤章氏が滿洲飛行の雄圖に對し、秋田縣人會が四萬圓を投じて建造寄贈した飛行機が亡き人の靈に捧ぐるため記念として出陳してある。



航空館

電話の發達

電氣工業館内へ日本電燈株式會社の出品した人形の飾り付けで、之れは昔時の文使ひの御殿女中や、現在の電話、將來の電話等、等身大の人形にて飾り付けたる趣味ある見物である。

傳書鳩

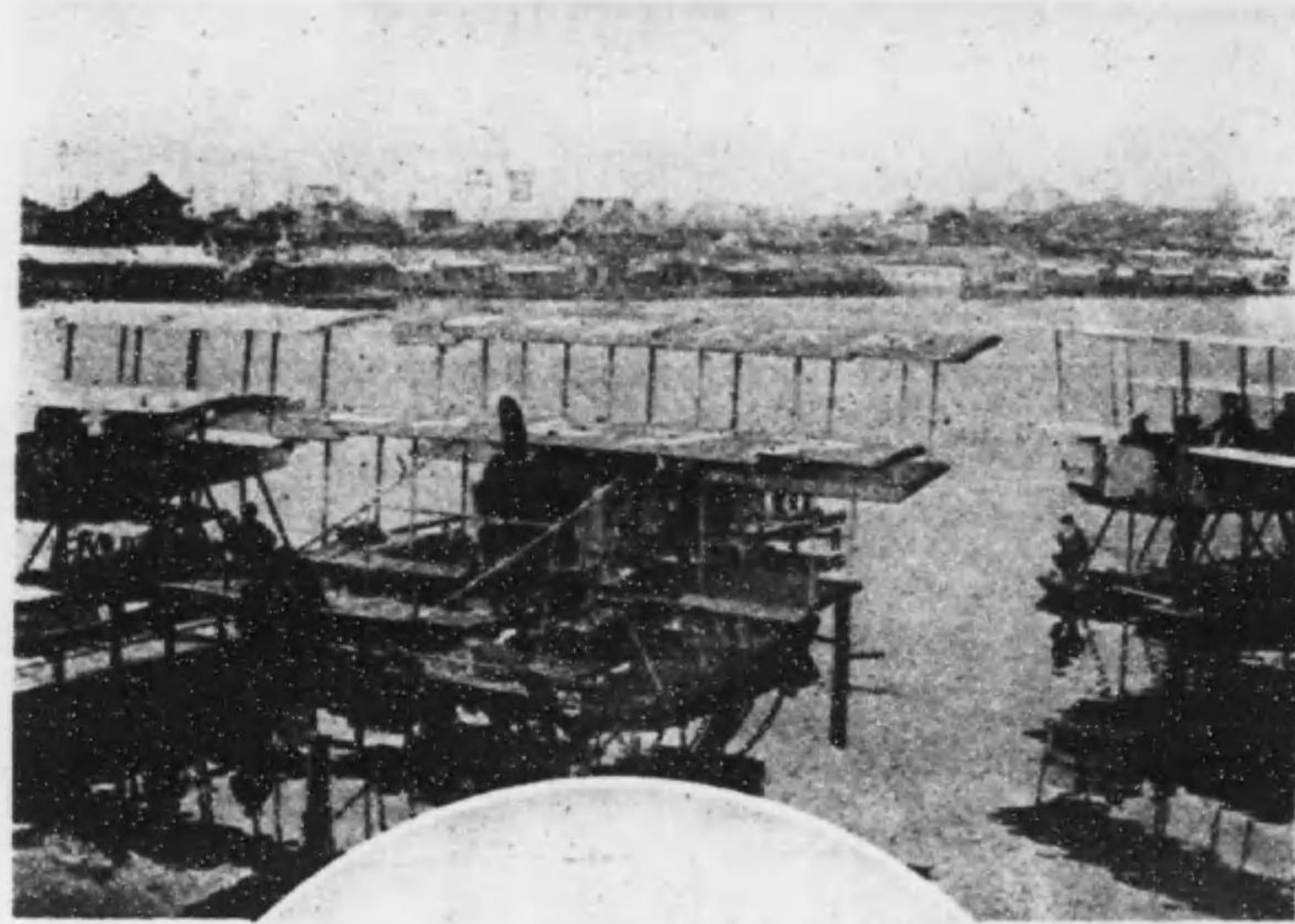
之れは陸軍交通局の出品に係るもので、一種の移動装置を有する飼養函を有し、其の中に數十羽の傳書鳩を飼育し觀覽に供し、尙時々其の實演を見せることになつて居る。

航空館の飛行機

本寫眞は前項航空館説明の際記述したる秋田縣廳出陳の秋田號である。

水上飛行機

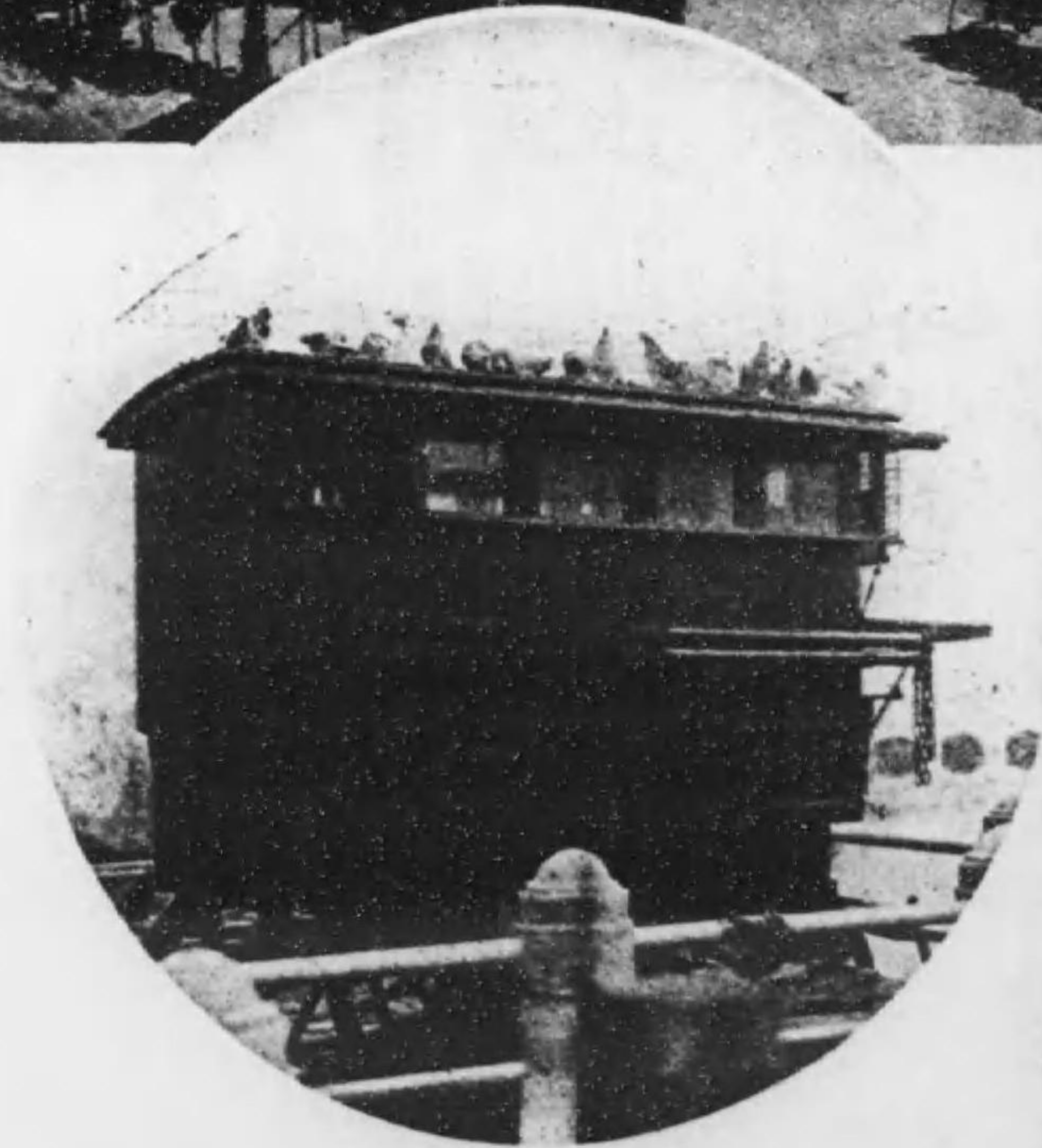
本寫眞は會場外に於ける餘興の一種で、即ち北海道館入口左手の池畔に設けられ、茲より磯部式水上飛行機がプロペラの爆音のみ勇ましく唯不認池南部の水面上を滑走するに過ぎない遊戯船である。これは大人六十錢小兒三十錢の同乗料を要する。



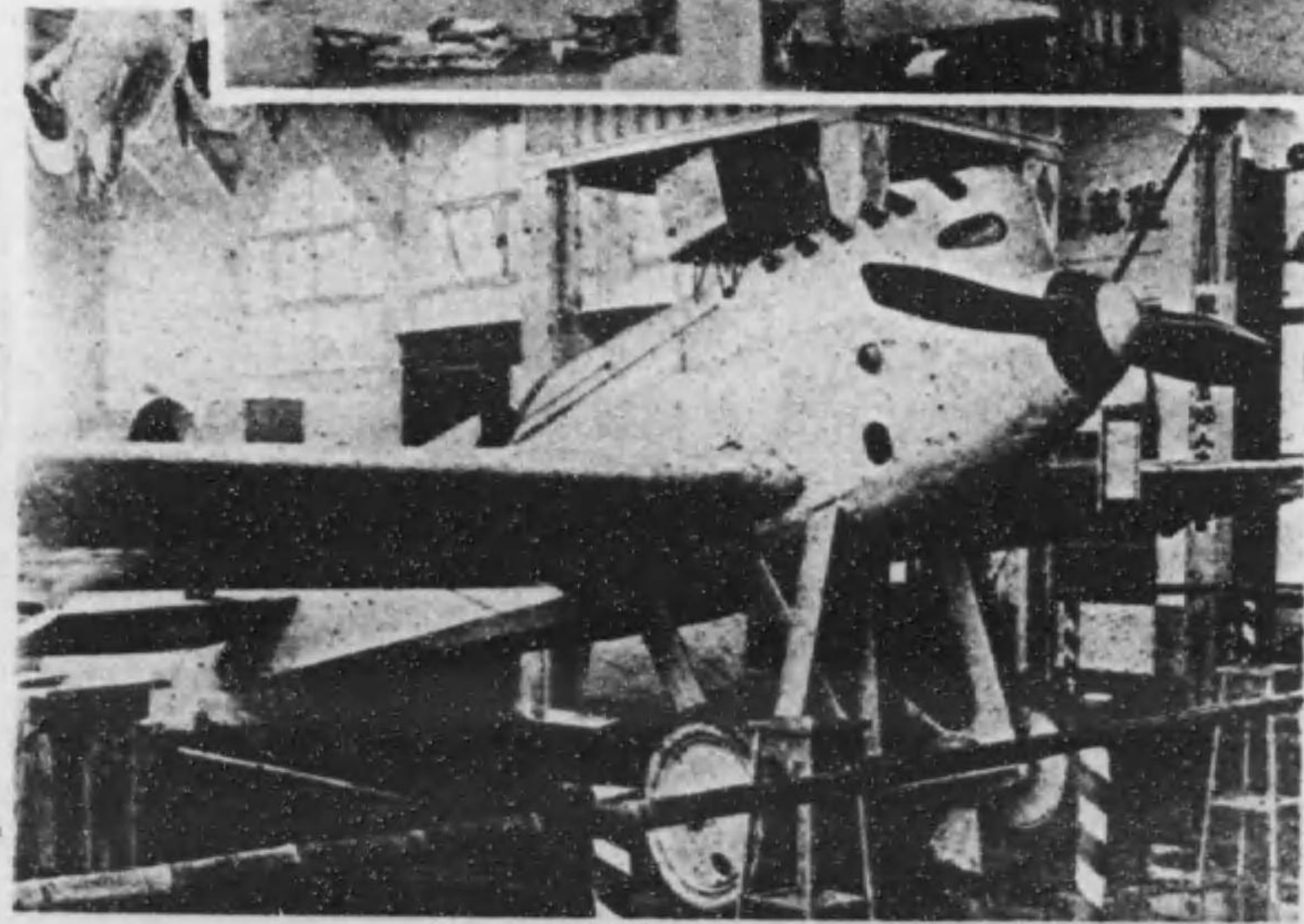
水上銀行



文庫館の電話の支店



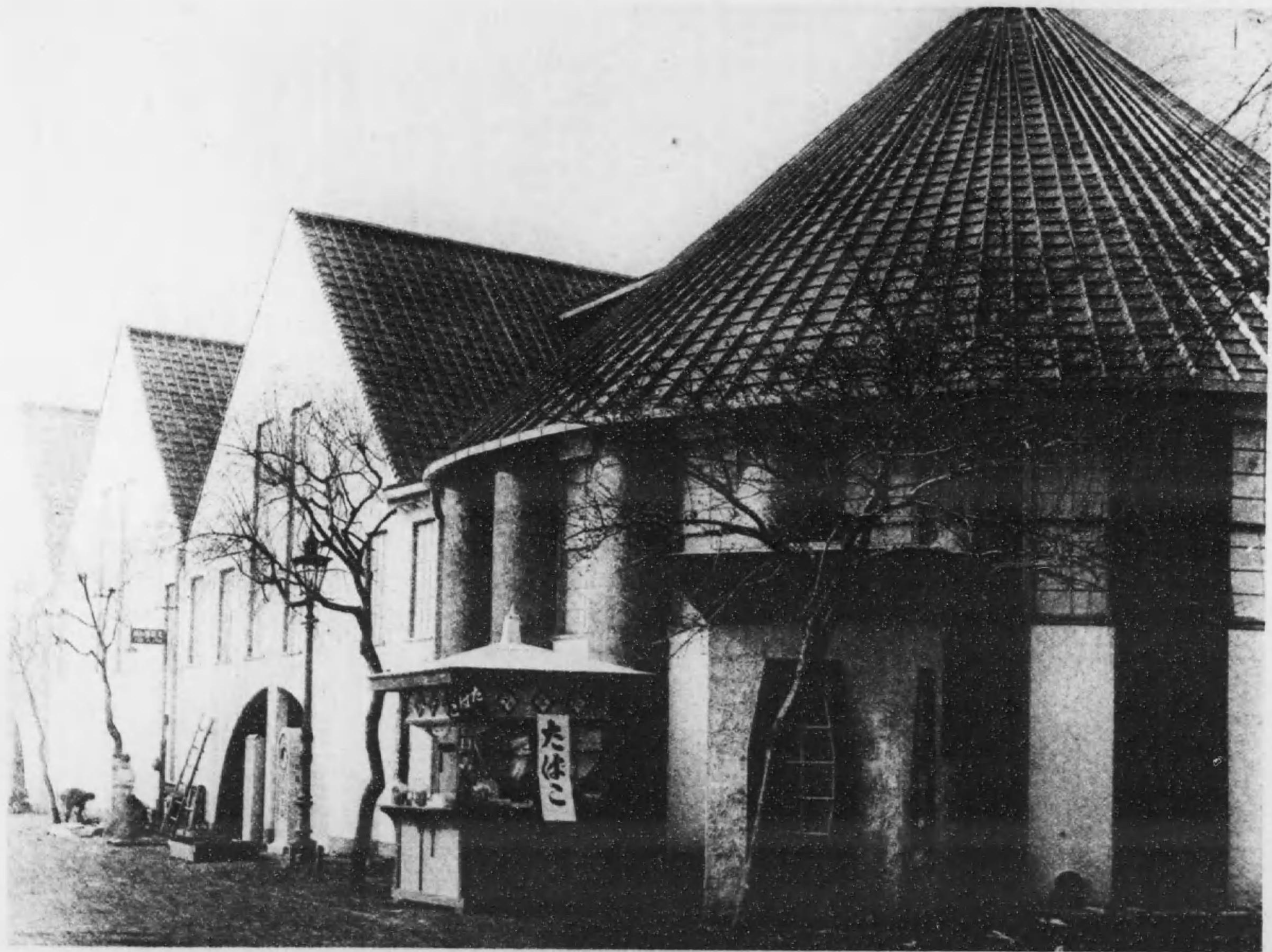
船倉



銀行機の設置機

鑛産館

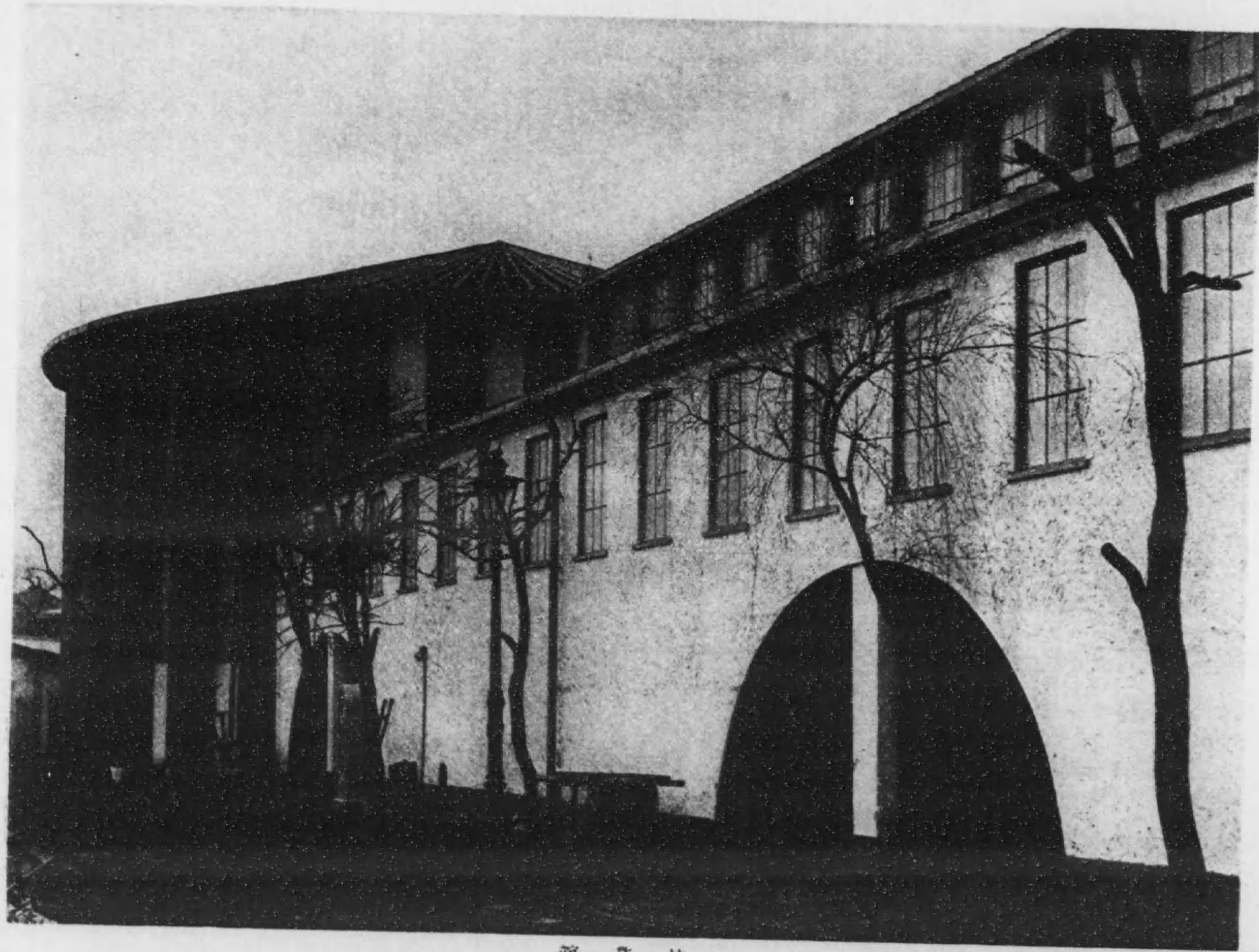
本館の重なる出品は地質と鑛物、金屬鑛業、石炭、石油、硫黄、黒鉛等の鑛業、其他鑛業用機械器具等であるが、館内はあちらにもこちらにも岩石や鑛石がごろごろして居て餘り趣味ある氣分を催さないが、八幡製鐵所の鋼鐵模型、日本石油會社の油田模型等専門家の目には参考となる事が多い。



龍 産 藥

林業館

本館は不忍池畔西南端に建設されたもので、鑛産館と同じ棟にある。重なる陳列品は林政及森林施設、造林、森林保護、森林利用と森林土木、其他加工せる木竹材、同林産物狩獵に關するもの一切であるが、館の内部は殆んど背の高い良材巨木に満たされて居る感がある。就中奈良縣出品の高さ十四尺餘もある春日燈籠は人の目を惹く。



館 業 林

つちや足袋噴水塔

第二會場入口不忍辨天東の池中に建てられた全部玻璃張の廣告塔で、其の頂上よりは常に四方に水を噴出し、夜間は内部に紅青等の電燈を點火し頗る美觀を呈する廣告塔である。

東京市賣店

第二會場入口正面より南方池の端に添ふて右側に三棟、左側に六棟建てられたのが、東京府聯合建設の賣店である。

名古屋賣店

不忍池畔南部の中央に在つて、主として名古屋名物の數々を即賣する賣店である。

各府縣の賣店

名古屋賣店の兩翼及び其の向側一帯が各府縣が思ひ思ひに出陳して居る賣店である。